

2. 聞き書きによる調査

(1) 調査の方法

地区における空間認識、自然資源の利用、生業の仕組み、民俗文化等の把握を行うため、「聞き書き」による調査を実施した。調査は、主に以下の内容で実施した。なお、調査対象者の属性に応じて適宜変更を加えた。

表 4-19：調査の項目

<p>1.基本属性 氏名・性別・生年月日・職業など</p> <p>2.個人の歴史(生活史・生業史) 調査対象者の生い立ち</p> <p>3.地区の特徴(現況・歴史・伝承・空間的特徴など) 地区の現在の様子、過去の歴史、伝承 地区の空間的特徴</p> <p>4.地区における生物多様性と持続的な利用のルール 地区の動植物の特徴、その持続的な利用(漁業、狩猟、採取)のためのルール ・生活や生業との関係が深い動植物 ・生物多様性の持続的な利用のためのルール</p> <p>5.自然環境、空間・時間(季節)の認識 地区における自然環境、土地利用、季節や時代の変化に伴う変化、災害等の歴史 ・山岳、河川などにおける特別な場所の名称や字名など ・土地利用や所有形態などの空間構造 ・季節の推移に伴う自然環境や天候の変化とそれに応じた利用のルール ・地区の環境変化や災害等の異変(過去の災害、言い伝え、迷信など)とその対応 ・聖なる場、禁足地などの利用を制限された空間の有無</p> <p>6.自然資源を利用した生産活動 地区における農林業を中心とする、自然資源を利用した生産活動 過去の状況、継承の有無 自然資源の利用に際するルール ・農業、林業、漁業、商業などの生業 ・上記に関連した、酪農、養蚕、養蜂、炭焼、山菜やキノコ類の採集、狩猟など ・製造(内職、伝統工芸品など)や、流通往来(渡船、人足、行商など)</p> <p>7.地区の自然環境等に関わる維持管理活動 地区で共有する土地や財産についての維持管理の仕組み 管理を担う社会組織の特徴とルール。 ・水源・水路、入会地、神社、道などの共有財産・共有地の維持管理の仕組み ・建造物に建設に係る木材や屋根葺材(茅など)の利用、石積み等の技術</p> <p>8.自然および自然からの恵みを敬う無形の民俗文化(祭礼・年中行事) 1.~7.の設問に関連する祭礼や年中行事など、無形の民俗文化 ・祭礼・行事の場と自然環境との関係、実施主体となる組織の特徴 ・地区の生業、特に山仕事、農業、漁業などに関係する年中行事は、生業の年間スケジュールと併せて把握し、自然資源の利用に対して感謝し、持続的な利用を期待する精神性が体現された活動を抽出</p>
--

「聞き書き」調査の実施にあたり、話し手の話の要点を記録する「1. 基本調査票」以外に、生物多様性に関して、資源の利用を整理する「2. 生物多様性の認識・資源利用のルール」、空間情報を整理する「3. 地図」、地区の年間行事を時系列で整理する「4. 年間スケジュール」、自然環境の維持管理を担う組織の特徴を整理する「5. 社会組織の概要」を用意した。各票の概要を以下に整理する。

表 4-20：調査票の構成

調査票	主な内容	ねらい
調査票 1	話し手の発言を記録する。 話の要点を記録し、関連する空間・年代・組織との対応関係を整理する。 またプロフィールの記録も行う。	「聞き書き」を取りまとめるための基本データとする。
調査票 2	地区周辺の生物多様性に対する認識を整理する。また資源として利用している場合には、利用に係るルールを整理する。	空間と生物多様性との関係、持続的な利用の仕組みを把握する。
調査票 3	土地利用、活動に関係する場所、共有地、過去の災害発生箇所等を記録する。	空間情報の整理を行う。
調査票 4	一年間の生業・行事・個人のスケジュールを整理する。	年間スケジュールと自然環境との関係を把握する。
調査票 5	年中行事、共有地の管理、生業に関係する組織の概要を整理する。	自然資源の維持管理を担う組織の特徴と、抱える課題を把握する。

調査票 1

調査票番号	話し手	聞き手						
1	タケノコ	3月	農作業の手帳、自分で食べる、	買取り・産物の販売	農産物の販売ルート、慣習	維持する生業	維持する生業組織	その他
2	イノシシ	春の祭典	農地を荒らす、肉は食料にする。	早秋祭りが開演している	村には肉を食料にする、村民は肉を食料にする	維持		
3	ウリ	秋	村に、買って買った。	買った。	村には肉を食料にする			
4	ヒトツバ	秋	買取り・産物の販売、	買取り・産物の販売、	買取り・産物の販売、			
5	サトウキビ	夏から秋	式祭典で栽培している。					
6	芋	夏	1日1日を栽培している	現在はイノシシ肉のみ	農産物が売れている			
7								
9	アザミ	春から夏	春から夏に咲く、売りに出す。、自家用にもする。	買取り・産物の販売	買取り・産物の販売			
11	梅干	冬・春	買取り・産物の販売、	買取り・産物の販売	買取り・産物の販売			
12	フグ	10月、11月	一本取りで取った、売りに出す。、自家用にもする。	買取り・産物の販売	買取り・産物の販売			
13	スナゴボ		買取り・産物の販売、	買取り・産物の販売	買取り・産物の販売			
14								
15								
16								
17								
18								

調査票 2

図 4-28：調査票 1～2

調査対象者は、「①地区の過去の生活、年中行事の状況を知る者、②自然資源を活用した生業に従事し、過去の状況を知る者、③地区における年中行事をはじめとした集落運営に詳しい者」を条件に、下表の人物に依頼した。

表 4-21 : 調査対象者一覧

地区	調査対象者			調査日
豊田市梨野地区		氏名	佐々木 純一	2010/8/18
		年齢	昭和 3 年生まれ (82)	
		性別	男	
		場所	佐々木純一氏自宅	
		氏名	鈴木 ちづる	2010/8/18
		年齢	昭和 9 年生まれ (76)	
		性別	女	
		氏名	鈴木 悠紀子	2010/8/18
		年齢	昭和 12 年生まれ (73)	
性別		女		
場所		鈴木悠紀子氏自宅		
豊田市古巣地区		氏名	新見 幾男	2010/8/19
		年齢	昭和 12 年生まれ (73)	
		性別	男	
		場所	矢作新報社	
		氏名	村山 志郎	2010/8/19
		年齢	昭和 23 年生まれ (62)	
豊橋市前芝地区		氏名	青木 正子	2010/8/3
		年齢	昭和 8 年生まれ (77)	
		性別	女	
		場所	前芝地区市民館	
		氏名	山内 康以知	2010/8/3
		年齢	昭和 9 年生まれ (76)	
		性別	男	
		場所	前芝地区市民館	
		氏名	山本 弘	2010/8/3
		年齢	大正 15 年生まれ (85)	
		性別	男	
		場所	前芝地区市民館	
	氏名	若子 正	2010/8/3	
	年齢	大正 11 年生まれ (88)		
	性別	男		
	場所	前芝地区市民館		

(2) 調査結果

1) 豊田市梨野地区

ア) 聞き書き

【聞き書き①】 山の柴とぼたの草を肥料に米づくり

佐々木純一（ささきじゅんいち）(82) 昭和3年生まれ

【長男以外は】

俺は梨野から大桑へ22歳のときに来た。婿養子だわ。

昔は勤めなんちとこはないだもんでな。今のような工場なんてとこはない。みんな百姓。ほいで、長男がおりゃあまあ次男、三男は用はないだもんで、居候は名古屋のほうへ出てくだわ。うちにおったっており場がないじゃない。おらんとも（私も）次男坊だったもんで名古屋へ行っとったぞ。ハイ、学校卒業（15歳）するから軍事工場へ行っとった。

名古屋で4年半ばか（ばかり）おった。鶴舞公園の近くだわ。今、昭和区の東郊通（とうこうどおり）に日本碍子、愛知時計、そういう工場がある。あすこらへん行ったわけだ。

空襲に3度出会った。おらもう3度焼け出されて裸になっちゃった。着るもの焼かれちゃってなあ。着たまま逃げるだもんでなあ。戦場行ったようなもんだ。爆弾が落ちる、焼夷弾が落ちる。大変だったな、あんな頃（ごろ）にゃあ。空襲警報が恐ろしかった。

ほいで焼け出されて、こんだ（今度は）中津（岐阜県中津川市）の駅裏の一軒家へ引っ越してや。中央線で名古屋から中津まで会社の荷物来るもんでな、中津の荷物受けるほうで仕事するっちゃうわけ。

ところが終戦になっちゃったもんでな。帰ってきてまたやることないで、百姓。みんなそうだったよ。工場焼かれちゃって、仕事がなくなっちゃったで。

【梨野の仕事】

今、スギの木もヒノキも植わっとる。植えたのは伊勢湾台風（昭和34年）後だな。

植える前は雑木林（ごつぼくりん）。炭を焼いちゃあ植え、炭を焼いちゃあ植え、そういうやり方で来た。親父が炭焼きやとったもんで。ああやれ、こうやれっちゃうもんで、お手伝いしたよ。木は何百種類ある。マキ（コナラ・ミズナラの類）っちゃう、どんぐりのなる木が一番いい炭が出るわ。今でも橋を渡る手前に平（平らな土地）があるわな、それ畑だった。その向こうがうちの山だった。柴刈り山。

大体そのぐらいしか仕事がなかつた、昔は。名古屋まで行かな仕事がないもんでな。

畑は、野菜もの作り。こんにやく（を作っていた人は）は大桑で3、4人（たり）だった。梨野もやとったら（やっていたら）。あんなごろ（あの頃は）、盛りでどこもやとったもん。百姓の仕事はいい仕事だった。

うち（生まれた家）は田んぼが多かった。5反分ぐらいあった。川ぐろ（川の横）に3反分ぐらいあったかなあ。米は売りよった。

川ぐろの田んぼは、梨野の衆ばっかだ。水は川から引きよった。

上の田んぼは大桑の水を使いよった。大桑から沢掘って、山について引いてってな。その水で田んぼ作ったり飲み食いしたわけだ。この用水を引いて初めて梨野に田んぼはできた。明治になつてからだろうなあ。それまでどうやって飲んどったしらん。そこらの出水で暮らいたら。田んぼなんてできなんだすら。それで川ぐろへみんな出ただわな。

用水（路を）をみんなで出てさらえるだ。春もいつもかもやらんならん。砂が溜まるもんでな。

だけど今は、大桑川の、梨野へ入ってくるとこ、一番先っぽに砂取り場を造ったるもんで、割合、いいだ。ふた開けるとザーッとみな砂が流れてっちゃうように。ほいでまたビシャーンと閉めると水が溜まるようにね。

貴重な水。これ一本しかないもんでな。日照りになると足りなくなっちゃうだ。今みたいにU字溝じゃないずら。山掘ったままだもんで、漏ってっちゃうだわ。今みたいなものはないもんでな、竹を割って節をきれいに払って、そいでつないで水を引いてきただ。それが一番早道だ。昔からのならわしだ。梨野の衆みんなで造っとるぞ。

どうして住み着いたかな、こんな急なとこ（傾斜地）にな。水のないようなとこによみんな生活したもんだなあ。10軒もあるだがん。日当たりはいいなあ。日当たりがいいでお茶はうまいぞ。お茶も余りゃ、ちっとは売るわな。

【田んぼの肥料 柴】

田んぼの肥料はね、今みてい（みたいに）に化学肥料がないもんで、ぼた草^(*)やら山へ柴刈りに行っただぜ。柴刈って来て、柴切って、田んぼへ切り込んだだ。そいつを馬で起こいたりなんかするだ。

田んぼに入れる柴、大桑の衆も、梨野の衆も、梨野から大桑行く道中の川ぐろで刈ったもんだぜ。昔柴刈りよったとこ、今、青木山（スギ・ヒノキの山）んなっちゃうとるわな。昔、ほとんどが柴山だっただ。そこで馬あ食わせる草も刈ったりな。

入会（いりあい）のとこ多かったなあ。共有山（ざん）っちゃう山があるがの。個人の山もあるだ。その方が多いら。ほかの衆は絶対に入れん。

柴刈る時期は5月。

細いもの、1年ものを、鎌で刈りよっただ。藁（わら）の長いやつを縷（な）って、結んで、「すがい」っちゃうものを作ってなあ。それで柴を縛っちゃあ、山転がして来（き）よった。コロコロコロ転がしてくるだ。下へ落として川ぐろへ集めて、背板（せいた）っちゃう、板でできた背中に乗せるやつで背負（しょ）うだ。

それを押し切りちゃうやつで切るだ。田んぼん中へ押し切りと柴を持ち込んで、撒（ま）きいいようにとこるところで切る。田んぼへ切り込んだだ。

そいつを馬で起こす。そんなやつが入るとるもんで、そりゃあ馬のかじ取りはえらかったぞ。馬は速いしなあ。言うこと聞かんでタッタッタッタ走っちゃうだもんで、ついてけんだわ。足が痛くて。そんな頃（ごろ）にはいい靴なんか、あらへんもんで、裸足。かなわんときな、足袋履いて入るだ。足が擦れちゃうもんで。ほらあそうだわね、山の木やなんか、太いものが入るだもんで、そりゃあ痛いだぜ。

足袋は昔からあるぜ。ズボンもあった。昔はももひきっちゃうのを履いて百姓しただ。上は普通のシャツ。頭はくりくり坊主だったなあ。暑かったで笠もかぶったわいなあ。笠はうちでは出来ん。菅笠売りい（に）、来るもんでよ、そいつを買っちゃあ、かぶりよった。岐阜県から担（かつ）いじや来よったよ。

*（注）ぼた：傾斜地の段々になった田畑の土手。「ぼた草」はそこに生える草。

【ぼた草と馬で堆肥づくり】

ぼた草はいっくらでも生えてくるでなあ。こころ辺にもいっぱい生えとるわなあ。今始末に困るが、ああいうやつを積んどいちゃあ、田んぼや畑へ入れよっただ。秋刈って、干いといて、馬に食わしたりするだ。干さな、かなわんわ、生ばっかじゃ。すぐ（馬が）踏んだくっちゃうでう。

馬屋（まや）へ入れて、馬に踏ませよったわなあ。田んぼや畑へ入れる肥つくり。馬はいいとこだけ食べちゃあ、あとは踏んだくっちゃう。そいつを、春、畑へ背負ったり田んぼへ背負ったりした。冬の草でも堆肥がたいへんあるよったぞ。一年中の堆肥だもんで、大変なものだ。

田んぼのぼたは、ほんとは全部上の人のもんだけどな。ぼたがあつて田んぼができとるだもんで。だけど、下の人もそれじゃあかなわんもんで、3尺ぐらい刈るだ。そいつは刈ってもいいだ。草の種類はまあ、いろいろあるわなあ。足りんようになれば山に行つてつかんでくる。ぼたもそうそうないもんで。

【草刈場】

草刈場は、それぞれで個人山でほうぼで（あちこちで）刈りよったでな。どこっちう決まりはないだ。自分の山で刈つて背負ってくる。

うちの（生家の）山は大野瀬町の上郷っちうとこだ。山の中に梨野から上郷へ出る一本道があるだ。今でもある。1時間ぐらいかかりよった。全体こら（宮ノ越）そうだっただ。広いだ。今はみな（スギ、ヒノキが）植えてある。

おれの在所は山が広い。柴をよう背負つたもんだ。そこ（山中）も柴刈り山だっただ。今青木山になつちやつただ。兄貴が植えただ。俺居候だもんで。ここへ来てからその山をもらつてな、俺、炭焼いただ。そこまでは30分ぐらいのもんだ。

【蚕】

梨野の畑はあるだけしかないぞ。上のほうはだんだん青木山になるわ。耕作ができんとこ、青木山にせなしょうないもん。

昔はいろいろ作つとったぞ。豆、麦やなんか、たんを作らん。昔はなあ、養蚕（ようざん）ちつてお蚕飼いよっただ。お宮のこつちのほう、今青木山になつちやつとるわな。そこらは全部桑畑だっただ。ほいでお蚕飼いよったでな。

うちが広くなけなたと飼えん。お蚕飼うとこばっかじゃいかん。寝るともなけなしょうないけども、いっぱいならお蚕と一緒に寝よったわな。ほいで桑の置き場もなけにゃあしょうがない。桑積まんならん。

晩に桑切つてきてな、うちへ入れて、夜（よう）なべにダーツと桑の葉をすっこいて（枝からむしり取つて）、明日の桑を作るだ。ちょうきに（まともに）寝なんだぞ、お蚕の桑寄せでな。忙しかつたぞ、お蚕飼つとるうちは。昼間も桑採りよ。田んぼも畑もいい加減なことだわ、忙しいもんでな。

養蚕があつたで食えただ。年3回飼つた。春夏秋と。初めは5月の終わりごろからだな。で、暑い盛りに、夏蚕（なつご）があつたら。ほいでこんだ秋蚕（あきこ）つてやつを飼いよっただ。4回は飼えんな、日にちがなくて。3回でいっぱいだった。3回飼うと、今度秋の田んぼ刈りになるでな。そうそうお蚕ばっかりについとれへんだ。今みたいに田んぼ刈りにも機械じゃない、手で刈るだでな。5反分からありゃあ、刈つて干すのにまあ1月ぐらいかかりよっただ。

【大野瀬神社のお祭り】

昔、子どもの時分に、いっぱい商人が来よったぞ、おもちゃ持つて。賑やかだった。

子どもがいっぱいおつただ。おもちゃ屋さんや菓子屋が来る。梨野だけのお宮じゃないもんで、大野瀬中の人々が来よつたもんで、大勢だったぞ。

子どもの時分には、芝居はやらなんだなあ。青年ごろにはやつたがな、素人芝居をな。

■働く

【田植えの共同作業】

田植えは共同だったね。その時分に「もよい」っちう言葉使ったけど、田植えに来てもらやあ田植えに行って返す。結（ゆい）があるで行くだ。順番は田ごしらえの都合じゃない？

【牛、馬、ヤギ】

まだその時分には牛が田ごしらえの中心だったね。馬はその時分にやあもうすっかり変わって牛だった。

ヤギもおったよ。わしは長男が弱かったもんでね。胃腸障害起こしちゃってね。これじゃあいかんちって、最初は上郷の乳牛からもらって飲ましてったけど、追つつかんもんで、ヤギを飼って飲ましただ。今じゃ長男も大きくなったけどね。

【耕運機】

この部落でここ（鈴木悠紀子さんのところ¹）が耕運機が入ったのが一番早かっただ。

私が耕運機を使うようになったのは、今の長男が5つぐらいのときだったでね。耕運機に乗っては、畑座らしといて、こんにやく掘っただわ。牛んぼう売ってその代金で耕運機買っただ。ほんだで、うちで耕運機にしたのは、昭和34、5年だね。

それよりここ（ゆきこさんのところ）は早かっただね。昭和33、4年ごろ耕運機入ると思う。

【用水と田んぼ】

「ひょうがさき」は地図に「ひふがさき」って書いてあるだらあけどねえ。その「ひふがさき」の田んぼは広いだよ、結構。「西のくぼ」に「なかのにし」に「いでや」に「ひがし」（屋号）と作ったらあでねえ。湧水としては規模大きかっただでねえ。

「おおかさ」は「おおくわさわ（大桑沢）」ってのが本当だけどね。しゃべっとるうちに「おおかさ」にしちゃうだわ。用水は水をせきとめて水の通れる落差でもとを入れるだもんでね。

今、用水から直接取れるようになったもんで、もう水の問題はなかったような気がするがね。昔はあったですな。

【稲刈り作業】

粃を背負って川越しするにはカマスだった（カマスに入れた）わね。川にはちいとズクのいい（精のある、達者な）人は一本橋を架けたわね。お宮の下にちょっと広いとこがあって、そこへ、カマスに入れた粃を置いといて、各家庭へ背負い上げただね。重労働だった。

はざにする竹はほとんどあるね。河川敷にあるやつだから、ちったあ採ったって誰も何とも言わん。

【川】

集中豪雨があってから、川が変わっちゃったねえ。東海豪雨だわ。まあ今魚もだいぶ、自然のものがおるようになった。

¹ 鈴木ちづるさんに対する聞き書きは鈴木悠紀子さんの自宅の玄関先で悠紀子さんとともに行いました。

【こんにゃく畑には草】

こんにゃく畑には、(畝の間に) 草を入れるだけ。草(雑草) 押さえにもなるし、ばかに乾燥しても成長に悪い。私はそんなに山がないもので、作つのもわずかだけど、秋、木の葉を拾っておいて、その木の葉を一面に散らかいときゃあ、役目を果たしてくれる。

【山の境】

山の境を私も見たもんじゃないし、長いことここにおるわけじゃないけど、山がとどこ分かれとったり、田んぼがほうぼに散乱しとるっちは、昔ね、若い人たち、成長盛りの衆が、楽しみがないからばくちをやっただって。ほいでばくちで負けたり勝ったりすると、「俺はほんじゃあの山今度手放すわい」っちうようないきさつで、田んぼも畑も山も、ポロ損(ぞん)になっちゃった。当時それに強い人は山もたくさん今も残とるって。田んぼもいとこ持とるって聞いたことがある。

わしは比較のおじいさんについて下刈りに入とったずら。だから、これは地蔵(屋号)の、これは西(屋号)のだよって、そのぐらいはよく分かるだわ。お前どうしてそんなに知とるだいて言われるから「お前んとこの山が欲しいもんでう。おじいさんについて仕事に行つたで知とるだよ」って言ってやったけどねえ。

およそね、山の嶺(ね)とかそういうのを目標にして分けたみたい。

【薪雑木炭焼き】

昔は金肥(きんぴ)を使うっちはないから、柴刈って田んぼへ入れて、それが肥やしになった。

植林したのは、スギ、ヒノキがその時分に値段がよかったから。

雑木は炭焼いたぐらい。

薪(たきぎ)もそりゃ、しばらく、売るにゃあ売ったわね。

12月に入ると、もや拾いだ、薪(たきぎ)寄せだをやったわね。

焚き付けに細いのが必要なんだわ。だで、もや拾いっちは。拾って、扱いやすいように束(そく)を作るだわ。炭焼くようになると、細いのが大変できるもんで(炭の原木を採つた後の小枝が残る)、そこで拾ってきたわね。もや。

だんだん生活しとるうちには世の中の仕事も変わってきてね、たまには大きなのこぎりを買って、製板まがいのことうちでやって、薪の寸法も決めとって、切っては、太けりゃ割っては、干して家(や)ぐろへ積んで、たくさん積んどきゃあ冬が越せる。そういう暮らしに変わったわね。その当時の風呂はへそ釜で、そこへ入れて燃やさんならんから、あまり(薪が)長いと、で一んと落ちちゃうでしょう。先が燃えちゃうと軽くなるら、ほいで裏が木がステーンと倒れちゃ何にもならん。やっぱりその釜に合わせて薪(たきぎ)も作るわけ。木はどんなもんでもいいけどね。栗じゃあだめだわ。

でも今のほうがいい生活になったねえ。炭焼きするっちは、ほんとに、うちい出るときはまともな風(ふう)して出ていくけど、帰りはひざ小僧が出ちゃうほど破れちゃってね。帰って来れんほど。(裾を)寄せ集めて、フジづるで縛って帰るなんちうことがあつただよ。

今ほんなことないけどねえ。山へは行くつきゃなくなって楽なつたわね。

【財産区】

財産区議員は一応ある。財産区、共有っちつても、割つたるもんで、割り山でもらつとるとこだ

っちうところからも、青木が植（い）えたりや切ったりしとっただよ。

どこかへ転出するときには返（かや）いとく。

今は豊田市になったから、どうだね、その財産区っちうものが今どういうふうな形になっとなるかわからん。

【イノシシわな】

（わなに）イノシシ2回入ったことがある。捕れたことがある。だけどねえ、あれ入るとりょうらんならんら（さばかないといけないでしょう）。勤めの衆がりょうする（さばく・解体する）ってことは大変なの。ほいだでもうみんな嫌（や）んなっちゃって、まあやめまいかって。ほいで3回目に捕れたときには、商売の人に連絡して持ってってもらった。

（平成8年）それなりに補助があった。

イノシシは昔これほど悪いことせなんだね。結局山に栗の実とかどんぐりの実とかがあったんじゃないかね。森林、植（い）え込み（人工林）ばっかでそういう雑木（ざつぼく）がなくなっちゃったから、里へ出るようになっちゃった。

電柵（電気牧柵）の柱を取っちゃわへんかっと思うほど掘るもん。

あのね、わし、晩の4時ぐらいに電柵の下を（草を）刈りい行っただ。草あ刈って回らあ（草を刈って回ろう）と思って、ちょっと触ったらドーンと来たに、ほい。そりゃあイノシシ騒ぐわ、あいだけドンと来（き）や。鎌でこうやって来よって触っただね。カーン、まーあ、びっくりしたよー。

ここ（ゆきこさんの家）は個人個人で（電柵の設置を）やっとする。私んどうの、この下はね、共同でやっとする。補助がどういうふうになっとなるかは知らんが、一人一人電気を設置するのも大変だもんで。わしんとこもみんな仲間に（共同で）やらまいかてって、下はみんな仲間。

【たけのこ】

たけのこは今じゃあシシのほうが早いでね、たけのこがとれんじゃわ。よう知っとなるだよ、シシもね。

この木の栗はいつごろ落ちるっちうことを知っとなるの。ほんとにこれがシシのやり方かと思うほど美しい作業するよ。仕事はきれいな仕事するよ。栗の木はまあかなわんでわしは枯らいちゃったけどねえ。

■食べる

【山菜】

今、地元の者がワラビ採る、フキ採るなんちうことは考えられんね、よそから来た人が完全に採ってっちゃう。

その気になって山を下刈りして造りゃあ（山菜の採れる）山ができる。今んとこナカネとネドシ（屋号）と西（屋号）の区分は山ができる。その気んなりゃあ、ゼンマイができる。

【煮味噌・柴茶】

田んぼの仕事のとき仕事を区切りにして御飯食べにうちに帰ると、能率が違うでね（能率が落ちるからね）。

稲刈りのとき一人ぐらい煮味噌を作る係ができるわけだ、大勢で作業しとると。煮味噌は味がいいだよ。

お茶なんかも沸かしてね。柴茶って言うだけどね、火を焚いて、(お茶の木の)生の葉っぱをやかんに入れて煮出す、それでお茶飲むとまたまたうまいだねえ、においしいし。

【おひら】

年取りの料理。入れるものの数は5種類か7種類。豆腐、ちくわ、こぶ、大根、にんじん、ごぼうと、揚げとね。あるもので7色(いろ)入れりゃあ、「まあ、こいだけ入れりゃあいいか」ってね。

まあ今はいつでもどこでも(何でも)買えるもんでいいけど、うさぎも食べたよ。うさぎ飼ってのはね、うさぎをりょうする(さばく)職人さんがあってねえ、そこへ頼んどくとりょうって(さばいて)くれるもんで、持ってったよ。昭和25、6年頃。

【こんにやく】

こんにやくはさしみにしたりね。白和えもやるわね。そりゃあ買ったこんにやくよりはうちで作ったこんにやくのほうが粘りがあるで、口あたりがいいでおいしいわね。石灰を使ったこんにやく、できが硬いねえ。

昔はね、こたつで当たった炭の灰を出して、煮え湯をかけて落といた汁でこんにやく作った。

【魚屋】

魚を売りに来る人いたけど、長いこと来なかったねえ。じきやめっちゃった。一色(愛知県一色町)のほうから、魚屋が来た。

【お茶もみ】

お茶もみしただねえ。夜、その日に摘んだやつだけはね。手作り。ほとんど手作り。考えられん。今若い人にほんなこと言ったって、とろいことやつとったのうなんてってことになるね。言わんほうがいい。

【薬草】

ドクダミなんかはみんな採っては干しおるよ。わしゃあ踏んだくって、これは薬品だでなんて大事がれへん(大事にしない)。

ほいでも今年もお盆のちょっと前に孫の連れが来て焼肉大会やつとったけど、「ヨモギ餅があるでそれを焼いて食べるか」ってたら、「ふん、そいでいい、そいでいい」ちうもんで、ヨモギ餅出して焼いてやってね。よーろこんで食べてったよ。ほいである日にゃあ、夕べのお餅でお汁粉作ってやるわ、って、お汁粉こしらえてやったら、お汁粉もおいしかったなって、ほとんど食べてっちゃったわ。

【麦】

麦も作とったねえ。はあ、そうだねえ、割合ちうことを言うと……、8、2だね。お米多かったよ。麦なんか2割だったよ。

【朴葉】

朴葉は使わんねえ。

ほんでも、たまたま昔やったことの覚えから、変わって面白からあと思って、朴葉の中へ赤飯を入れて包んで出いたら、何だこりゃあ、なんてって子ども言っとるけど、ほいでも食べてご

らん、おいしいにったら、やあこりゃあ意外といいもんだわいなんで子ども食べたけどね。

一株ほしいなと思って、うちの山でこいできた（掘ってきた）けど、つかんじゃった（根付かなかった）。わし、気まぐれだもんで、時には変わったこともできるかなと思って。ちらし寿司なんかも朴葉の中へ入れて包んで出してやりゃいいだよ。香りが出るねえ。ありゃあ何か入れて包みやあ匂いが出るよ。

■ 祈る

【地蔵】

昔は地蔵様は組のものだったらしいじゃない。今は「地蔵」（屋号）がうちの地蔵様だとしとるでいいけどね。お供えは地蔵様のうちでやっとするみたい。組でどうのなんちことは言わんねえ。

【旧墓】

旧墓は個人の。一番左っかわのお墓は、この下の「地蔵」（屋号）のお墓。その次にちょっとだんこになってまとまったお墓が、うちのお墓。ほいでこっちの奥がここのうちの。

うちが古いとこ 20 体ぐらいはおいでするわ、石塔が。

昔より今は手入れしよるよ。

それからどういふまとまりがあったか、どういふ指令があったのか、新仏はこっちで、みんなそろってお墓ができとる。どこが誰のにするかなんちうことは、争いしたか相談したかでお墓が決まっとる。高いとこのお墓の人は用地代が高かっただしね。われわれみたいにどん底は安かっただっちうよ。あれでもお墓の土地を買ったんじゃないかねえ、そういう何かの。

私んた、旧墓はこっち。ほいで新墓っちうのは、道路の下、落ちてったとこ。両方あると草刈りがかなわんねえ。今わしらがやるもんでズク良く（熱心に）仏様参り行っとるけど、それから先はどんなことになるか分からんよ。若い者はあんまりお墓や仏様は大事にせんでね。

【水神さま】

お水神さま。新しい建物。去年の今か頃完成しただね。

水は出とらん、あすこは。ここの部落に用水を通すときには、その部落で先立つ人が必要だっただわ。ほいでその人が先、水流いて来（こ）なしょうないっていうとこで、掘って出かけてきて水が来るようになったもんで、お水神様を飾ったじゃないかなあ。

【庚申さま】

庚申さまちてね、二百十日に拝む。酒のつまみは柿の種とかソーセージとか。まず柿の種ならいいね。昔はどうやっと思ったかねえ。

【大社】

ほいで、ここには大野瀬、区の大社があるわね。神社が。なんせ、この部落は一番早（はよ）からこういう生活の始まりをしとったじゃないかねえ、お宮があるってことはねえ。

【梨野だけの神様 おしゃぐりさま】

梨野のお祭りっちうとね。

石塔って言うていいか、なんか、ちょっと大きい石で彫ったやつ仕立てて、そこを祀ったる。ちゃんとした建物はないだよ。畑の隅に、丸っこいような石を台にしてもらってね、大きいのが立つ

とる。「おしゃぐりさま」っちう。お注連縄のどえらい立派なやつをやったるわ。

古いだよ、ここは。

大祭は10月の初め。

中の九日（くんち）ってわけだけど、祭る衆の都合があつて、ちったあ前後する。中の九日になるか、お九日になるか、後（おと）九日（ぐんち）になるかは知らん。

その、お九日だ、中の九日だ、後九日だっちうことを呼ぶのはここだけじゃない、上郷も言うし、月瀬も言う。後九日は月瀬が主。だで、どういう意味があつてあめに同じことをみんな言うのかなあとわしは思った。暦で9日をおくんちっていうし、19日が中の九日、29日が後九日。意味知らんどってしゃべっとるだ。

オードブルとお寿司を取って、去年は、お汁粉に、とろろ汁に、餃子も取ったり、とうがん汁作った。村社で。村社は新しく建てて4、5年なるかね。社務所と仲間（共同）だ。

昔は重箱の中に、ちくわや菓子入れてきたり、里芋早めに掘って味付けてきたりねえ。寒天料理を持ってきたりね。

今はオードブルで取っちゃあ、みんな世話ない（簡単だ）もんでねえ。みな一緒だでね。座るに、およそグループが3つぐらいになるわけだわ。みんな一緒のものが3つそろうだで、あっちからもらってくるわ、なんちゅわけにはいかんだよ（料理を交換し合つて楽しむことはできないんだよ）。

今は一人も子どもがない。

【田の神様】

昔は田植えの後に田の神様ちつて、ちょっと祀るわね。家ごとで田の神様ちことをやるだわ。大黒様、えびすさまを祀つてある部屋で田の神様を祀るだわね。

お供えは、田の神さまちうと赤飯だわね。

やらにゃいかんねえ。今じゃ「ああ田植えが終わつたで、そいじゃあ食事会に行つて来（こ）まい」なんてつて、岩村（岐阜県恵那市岩村町）のあたりまでとんでつて、金払つて食べてくるだ。ばっかみたい。

【刈上げ祝い】

稲刈りの後は刈上げ祝いてつて。

いちおう刈り取り、刈り上げ祝いつちうことも、うたうにゃあうたうだよ。

お供えはおはぎだわね。小豆煮る間がないとき、きなこだけで済ますこともあるけど。

春と秋の彼岸にお水神さまに。新しく建つたところ（村社）で。心経をあげてね、

■住む・着る・そのほか

【家のつくり】

カヤ（ぶき屋根）の家も昔あつた。2階が中二階だわね。うちも、昔は草屋根だつただね。

2階への窓は空気の交換ちうことをするための欄間だかもしれんに。蚕の糞も落といたりせにゃならんかしらんけど、空気の入れ替えのための欄間も4カ所あるよ。そういう機能を働かしただよ。お蚕さまさまだつたもんで。桑をやるときのかごろにの音が（大きかつた）ねえ。

【こたつ】

電気ごたつで過ごせるのも年内だね。年が変わりゃあ寒さが激しくて、電気ごたつなんかちよろ

くっておれんわ。掘りごたつでパッパと火入れにゃあ、寒くておれんよ。炭焼くなんちうことも大変だもんで、どっちみち買う段になりゃあ豆炭のほうが楽だ。手がかからんで。本当は良かないだよ、臭うから。

今年はまだこたつをおこさんどこと思ったけど、やっぱり、寒いもんで。

ストーブは焚かんね。朝冷えるときがあると焚くけどね、御飯のときぐらい。こたつがあったかいからこたつへ入っとりゃあストーブなんて要らんね。

【馬喰と結婚のこと】

昔はね、牛を飼ったんだわ。農業も牛でやとったから、ばくろうさ（馬喰さん・牛馬の売買の仲介をする人）っていう商売しとった人がいたわけ。各家庭で牛を飼つとると、ばくろうさが来て、年齢が釣り合う人がおると話をつけちゃあやったり、そういうお付き合いしとただねえ。

【着物】

用事ができて稲武へ行くには、普通の和服にちょっとした被布（ひふ）のようなものを着て行ったじゃないかねえ。絹の着物のような上等なのは普段には着なかつたよ。木綿だったねえ。

ほらもう絹もあつたに、私たちのときはねえ。おかしなもん。絹はよほど高級なものかと思つたら、絹は長く置くと、もせて（傷んで）何にもならんで早く出さにゃあだめだつて。わしそんだもんで、娘の結婚のも、全部出いたけどね。うまいこと言うもんで、みな金にならんだわ。何十枚も絹があつて。売っちゃつただわ、娘のやつね。娘がもう亡くなったもんで。そんな若い子の着物をわしが惜しんどつたつてしょうがないもんで。で、そういうことをする人があるつちう広告があつたもんで。そこへ連絡したら、とんできてくれて、持ってつてくれたけど。何十枚もあつたけど、金にしたら1枚5千円。新しいのを1枚も買えれん。惜しんでもしょうがない。売れただけいいかと思わにゃしょうがないと思つて売っちゃつたけど。あつても着んしねえ。

【買う生活】

まあ何でも買う生活だね。年寄りがおるで何でも作つてあるだけ、これ若い世帯ならものは作らんに。果物も仏さまに上げんならんで、しょうないで買つても来ただが、子ども食べるかつちや「要らん」。「持つてくか」「いらん」。だ一れも喜んでかん。巨峰まで、「要らん」。何なら要るかしらん？ ジュースは飲むかしらんけどね。

【畑】

畑はやめよつて言うで（言われるから）まあやめなあいかんと思ふ、ほいでも、ほいでも、ほいでも、と思つちゃあ作つとるだけ。「ほいでも商品」ばっかだ。

今日の仕事は暑いからねえ、3時ぐらいまでは涼まにゃいかんと思つてやめただけどね。やりたくてしょうがないだよ、仕事は。

雷が鳴つとつたがびっくりしてやめちゃつたね、降らんじゃつたね。降るかと思つてここへ遊びに来ただよ。東夕立は3年待つても来んちうでね。

【聞き書き③】 春夏秋冬、耕して、おいしく食べる

鈴木悠紀子（すずきゆきこ）（73）昭和12年生まれ

【同じような山村から嫁入り】

設楽町の田口、やっぱりこんなようなどきだけね、そこから嫁に来た。私のおばさんのところへ出入りしとった「ばくろうさ」が取り持ってくれた。年齢が23歳過ぎたもんで、まあええ加減に行かにはやあと思って、自分で、まあどこでもいいやって。昔は23歳なら年寄りだよ。だで親戚あいても何にもない、ただふっと来ただけ。

来てみたらえらいことだった。田んぼは川越えて下でしょう。春は木植え。夏になると下刈り。それが嫌（や）で。そいでまたその間にはお蚕飼う。子どもの時分から、夏休みになると母親がお蚕飼うよっちっちゃ手伝わされた。お蚕飼うとこなんて絶対行かんぞと思った。そんなこと聞いてなかったもんで、来ちゃったらさ、えらいとこ来ちゃった。でも、ここやめて帰ってくってことは思わなんだね。来た以上は何が何でも親に迷惑かけちゃかんと思って一生懸命おっただよ。

■冬

【雑木林で焚き物寄せ】

うちの山はこの丘の上に多いね。（持ち主の）区分なんか細かいようなことは言えん。こいつは隣、これうち、これ隣、ちうようなもんでね。田んぼの上にもちっとある。高嶺（たかね）ちって一番天井。私来たとき、そこ植林行っただよ。今まあ境も分からんぐらい、しとなっちゃった（大きくなっちゃった）。そいでどこがうちの山だか分からん。ここ植林しただねえって言っても、さっぱり境が分からん。今、若い者は境（さかい）分からんね。まあお父さん（夫）と自分は、昔行っただよ。隣と年数も一緒だと分かりにくいけど、大体無茶苦茶じゃない。

入会（いりあい）の山もある。それを（土地ごと）分けた山もある。区のほうへ税金払っちゃおるけどね。個別にいろいろ割ったるね（各家に配分してある）。どっか変わっていく（転出する）ときには区へ返（かや）いといていかんなんやね。

昔は、スギやヒノキを切って売るときあるじゃん。お金がほしくなると切るじゃんね。ほいでその後植えた。

植林する前は、ボロだったね、雑木（ぎつぼく）があって、それを切ったりして。ほやあ山へ行きゃあいっぱいあるもんね、雑木は。

雑木は何にもしなかった。薪（たきぎ）は遊びで売ったぐらいでね。御飯炊くからお風呂焚くから全部薪（たきぎ）だったもんだい、12月に入るとハイ焚き物寄せだねえ。正月前までね。そうなんだかんだって毎日やらんでもいいけど。

高いところからずって（引きずって）きた。立っとうの木を切っとうてね。それをある程度の長さに切ったり。私んとうはね、太い木を切って、枝を払ってね。フジづるで縛って。それから、スギやヒノキを切ると、枝やなんかがあるら。それを束に縛って持ってきた。ヒノキはなたで削って、棒のとだけ持ってくる。葉っぱは持ってこない。落といてくりゃ、肥にもなるしね。

今は何でも電化になっちゃって、町と変わらんね。なんにも変わらん。今大体、山にや行かん。

【電柵をくぐるイノシシ】

今、イノシシが里へ出てくるだねえ。まあなんしよ、イノシシがおっしょうがない。もう畑だろろうが山だろろうが田んぼだろろうが。電柵（電気牧柵）やとりや電柵のそばまでほじくったるね。電気を昼間入れてないと、子シシが来て跳び回っとう。子は電柵の下くぐってっちゃう。出るとき

もそのまま出て来（こ）れる。ほいで夜昼電気入れるようにしたる。

お父さんに行ったとき、ばかにあそこで稲が動くでって見たらシシだった。「カーッ」てったら、慌てて逃げてった。この線の下、出入りできるだ。親は絶対に近づかん。

【炭を入れたこたつでお正月を迎える】

今だってこたつやるよ。電気ごたつじゃ当たった気がせんもんで。零下何度にもなるもんで寒いじゃない。いつも掘りごたつだね。ほいでも子どもんたあ好きがるねえ。これでやっとうちへ来た気がせるってコタツで寝とるけどね。

今は豆炭が主。ガスが発生するで、なるたけ窓開けといちゃあ。そりゃあストーブ焚くけど、朝寒いときなんかだけでね。顔がポッポッせるようなこと嫌いだもんで、ただ自然のところでこたつへ当たったりゃあったかいもんで。体があったかけりゃ、そんなに温度がなくてもいいもんで。

こんにゃくはくず（芋）で作れるよ。掘つとるうちにけがして（傷つけて）切ったりしたら、そういうやつでうちで作って食べるよ。ほいだし、要らんくなったようなこんにゃくを、まあ畑へ植えるのいやだなあと思っほかへ植えとくじゃん。それが大きくなって使ったりね。固めるのに使うのは食用石灰。どっちも味が違うね。石灰は硬いね。好き好きだけどね。で、そのゆでた水に漬けたる。炒めて砂糖醤油で食べたり、鍋に入れたりする。白和えもたまにはやるかしらん、お正月ぐらいだねえ。おいしいけど、もたんね。買ったやつはもつけど、うちのは1週間程度だね。あと味が落ちちゃう。なんか知らんがね。なんかその（いい）方法があるだね。

年取りのときは、百姓だもんで芋とか大根は煮るわね。それはまあごった煮みたいな。「おひら」つちうだけど。大根とにんじんとごぼうと、豆腐入れたりね。根のもの（根菜）ばっかりじゃない。ちくわとか昆布とかね。しまいには娘が持ってくよ。こんな味は出んとか言って。ほいで田作り、豆は作る。栗は採れてしょうがない。わりにお父さん好きでさ、栗きんとん作つたる。

小鳥やうさぎは食べないねえ。私嫁に来てから食べない。娘時分にはうさぎ飼つとって、やいちゃあ（殺いちゃあ）。やって（殺して）くれる人が回ってくるじゃんね、そいで食べたけどね。

■春

【ゼンマイ山を作る】

私ゃゼンマイは採るね。田んぼの向こう、山刈つとくとゼンマイ山になるもんで、田んぼやりながら摘んじゃあ干いちゃあして。ほいでええ加減（たくさん）ある。嫁さんの在所が商売しとるもんで売りに出すとね、「おかあさん、一方から売れちゃうよ」って。やっぱり買ったやつは固いつて。中国だかどっかから来るんだって。わしが丹精込めてやると、店出すとすぐなくなっちゃうよって言つとった。ほやで一生懸命採つてやるだけど、大変だよ。

ワラビやなんかいろいろあるけども、ここの人何にも採らんね。ここのにあるのも、誰かよそから来た人が採っちゃうもんで、地元の人採らんね。私だけだね。

私は、おばあさん（姑さん）が採つとったでね。山の草刈つとらんと摘めんもんで、毎年なんでもかんで嫌（や）でもしょうがない、機械で草刈つといて。ほいでゼンマイ山なつとる。

フキは畑の大口（おおくち）（栽培用の大型のもの）だけど、作つたりして。

山の草は田んぼへ入れたりねえ、今、少しはこんにゃくあるじゃない、だもんであれへ持ってくるだよ。わし嫌（や）だちうたけどよ。あんなもん、テケテケ（エンジンつきの運搬車）にいっぱい積んでくるもんで、前なん見えんじゃん。勘で来るだよ。危ないだけど、2回ぐらい持ってくる。

【共同でやる田植え】

昭和35年に私来たときにはもうハイ耕運機あったねえ。みんな牛でやっとなんか？ 牛は馬みたいにタッタターッと行かんでいいじゃないの。牛ならオッチラオッチラやっとなんか。

私んところね、お父さん牛を飼うと糞を始末せなんだ。あれが嫌で嫌で牛飼うことやめちゃっただて。ほんで耕運機を買ったって。小さな赤いホンダのね。しまいにゃあ「ひょうがさき」（という所）に置いて使ったでねえ。

田んぼは全部で5反切れるよ。川には8畝（せ）。島にも8畝。ほいで大桑沢（おおかさ）（＝ひょうがさき）には6畝ぐらいしかない。冷たい水でできなんだね、あそこ。岐阜県（上矢作町）行く橋の手前、大桑から流れた川で水を取ったわ。ただ川の水を塞（せ）いで持ってくるだけで、簡単なもんだね。石をかってやっただけで、雨が降って流れちゃあ終わり。「ひょうがさき」の田んぼは広いねえ、みんなたいへん（たくさん）作っとなんか。

田植えだけ共同でやったね。2日ぐらいずつ、5軒ぐらいやったもんで10日ぐらいはだたらにあったね。ここの部落は10軒。今は9軒。上は上、下は下で大体分かれとる。「ほい、明日から頼むねえ」「そいじゃあわしんとこその次にするか」ちうようなことで、話し合いでやったじゃんね。

田植えの後、稲の苗を持ってきてきれいに洗ってね、それと一緒に赤飯を供えた。田の神さま。今やらんでいかんね。なんでも省略しちゃったね。

【川向こうの田んぼ】

田畑はもうだいぶ縮んじやった。

この下の川向こうの変なところ二所（ふたところ）あったけど、やめちゃった。もう（夫と自分と）2人だもんねえ。堰堤の下、川向こうに田んぼが見えるでしょう。一番下がうちの。4つあるじゃん。見えとつても、回って行かにゃあならん。遠いだよ。水見に行くにゃあオートバイでチューっとなんか行くけど、ほかのこと全部歩いていく。川を越えていく。

そこは（川を渡るの）足でなきゃ行けん。脱穀つりも田植えでも何でも全部背負（しょ）ってね。石渡りで、稲までこっちへ背負（しょ）い越えたときもあつた。裸足だねえ、水ん中行くには、川が長いもんでね。水が多くて渡れんちうこともなかつたね。そいでも鉄砲水が出るときもあつたで、気をつけちゃおつただよ。曇ってくる、早（はよ）帰らな川に水が出ちやうでちってね。だもんで暗くなってくれば、何が何でも置いといて渡ってきた。

昔は魚もいっぱいおつた。東海豪雨で大水が出てからおらんようになったね。川が変わっちゃったけどねえ、今ちょっと復活しかけてるね。川がきれいになったね。もう10年の余だね。

苗運びも大変だね。一輪車で運ぶだね。うちのお父さんなんか一度に9枚運ぶよ。私も8枚運ぶ。8段積むよ。前の日に運んでくじゃんね。朝運びよつた分にゃ、田植えができんじゃん。

昔それこそテケテケも何にもないもんで、耕運機でずーとあそこの堰堤何回も、道まで運んじやあしちやあおつただよ。今はまあ道がないなんてことはないわねえ。テケテケテケテケしちやあ、トラックに積んじやあ、またテケテケテケテケ、1時間かかるねえ。あれ、1反9畝だかあるだけどさあ、それを1回に刈っても機械に入らんもんだから、2回に刈る。

田植えと稲刈りだけは、弁当持ってくる。どうしてもキリがあるもんだからね。行ってこるだけで1時間は最低かかる。田植えの前は、苗が（家に）あるもんだから水かけんならんもんでとんで来てかけるけどね。稲刈りも、家に来とつた分には（家に帰っていたら）刈れんでな。

それは楽しみだね。子どもんたちが来るもんだから。孫たちも応援してくれる。川のせせらぎを聞きながら御飯食べるとおいしいじゃん。だもんでなんだかんだあそこで食べる。

飲み水も持っていく。持ってって足らん場合は山水飲むけど、ほとんどうちから持っていく。重いよ。弁当からお茶から、一提（ひとさ）げあるよ。一輪車で持ってかにかや行けん。お茶沸かいて持ってかにかやめんどくさいしね。子どもんとう（子どもたち）も孫も山の水なんかはあんまり飲まんね。

昔から私の兄が、田植えにかあきっと手伝いに来るの。やい煮味噌作ってくれよちうもんでね、飯ごう持っていくの。味噌や砂糖やちくわや揚げや生しいたけと、その分だけ水をペットボトルで持ってって、そこらの竹やぶがあるもんで焚き物拾って火を焚いて、ちょこちょこちょこちょこ材料を入れて、卵2つぐらい入れて、さあ食べよって。それだけのおかずでみんなおいしいおいしいちってね。こんなむしようにかあ（滅多やたらと）食べれんちゅってよ。ほりやあまあそれだけでおかず要らないよ。毎年食べる。わしが炊事の係よ。

お茶の葉っぱ（生の枝）をやかんの煮え立ったとこへ入れて、何十秒か沸騰させると、またいいだねえ。おじいさん（舅）はそういうこと好きでね。おじいさん11時頃しか来んもんで、「おじいさん来たで昼だぞー」なんちって言うと、おじいさんはハイ火を焚いてお茶を沸かいてくれるわ。そいでおじいさん（の仕事）は済んじゃったねえ。

【舅と姑の役割】

おじいさんは守り役でねえ、おしめ洗って、川でバーンとたたいたかあ、石の上乗せかあ。おばあさんなんか、すごいやり手でね、そんなしとらん。子どもなんか、夜は抱いて寝てくれたけど、昼間なんか見ちゃおれん。すごい働き手。これやれあれやれなんちわん。それより自分で全部やっちゃう。朝おらんと思うと畑行つとる。嫁がやらんで悪いなんて一つも言わん。そらできた人だでな。

【野菜・お茶・タケノコ】

野菜の種は買う。一代交配のようなね。何でも買う。苗を買っちゃう。そりゃあ小豆や大豆やササギはあるもんでとつといて蒔くけど、キュウリ、ナスは苗を買ってくるね。

スイカも作る。まあ今キュウリは買うきゃない（買う必要がない）くらいだね、キュウリ、ナス、トマト。ほとんど作るね。若い世帯ならまあ何でも買ってくるね。買った生活だよ。スイカなんか作ったって、2人じゃねえ、切ったってしょうがない。食べれえへん。要らんもんでほかったるじゃん。黒いスイカがあったでしよ。あれ、向こうにあったやつを、鳥が来て食べりゃええわちって、あすこまで運んできただよ。ほしたら、太陽が当たっちゃって腐りかけとる。子どもが来たら1つずつ持たしたる。ほんだもんで、お盆に仏さん祀ったやつ、まあしょうがないなって置いてあるじゃん。わしスイカあんまり好きじゃないもんでね、お前が食べんもんでなんて怒るけどよ。嫌いなもん食べれんじゃんね。

お茶だって自分とこで採ってきて、いろりで炭をおこいといて、大きな四角いむしろで揉んじやあ。もう汗びったり。ほいで子ども2階行つただねえ。子どもだって汗びったり。あれが嫌（や）だった、わし。お茶は昼間摘んだやつをここへ持ってきて、おばあさん蒸しとったよ。それを一晩に揉んじやうだね。

手作りだねえ。今考えられんね。

タケノコはあるけど、シシ（イノシシ）と取り合いだもんでね。うちで、電気柵の2本線を張つたらね、そいだけで来んね。電気入ってなくてもその感触は知つとるだね。ビリッとくると思うだね。シシでも利口なんだね。全然張らんと張るとじゃえらい違う。

■夏

【用水】

田んぼの水を取る順番はない。水を付けたいだけ付けて、止めることはせんね。自分とこ大変ほしけりゃ、あすこ（取水口）行って開けちゃあガーッとするが、だーれも付けた人も見んけども。川向こう（の用水）は電気だもんで（電気でポンプアップするので）、誰か行って電気を入れるとザーッと流れる。当番があつて止めりゃあ止まる。ほいだもんで楽だよ。水がどんなに無いちっとも、無くて田んぼに入らんってことはない。今年うちの当番だもんで、止めたりつけたりせんならん。

その代わり電気代を払わんならんでね。小まめに止めればそいだけ要らんわけ。ほいで、雨がよく降れば要らんわけ。ほいだもんで年々いろいろだよ。口座があつて、当番が1年分振り込んどくとそっから引き落としだもんで、そいでどんだけかかったってことが分かるもんで、12月頃、田んぼの反別で割って年内に（みんなから）集めてね。

【養蚕】

ここに囲炉裏があつてね。上でお蚕飼つてね。ほいだであそこ（いろりの上、1階の天井の一部）開け閉めできたね。お蚕の糞を落とすようにね。ほいでここから2階へ上がつてったじゃんね。わし来たときにゃもう（その開閉口は）使つてない。こっから桑上げちゃあやった。大変だったねえ。もう寝るかあなんち時分、9時ぐらいに、（お姑さんが）さあお蚕飼う（世話をする）かなんちう。私に飼つてくれとは言わんだよ。自分一人で飼う気になるだね。そいでも嫁のわしも飼わにゃいかん。子どもは1歳か2歳、お父さん飼やあへんだね、女のやることだと思ふかな。そいだもんで、おばあさんが張り切って上（のぼ）つてつてねえ、ほんで飼う。ザラザラー、ザラザラーとねえ、棚から下ろいたり上げてたり。大変だったねえ。あの音がねえ、耳についとる。

【こんにやく畑に草を敷く】

こんにやく畑には草（敷き草）やととく。湿気がほしいつちうか、乾かんように。草も生えんしね。通気性はいいけど。なんでかね。あんまり日が当たりこまんようにかね。草おさえかね。わしんとこはそれこそ、あそこへ行って刈った草全部入れるもんで、ススキだつてワラビだつてゼンマイだつて何だつて入とる。

作りたくないけど、畑があるもんで、荒らしたくもないし草生やしたくもない。行っちゃあ（草）取っちゃあ、取っちゃあ行っちゃあ。ヒマさえあればね。採るの商売よ。

昔はこんにやく芋を売った。

■秋

【栗】

山の栗は採らんね。シシ（イノシシ）のほうが先だもん。競争だね。日暮れに行つて拾っちゃうの。また朝早く行つて拾っちゃう。栗と（イノシシが）出会わんように出会わんようにつて拾うじゃん。ほかつときゃあ、いい気になつて夜なんか来て全部食べちゃう。きれいにくるつとむいちゃつた。渋皮はないだ。実だけ持つてとる。どうやつてむくんだね、あんな歯で。器用だよ。

栗の木はある。採れてしょうがない。ないときにゃあほしかつただけどね。植えて自分とこで採れるようになったら、まあかなわん。だけど、わりにお父さん好きでさ、栗きんとん作つた（作つてあげる）。

【稲刈り】

稲刈りは個人です。はぎへかけてね。

はぎにする竹は、山から採ってくる。毎年使うから、ちょっとトタンをかぶせたり、小屋のある人は小屋へ置いたりして、それをまた出いて。足らん分はまたちょっと山へ登って採ってきたんだに。

竹はそこらにいくらでもある。小屋へ置いたるもんだから、悪くなる分だけ採るもんで、10本も採るきゃないもんでね。大体自分とこにあるけど、よそのだってどこのだって、別に1本や2本、「もらうに」っちっというて、もらやあいいでね。こんど稲刈るで、はぎ杭ちょうだいねなんちってき、言うて、くれるじゃんね。

稲が乾いたら、機械を2人で担いで行って、足踏みでこいてねえ、その粃だけ持ってく。昔は動力なんか重たくて持ってけんもん。粃だって重いよ。カマスへ入れて川からこっちの道へ渡いた。それやっとするうちに日が暮れちゃってねえ、月夜で、ああ、因果なことだなと思ったよ。月が出て、それを上まで持ってきて、またそこ道がないもんだから、このお宮んとこから背負い上げるだいいえ。それをみんな、えっちらおっちらえっちら、えらかったねえ。

3月に子ども2人も産んだだけど、もう5月にやあ田植えだら、ほいだもんでえらかったよ。みんな並みだもん、何にも違やへん、産まん人も産む人も一緒。ほいで、秋になると子ども連れて稲こきでも何でも行くの。ほいで子どもはチョッチョッチョッ砂食べとった。だめだよってても、また知らんどううちに砂食べとる。かわいそうだったねえ。

【魚を売りにくる人】

行商がオートバイで魚を売りに来たね。「しょうきんどう」って上矢作から出張してきたりさあ、岡崎から、在所が学校の下にあった人がうちへ寄りながらだかしらんが、ここまで延びて、ここ梨野とか「しょうぜ」と行っちゃあその商い。それからもう何も来ん。

それから、一色（愛知県一色町）のほうからも。いい魚来たよ、高いけどもやっぱり高いだけあるなあと思った。干物、サンマでも大きなやつ寄越したよ。さしみでもまあまあ安かったね。「市場行って自分で切ってくると、お客さんがそれ分けてくれちゃうもんで、分けてきてやっちゃったで、今日は少ないぞ」なんちってね、それも持ってくる。で新しかったよ。

【神さま仏さま】

梨野は古いだね。下に部落いっぱいあるだけど、梨野にお宮があるぐらいだでき。大きな杉の木があつたりね。

旧墓、私んところは向こうの高いところ。先祖代々一緒に（祀ってある）。昔は土葬だもんね。やっぱりお盆とかにはお参りにも行く。間（あい）さにやあ新墓ほど行かんねえ。新墓はあっちにあるもんでね。わしが来る前からある。何年ごろから新墓になったかねえ。ほいでも（2つ墓があるから）草刈るとこばっかあつてかなわんに。

地蔵さんはこの下の家（うち）の地蔵さん。下の家は「地蔵」っていう屋号だよ。昔は道ぐる（道の横）にあっただけど、道がちょっと広まったもんで下へ下げて蔵の裏へ持ってっただけど。今「地蔵」で管理しとるね。お花は地蔵さまの家でやっとするみたい。組でどうのなんちことは言わんねえ。

秋葉神社行って（秋葉さまを）迎えてきたら、みんなして飲んで、祀り込む（お供えをする）よ。それが4月だね。

お水神さまは立派だよ。去年の今ごろできたね。昔ぼろぼろだったもんで、変えたの。新しく

したの。水は出ない。何で水神さんかね。春と秋のお彼岸さまにはぼたもち作って、梨野中みんな集まって食べてくる。心経をあげて、雑談して半日ぐらいおったかね。おばあさんとう（たち）ばっかだ。昔は子ども行ったけど、今おらんもんで行かん。春なんか忙しくないもんでね。雨降ったらよけいいなんちて。

ほいで今でも二百十日ちってやるに。二百十日の御神酒あげちってね。組の人が集まって、祈願する。それは飲んでちったあ手たたいて（手拍子して歌って）やるだらじゃないの。二百十日の前祝いだから、8月の終わりにやる。

庚申さまは組長のおはからいでちよつとしたもの買ってきて飲むだけ。柿の種なら上等。昔はちくわは買ってきたぞ、何だしらん。

おしゃぐりさまは神社っちうじゃなくて、石でできたのが畑の隅っこにあるだよ。今、菊作ってあるとこのこっち側。石が1つだけ。ちよつと囲ってね。秋、梨野のお祭り、中の九日（くんち）っちうわけ。みんなの都合によって、遅いときあ11月の1日ぐらいになるときあるね。寄り合いで、飲んだり帰ったりしたときにいつがいいとか言ってね。遠くへ行つとる人もあるし、お勤めの関係があるもんでね、土曜日で休みたくても休めんときがあるもんで。昔は暦どおりやったけどね、今じゃあ勤めとるもんで、やっぱり土日になっちゃう。

昔は各家庭で重箱持ってた。天ぷら、こんにゃく、ちくわ、菓子が入ってきたり、果物入れてみたり。そりゃあ質素なもんだったわね。わしもたまにゃあおこわや栗おこわ作っちゃあ持ってたけどよ。重箱入れてきやあ世話ないもんで。寒天にいろいろ流したのもねえ。

今子どもがいないもんでね。ほんと、昔は一（ひと）膳だとか、机いっぱいおったわね。もう大人ばっか。年寄りはおんしね。

でもまあ手間をかけること大変だもんね。まあそんなことやめまいっちうわけで、やめて、オーダブルとお寿司を取って。去年なんかすごいごちそうだったね。お汁粉に、とろろ汁に、餃子も取って焼いた。年々派手になる。そりゃまあ、楽にゃあなつたわね、朝、重箱作るっちうの大変だに。

村社の社務所で。梨野の土地を提供してあるもんで、仲間に（共同で）使わせてもらう。ここの部落の寄り合いだっちうとあそこでやれるわけ。向こう下の家の土地を、梨野全部の家で9万円で買って、区で建ててもらった。

【あれこれ】

この家は建って百年ぐらいだよ。今生きとりゃ100年だけど、95歳で亡くなった、うちのおばあさんが生まれたときだって。私来て1年か2年で、セメン瓦だったもんで焼き瓦に替えた。

ヤギもおったよ。子ども小さいときに飼った。ヤギの乳はいいでね。

卵だって自分とこでとって食べたねえ。百姓だったもんで。

服を買うのに街行っただねえ、ここ歩いて、バス乗って。私は洋服だった。でも、百姓はもんぺに上っ羽織（うわっぱおり）っちうやつでやったよ。羽織はかすりで作って。出てくにはそんなもん着てけへんけど。それから着物はモス（モスリン）とかいう生地だか、そんなもんだねえ。今はあっても着んしねえ。着ること知らんだわ。昔はなんでかんで出てくつていうと着物着てった。父兄会だ何だっちうねえ。

薬草はあるけど使わん。隣の方は血圧が高いとか言ってさあ、たまねぎの葉っぱだかゲンノショウコだかドクダミだかハトムギだか干いといて、せんじて飲む。そう言つとったわ。ドクダミはいちうね。ハトムギだって食べにゃいかんだけどね。ヨモギも食べれるけど、まあヨモギ餅つくことも嫌んなっちゃうて。

小豆も採って加工したる（ゆでてある）。凍らかいときゃ（凍らせておけば）、ゆでていつでも使

えるで。全部冷凍、何でも冷凍。

さっき、とうもろこしがおいしいかなと思ってゆでたが。まっとう甘いと思っただけどさあ。ハクビシンに食われたらしょうないもので、慌てて採ってきたじゃん。ほいで、冷凍しとけば、食べやすいじゃん。冷蔵庫の冷凍室じゃない、大きな冷凍庫。その下駄箱ぐらいあるよ。

甘みが少ないかもしれんよ。冷凍したやつを解凍せんで熱湯の中入れたじゃん。おいしい？甘い？

涼しくなったね。やだね、ちいと降るかと思って喜んでったのに。

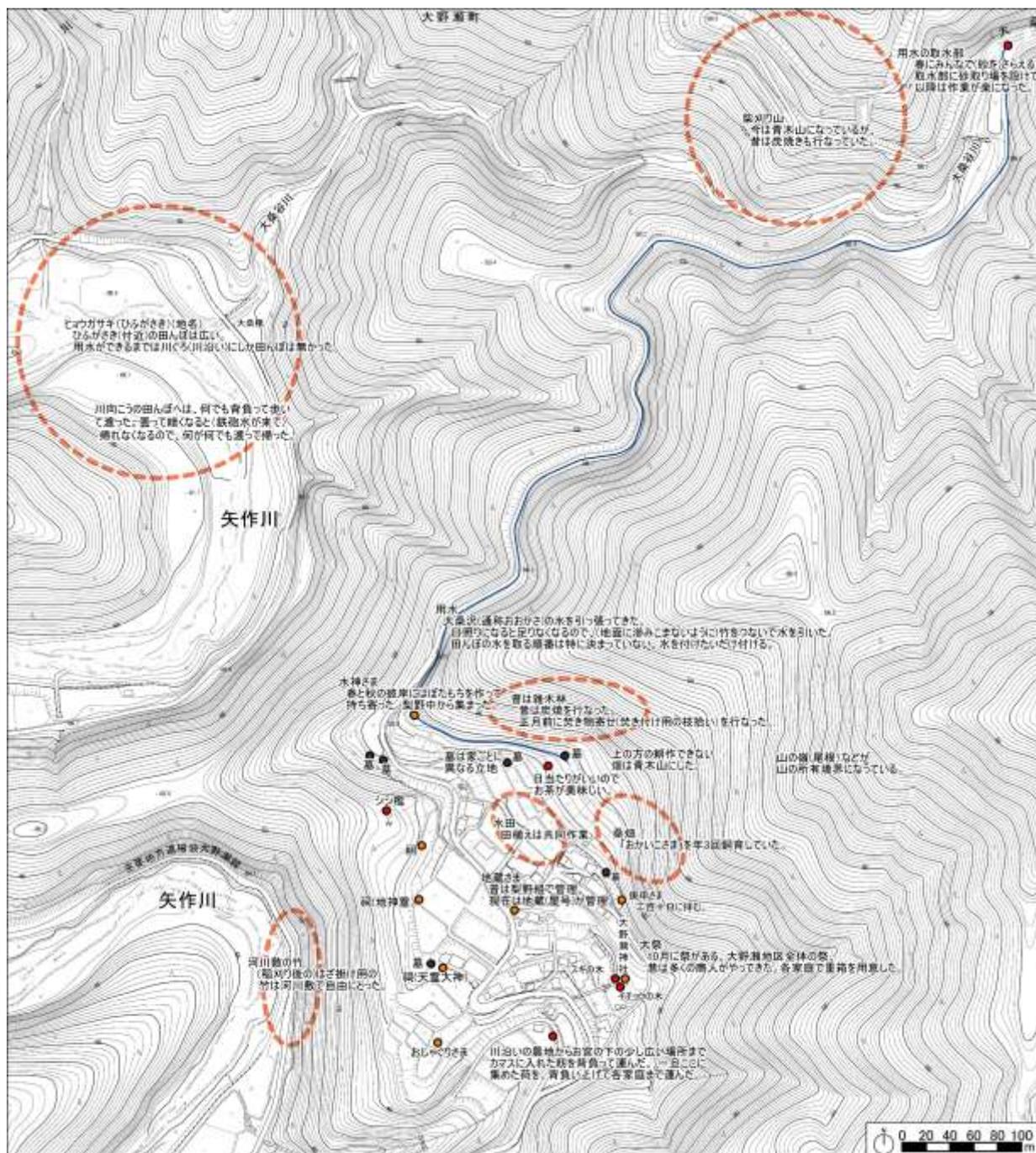


図 4-30 : 「聞き書き」により明らかになった要素と梨野地区の空間との関係

イ) まとめ

①調査対象者の生活・生業史

梨野地区では、稲作、畑作、養蚕を中心とした生業が営まれてきた。現在は養蚕は衰退したものの、稲作、畑作は現在も継承されている。

表 4-22：調査対象者の生活・生業史（年表）

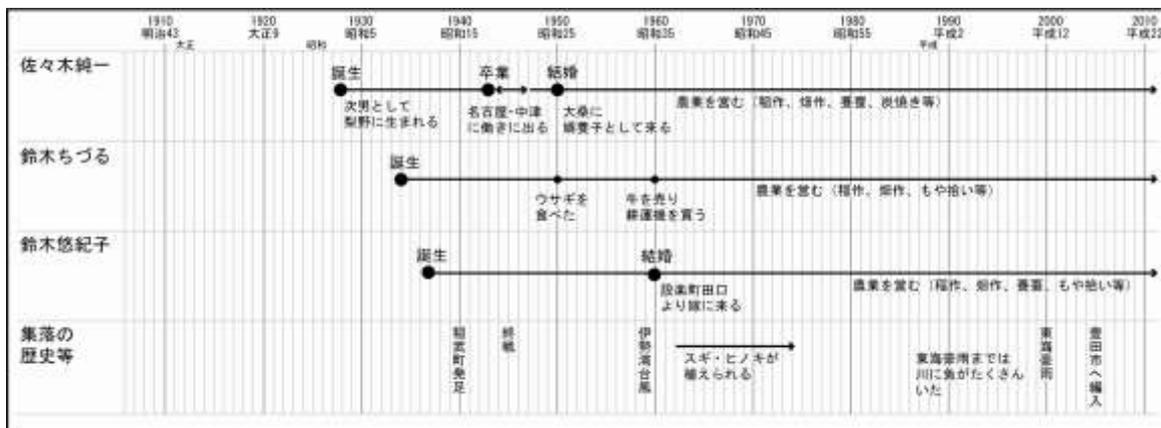


表 4-23：調査対象者の生活・生業史（年間スケジュール）

	佐々木純一	鈴木ちづる	鈴木悠紀子	その他集落行事等
1月		こたつに炭を入れる		
冬 2月				
3月				水神さま (春の彼岸)
4月	雨水の砂をさらう (春)		山菜つみ (春)	
春 5月	俵を刈り田んぼに入れる ぼた草を入れる (春)	田んぼを 「牛で行う」	木植え (春)	田の神様
6月	田植え (春)	田植え 「共同で行う」	田植え 「共同で行う」	
夏 7月	夏置		養蚕 (夏)	下刈り (夏)
8月	秋置			
9月				庚申さま
秋 10月	稲刈り (秋)	稲刈り (秋)	稲刈り (秋) 「個人で行う」	刈り上げ祝い 水神さま (秋の彼岸)
11月	ぼた草を刈る 干して馬糞に入れて 糞に踏ませる (秋)			大祭
冬 12月		もや抽い・薪寄せ	焚き火寄せ	
			こたつに炭を入れる	

②自然資源を利用した生産活動

梨野地区では、雑木や竹、野草、山菜、薬草など集落周辺で自生する植物を活用して、稲作などの生業に利用すると共に、ウサギなどの野生動物を食する習慣も有していた。また、畑作で収穫されたコンニャクや大根、芋、ニンジン、ゴボウなどの野菜類は、日々の食材を彩るものであった。

このように、戦前から戦後にかけて、利用してきた自然資源は、化学肥料やU字溝などのコンクリート二次製品に変化してきたものもあるが、食材は現在も継承されている。

一方、養蚕の衰退に伴い、かつての桑畑はスギ、ヒノキなどの人工林に転換されており、地区の土地利用は変化している。

表 4-24：自然資源の利用の推移

	名称/呼称	時期	概要(特徴、場所、料理や工芸品への活用)	現在の状況	資源利用のルール・慣習	関係する生業	話し手
1	柴 (雑木)	春(5月)	鎌で刈り、なった藁で作った「すがい」で柴を縛り、山を転がす。押し切りで切り、田んぼに入れて肥料とする。	現在は、 化学肥料にかわった		稲作	佐々木純一
2	もや (雑木)		焚きつけに使う。拾って、扱いやすく束を作る。				鈴木ちづる
3	ぼた草 (雑草)	秋(刈る) 春(撒く)	畦畔の草を刈り、堆肥をつくった。馬屋に入れて馬に踏ませて、田畑に入れる堆肥をつくった。	現在は、 化学肥料にかわった		稲作・ 畑作	佐々木純一
4	で草		畝の間の敷き草で、コンニャク畑に入れる。雑草押さえになる。			畑作	鈴木ちづる 鈴木悠紀子
5	タケ		・割って節をきれいいにはらって、用水の導水管に用いる。	現在は、 U字溝にかわった	梨野の衆 みんなで作る	稲作	佐々木純一
6	タケ	秋	稲刈りのハザにする。毎年使うので、トタンをかぶせたり、小屋に置いておく。不足分は山に採りに行く。			稲作	鈴木悠紀子
7	ゼンマイ	春	田んぼをやりながら摘んで干す。たくさんあるので、売る。	現在も摘んで売っている			鈴木悠紀子
8	山菜		ワラビ、フキが生える。	外部から来た人が 採っていってしまう	山の下刈りをすれば、山菜のとれる山になる		鈴木ちづる
9	薬草		ドクダミは採って干す。ヨモギは餅にする。	現在も食している			鈴木ちづる
10	柴茶	田植え・ 稲刈り	チャの生葉を燃やして、燃やした枝をやかんに入れて飲む。においがよい。			稲作	鈴木ちづる 鈴木悠紀子
11	チャ		日当たりが良いため、味がよい。残った分は販売する。いろいろで炭をおこして、大きなむしろで揉む。	現在も栽培が続けられている		畑作	佐々木純一 鈴木悠紀子
12	煮味噌	秋	稲刈りの際に食べる。大勢で作業している場合、煮味噌を作る担当がいる。				鈴木ちづる
13	コンニャク		さしみや白和えにして食した。昔は炭を使ってこたつに当てていた灰を出して、煮え湯をかけて落とす汁で作った。	現在も食している		畑作	鈴木ちづる 鈴木悠紀子
14	おひら	年取り	大根、芋、にんじん、ゴボウなど5-7種類の具を煮る料理。	現在も食している			鈴木ちづる 鈴木悠紀子
15	カイコ	春～秋	年に3回飼った。お宮の周辺はかつては桑畑だった。(佐々木純一)	桑畑は青木山(スギ・ヒノキ)にかわった		養蚕	佐々木純一 鈴木悠紀子
16	ウサギ		ウサギを飼い、料理する際は専門の職人に依頼した。				鈴木ちづる
17	炭		雑木林で炭を焼いては植えることを繰り返した。どんぐりのなる木が一番いい炭になった。				佐々木純一
18	フジづる	冬	焚き物寄せの際、太い木を切って、枝を払って、フジづるで縛った。				鈴木悠紀子

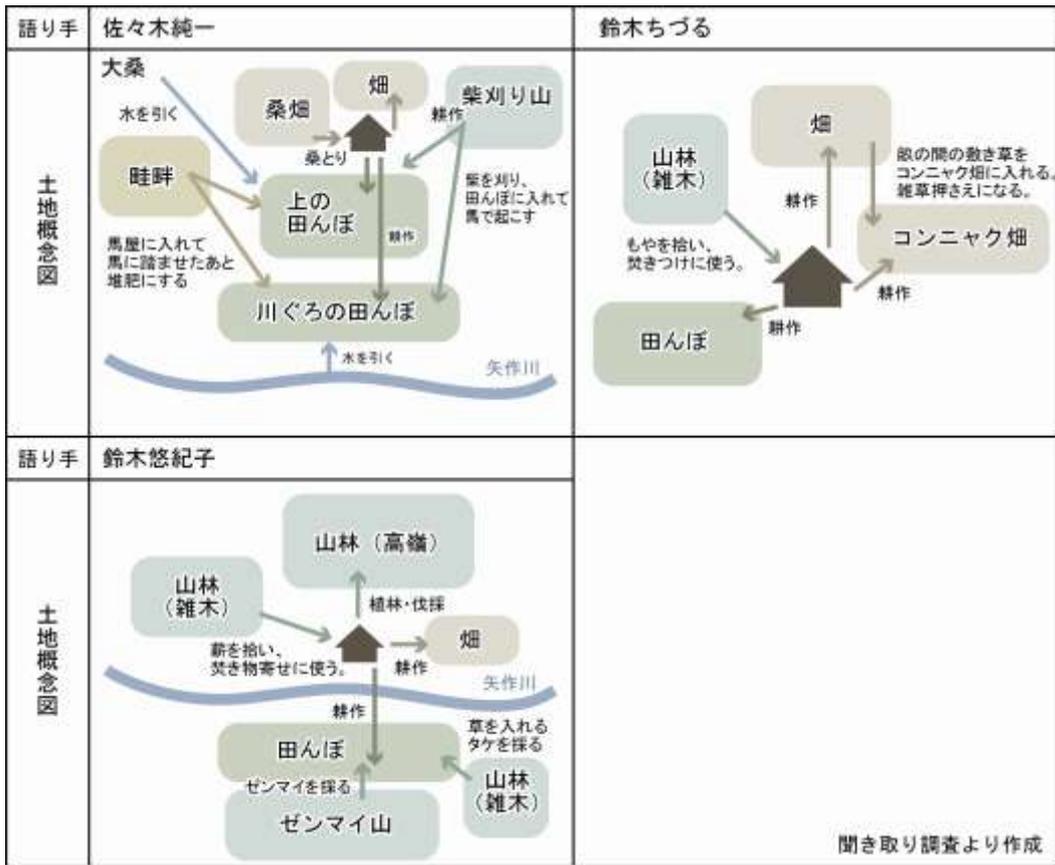


図 4-31：土地利用概念図

③地区の自然資源に関わる維持管理活動

入会山や割山など集落で共有して管理する山林、用水の管理などを地域住民が共同で維持管理する他、信仰に関わる水神さまや庚申さまなども大切に維持されている。

表 4-25：集落の維持・管理活動

集落の維持管理活動・社会組織（梨野）						
名称・通称	組織の目的	概要 (成り立ち・当時の状況)	構成 (人数・メンバーの性質)	継続の有無 (消滅要因)	話し手	
ア	入会	共有山の管理	柴の採取等を行う。転出する際に返す。	ほかの住民は一切入ることもできない	継続	佐々木純一 鈴木悠紀子
イ	財産区	割山の管理	割山にスギ・ヒノキを植え伐採する。財産区の山は転出する際に返す。		継続	鈴木ちづる 鈴木悠紀子
ウ	もい	田植えの共同作業	結(ゆい)があり、田植えに来てもらい、田植えで返す。	集落の10軒のうち上下で分かれており、5軒で行う(鈴木悠紀子)	継続	鈴木ちづる 鈴木悠紀子
エ	用水の共同管理(水神さま)	用水の管理	用水の砂さらえ。春と秋の彼岸に水神さまにおはぎを供える。心経をあげる。	集落内で行う	継続	佐々木純一 鈴木ちづる 鈴木悠紀子
オ	大野瀬神社の大祭	大野瀬地区全体の年中行事	10月。大野瀬地区全体の祭。昔は多くの商人がやってきた。各家庭で重箱を用意した。	氏子	継続	佐々木純一 鈴木ちづる 鈴木悠紀子
カ	庚申さま	集落の年中行事	総長のおはからいでちよっとしたもの買ってきて飲むだけの簡易なもの。	集落内で行う	継続	鈴木ちづる 鈴木悠紀子
キ	おしゃぐり様	集落の年中行事	畑の間に鎮座する石。大きな注連縄を飾る。	集落内で行う	継続	鈴木ちづる 鈴木悠紀子

2) 豊田市古巣地区

ア) 聞き書き

【聞き書き①】 矢作川に鮎を取り戻す

新見幾男 (にいみいくお) (73) 昭和12年生まれ

矢作川はダムがいっぱいある川でしょう。自然環境の面では非常に過酷な川なんだけど、そこで天然鮎の復活に、まあ成功したと思う。いっぱい課題を残したまま成功したんだよな。完全にうまくいったってわけじゃなく、いろいろな問題がある。砂がたまって淵を埋めてっちゃうってことがこれから起きてくるんだよね。そういうことにこれからみんな対応してかないかんのだけど、とりあえずはダムだらけの川で天然鮎が復活してみんなの意気が上がったという段階なんだ。

僕らも最初は、1年か2年で終わっちゃうかなあと思ったけども、どうも続きそうだ。伊勢湾のほうも三河湾のほうも、湾の中の状態を良くしようという運動が起きとるから、それと多分一緒にやってくことになるんじゃないかなあ。

【山と川で獲物をしとめる楽しみから、社会運動へ】

生まれは旧豊田市、梅坪というところ。僕はあるまり学校行かなかったからねえ。当時は学校行かんでも許してくれたんだよ。で、10日に1回ぐらい行くとさあ、「よう来たなあ、今日残ってけ、俺が後で教えてるでいいから」。で、「はい」って残ってきた。

大体僕、夏は川におったな。僕らはねえ、子どもの頃は鮎は捕らなかった。鮎、金かかるからねえ。一口で雑って言っとるけど、鮎以外の魚はみな捕とったな。それは、うちへ持ってくるとばあさんが料理してくれる。うなぎやどじょう、うまかったな。家族は喜んだ喜んだ。ほめられる。今だと叱られるけどな。多すぎれば鶏にやればいいでしょう。

冬は山におって、鳥を捕とった。梅坪っていうのは案外山の多いとこでねえ、自転車で周り10キロぐらいは動いとったなあ。かすみ網っていう網があるんだ。それと、モチ(トリモチ)でくっつけるのがある。僕は子どもにしてはえらい金持ちだったよ。朝、夜明け前に出てくでしよう。で、山に半日おって、帰りに成果品を鳥(とり)屋へ持ってって売るわけ。組を組んでやるときある。僕は自由に学校休んどったけども、みんなそんなわけにもいかんからさ、大部分は僕一人だったなあ。親は途中であきらめたなあ。

僕の家はねえ、おじいさんの代までは、運送引き。馬や牛で、梅坪の鉾山から砂なんかを岡崎の国鉄の羽根の駅まで運ぶのが仕事なんだ。1日に3往復か4往復やるんじゃないかなあ。豊田と岡崎を結ぶ街道が自動車に変わる頃で、おじいさんに直接聞いたことある。「後ろから自動車来ても、俺はよけてやらなかった」と。真ん中をゆっくりゆっくり馬のスピードで行くと後ろで車がずーとつながる。で、喧嘩をやりゃあこちらが勝つし、ほいで嫌がらせをやってやった。で、向こうは交渉に来るんだそう。そうすと、しょうがないなってよけてやって車通したことあったよって。

中学生時代は自然相手にしとったのから人間相手になった。案外真面目にやってたんじゃないかな。大学に入ると、学生運動があったからね、あれが忙しかった。市役所に入ると、ついでに職員労働組合の役員ずーとやとったからさ、あれ忙しかったな。

鮎釣り始めたのは、「せおと」におったころだから、20代の終わりだな。

【天然鮎復活に成功中部電力との環境定期会議】

矢作川には中部電力が発電所をいくつか持つとる。

中部電力の矢作川管内の総元締めが岡崎にあるわけね。用地部。そこと漁業団体との間で、環境定期協議をもう12、3年やとるだよ。全国にないことだと思っけどもねえ。

天然鮎の復活を定着させることを目標にやろうということでスタートした。で、その協議を何回も続けて、本当に喧嘩になっちゃうことしょっちゅうあったけども、また仲直りしては、今、うまくやっとなるんだよ。そのことは、彼らにとっても楽しいことであるような、な。

もう 10 年以上一緒にやってきて、中電の人の意識も高くなったなあ。今度の、川の中の草を取るのも、中電の協力なしにやれんのだわ。水が深いときはやれんから。だから、発電量を落とせるときに落としてもらって、僕らがそのときに仕事やるということにするわけよね。そういう協力がなければできない。

漁業団体と中部電力と組めたのが一番良かったんじゃないかなあ。ダムという障害を受け入れていくことが僕らの仕事だと言ってるからねえ。

ほれで、毎年 1 回秋に月見の会をやるんだわ。矢作川水系の中電の社員が全部集まってきて、そこへ漁協も出てって。一昨年、中電の人もだいぶ酒飲んだ、僕らも飲んで、矢作川で何が一番いいだやあという話になって、僕らが中電の人の顔を見てさあ、「お前はだいぶ何でも知っとるじゃないか。よその川行ったら、水力発電所の職員がどうやって鮎を増やすかということなんか考えてないと思うよ。だけど、矢作川もう十何年やってきた。僕らはあんたらが財産だと思っとるよ」と。「嬉しいこと言ってくれるなあ」って言っとったけどさ。

定期協議始める前っていうのはひどい状態が続いておった。

中部電力が矢作川水系進出してくるのは明治なんだな。主力は大正、昭和なんだ。その当時の話を僕らは伝説として聞いとる。発電所作るっていうと、漁業系の人たちが発電所包囲するんだな。絶対作らせんと。で、警察が出てきて逮捕者が出ることずーっと繰り返してきたんだよ。だから、ダム関連の失敗、一番大事なときに水がなかったり水が多すぎたりすることがしょっちゅうあるんだけど、そのたんびにまた喧嘩になるわなあ。

そういうことをずーっと続けてきたのが、定期協議を始めてから、「二度と起こさん方法を講じてくれるなら許すけど、そうでなきゃ許さんぞ」というところへ話がいくんだよな。

【補償金はもらわない】

ダム関連の失敗があって、漁協の会議をやると、補償を求めよというんだ。「だめだ。補償金をもらおうと後でものを言うということではできなくなるぞ」と。だから、「補償金は要らん、その代わりに定期協議の中で改善策を講じていくということしかないんじゃないか」と。そうしたらそちらのほうが多数派になって、補償金の問題は出さずに済んだんだ。

いやだったなあ、補償金の問題が上がってきたときには。長年ずーっと苦労してきたのが水の泡だがん、補償金くれて言ったら。多分中電出すと思うな。

矢作ダムの中電の発電所を通して、長期にわたってそこに溜まるとるヘドロが流れたんだな。そういう水管理しかできないようなことでは困るという話をして、全部非を認めてくれて、これからはこういう対策講じますっていうとこまでいった。そこが一番大事なとこだよな。補償金もらったらさ、多分、あと、言えないじゃないかな。

これは月見で酒を飲んだときの話だけでも、僕が辞めるってことはもう去年の段階で発表してあって、中部電力の矢作の電力センターの所長という人と偶然席が一緒になったんだな。「あんたたちとももう一年でお別れだなあ」という話をしとったら、「新見さん、あんたに聞きたいことがある。補償金要らんっていうのは本心か」と。「ああ、本心だよ」「役員が代わったら変わるか」「変わらんと思うよ。だからそのつもりでおってくれ」ってったら、「うーん……」と言うんだな。「そういう人間と付き合えるっちうのは悪い気分じゃないよ。しかし、一般にはないことをここはやっとなるんだから、困った」って言うんだ。金で解決したときあるんだそうだ。金要らんっていうから、はっきり確認しときたいという話なんだな。で、僕が物好きに言ったのは、「金はある程度持つとる。自分たちで代々貯めてきた金があるから、金是要らん。要らんとこへもらおうと、最悪の場合は

汚職が起きるし、それをどうやって分けるかっていうようなところでまた揉め事が起きるから、そういうものを出してくれるな」と。分かった、という話になって、去年は終わったんだよな。

去年の秋だったか今年の春だったかな、内水面漁連で一泊でやって一杯飲んだ。ここでいうと矢作川と豊川が中心なんだな。で、豊川の連中に僕が「お前ら何だ、また金もらってダム造らせるだな」って言ったらさ、「やなこと言うな」って言うもんでさ、「ほうだろ、金がほしいんだろ」ってたらさ、「金はもらうけどな」ってこう言うんだ。政治情勢がこういうふうだからどうなるか分からんけども、多分、豊川の設定ダムってのはできるんじゃないかなあ。そういう予感がする。そうするとあの川は終わりだ。矢作川より小さい川へ矢作川より大きいダム造るんだからさ。矢作川が8千万トン。今度の設定ダムの計画は10億トン超えとるからねえ。昔なら道路建設と闘って、その中で管理の方法も勉強してくんだよな。今はそれができないから、管理まで話がいかなきゃいかな。

長良川河口堰は反対運動があって、金もらって反対運動辞めちゃったんだ。正常に行くと、お金もらうときに計算やるんだよ。この後の管理にこういうお金がかかる。それはお金で計算したっていいよ、というようなことやるんだよ。それから、一番肝心なことは、遡上期と、また海へ魚が下ってくときにはまたゲートを開けるというような話をつけにやあだめなんだけど、そんなこと何にもやらんで、で、お金もらってみんな分けて終わり。

今の豊川の状態はその当時よりもっと悪いんじゃないかな。ほんとに年くっちゃった。

【矢作川だからやれたこと 農業団体との連携】

農業団体と漁業団体とは、水の奪い合いで百年戦争をやってきた仲だけれども、僕は農業団体好きだった。さんざんいじめられたんだけどさ。僕らは農業団体の人たちの気持ちが理解できた。農業団体に友達がおった。僕の自分の意識の中にも、僕は百姓の子だという意識が強烈にあったな。これが僕の気持ちの中にないと相手も反発するわな。

農業団体と漁業団体ってのは全国で喧嘩やとるんだ。だから、矢作川のようにはうまくいかんじゃないの。電力会社が見ておるわけ。で、「そう簡単には漁業団体の言うこときけんよ、農業団体と喧嘩やとるじゃないの」と。もし漁業団体と電力会社が仲良くなったら、同じようになんで仲良くせんのだと農業団体から言われると。そういう関係があるから、そんなうまくいかんぞということになっておったんじゃないかな。

農業団体の人たちは、おなじように生物扱つとるから、僕らの言つとること全部理解しとるの。だけど欲が深い。ほんとに欲が深くて、自分のほうに水取ってっちゃう。それで川がだめになるってこと分かるとるんだ。で、最終段階で矢作川の水全部使っちゃうような癖やめてくれっていうような話しとったら、共存共栄（共有）でいかんかって言うもんでさ、おお、いいよ、共存共栄でいこまいかって。ほいで共存共栄を原則的なものとして宣言してくれと。ほしたらやってくれた。

矢作川研究所も農業団体と一緒に作ったし、月間矢作川っていう雑誌出しとったんだよな。それ、僕らも参加しとったけど、事務局が農業用水団体の中にあつた。発行責任者も農業用水団体の事務局長がやとった。

そんな歴史はよそへ行くとないからね、どうやって農業団体と仲良くしたんですかと言われても、答えようがないわけだ。一緒に仕事やってきておるからやれたことであつてさ。

【月間矢作川から矢作川研究所へ】

月間矢作川ってのは面白い雑誌でね。三河湾から山の源流のほうまで僕ら売って歩いとった。ちよつと100号まで出してやめたんだ。

僕らが若いときに初めた。一日仕事やってみんな集まってきて、編集会議をやるんだけど、だんだんだんだん、自分の仕事が忙しくなってくる。まあやめないかんということになって、95号

ぐらいのときまあハイやめる話出とった。

で、それを農業用水団体も漁業団体も一緒にやっておって、豊田市の派遣でヨーロッパの近自然工法視察に行くわけだな。

で、帰ってきて、豊田市がお金を出してくれて行った視察だからさ、報告に行ったわけよ。何か望みあるかっちうもんでさ、研究所がほしいっちたらさ、金要るなあってことになって、「人は作ってやるわけにやいかんからお前ら自分で作れ。金出してやる」ということで、それが1991年。3年ぐらいかかった。農業用水団体と協議を始めて、農業用水団体のほうが金持ちだからさ、人出してくれって言ったんだ。そしたら、「人はおるけど、川が悪くて一番困るのは漁業団体だからお前らのほうで出さないかん」てこと。そりゃそうだな。で、漁業団体のほうで相談したら、お前が見てきたで自分でやれってことで、僕が初代の事務局長を8年か9年やった。

研究所がないとうまくいかんかっただろうな。研究所でこちらの思想をデータにしないとさ。あのねえ、漁民の言葉が官庁では分らんのだ。日本語と朝鮮語と話し合っようなもんでさ、共通語がないんだ。共通語っていうのはデータだな。あれでうまくいくようになった。

研究所の連中とも最初うまくいかんかった。「川に棲んだのは鮎ばっかじゃない。いろんな魚棲んだ。全部考えてくれにや、研究員としてはやれない」って言うんだ。「変わったことを言うな」って思った。鮎が棲むようになると大体ほかの魚も棲むようになるんだよ。僕らはあれが標準だと思とった。標準のやつが孵化する状況を整えれば、まあほかの魚も増えるだろうと思とった。

特に水質なんかそうだよな。僕らが研究所を作りたいと思った頃、矢作川には、この部屋ぐらいのせっけんの泡が、朝と夜に流れただもんなあ。今の明治用水頭首工の下に豊田の市街地部分の汚水がドーンと出てくるんだ。毎朝毎夕方、大きな牛のようなせっけんの泡が流れていく。ところが、下水道ができてからほんとにピタリと止まっちゃった。僕らせっけんの泡この5、6年見てない。すごい威力だなあ、下水道っていうのは。

【矢作川の青春時代】

矢作川の青春時代は、1991年から数年だったなあ。近自然河川工法を視察に行って帰ってきてから。僕ら向こうで視察をしとって、夜に集まっては酒飲んで、「帰ってって何やるだあ、俺らは。こんなところを見たって、浦島太郎みたいなもんになっちゃえへんか。全然受け入れてくれんと思うよ」というのが共通認識だった。

ほいで、帰ってきてな、勉強会も開いて、問題点を整理して、僕らはほうぼへ講演旅行に歩いとったの。ほんで、だいぶみんなそんな雰囲気になってきた。鮎の研究も進んできた。それにかかわった人間が、だいぶ人数が多かったんだよな。

多かったけども、愛知県職員、豊田市の職員はそっから消えてった。民間には育ったよ、それから。天然鮎調査会なんていう会もできた。だけど官庁はどういうわけか分からんけども、研究の成果をよ上げんかった。矢作川研究所もそれにつれておんなじような状態になってきた。言ってみると、新しいことをやってこうという意欲を官庁が失ったと思う。矢作川研究所ももう官庁の一部になっと思ったから、こらだめだなというのが今の感じ。

【漁協の役員をやめて、これからは自分一人】

魚が少なくなったっていうけどね、大部分は、海と一緒に、乱獲だ。乱獲やめなきゃだめなんだ。特に産卵時期の乱獲は絶対いかん。

ということで、その成果もだいぶ上がったんだよな。ただ、そういうことを規制しようということで、僕はだいぶ恨まれたな。僕らが話し始めると「またいつもの説教か」って言うもんでさ、「おう、ほうだぞ」と。僕は長かったからね、漁協の役員が。組合長は2期、6年、それから専務を2

期、6年。一般の理事が長かったな。全部で24年やったからねえ。で、いばとった。ほんでやれたんだけど、新しい組合長に代わった。今からそう簡単じゃないな。

乱獲がいかにってことは分かるとるんだ、ほんなことはな。分かるとるけども、自分の欲望を規制できないんだ。そういうふうになっちゃったな。世の中が。

僕は漁業団体の一員としてやってきたんだけど、今からは、自分一人に帰る。子どもの頃からかかわってきた矢作川と一緒にやっていく。一人だとかグループでな。事業団体っていうのはね、僕はやるとる途中で気がついてきたんだけど、ほんとのことできないんだよな。みんなの意見聞かないかん。みんなわがままなんだ。だから、僕はあんまり好きじゃない。

漁協の役員を辞めてからは、僕自身の考え方がだいぶ変わったからねえ。魚を増やすとか、漁協を擁護するというだけではちょっと物足りんくなってきたのね。今川を眺めると、すごく様子が変わってきて、なんか壊滅的な状態に向かるとるなあという感じがするわけ。

【ダム40年後の川・川底が動かない】

矢作ダムができたのは1971年。約40年経った。で、ダムの被害は建設の30年後ぐらいから出てくるからそのつもりでおれよということ先輩に聞いてきたわけ。で、そうかなあ、そんなこと信じられんなあということも思ってきたけども、この数年前からひどい状態になってきてねえ。

僕の鮎の釣り場が豊田市役所の東側、ほんとの市街地の中だからねえ、市街地でこんなたくさん鮎釣れるぞということ自慢しとったんだけど、そこがおかしくなってきたねえ。ちょっと手のつけようのない状態なんだわ。

どういう状態かという、豊田大橋のある辺、豊田の市街地の辺は河口から40kmなんだ。で、矢作ダムは河口から80kmあるんだ。で、80引く40で、40km区間の間にいろいろ変化が起きてきているんだ。上流のほうはかなり川底の傾斜があるの。で、平らになってまた傾斜が続いて平らになって、というふうの繰り返しで来るわけよね。古川も平坦な地域なんだ。で、また傾斜地が出てまた平坦なところに入っていく。最後の平坦なところが豊田の市街地部分。

平坦なところから被害が出てくるのが分かった。砂がたまっちゃって、その砂が流れてかないの。水量があんまりない川になっちゃった。陸上へ40%取り出して使ってるからねえ。だからあんまり砂が流れていかない。それから、ダムができて洪水があんまり起きなくなったから。洪水があって、川の底がかく乱されて、川がきれいになっていくんだけど、そういうのがあんまりない川になっちゃって。なんかそれも人工的にやらなきゃいかんかなあというふうに思っとるんだけど。

ものすごく労力の要ることなんだよな、川底をなぶる（触る）っていうことは。で、砂が溜まったところは砂を取りゃあいいかって取っても、多分また溜まって同じことが起きる。どうすりゃいいのかなということも思っとる。河川の土木の方の力を借りないと手のつけようがない。応用生態工学の人たちが案外矢作川へ来てくれるんだよね。その人たちに問題提起をして、相談をしようと思っとるところなんです。それは川の中の話ね。

【水の中のオオカナダモの撤去】

川の中のほうは、砂が溜まってくる。で、あまり流量がない、洪水も起きなくなってくると、たまった砂の上に藻が生えてくるの。オオカナダモってうやっかいな藻。これはもう全国的にひどい目に遭つとるとこたくさんある。矢作川はひどい。

そこに対応する僕らの組織としては、NPO 矢作川森林塾っていう団体がある。ついこないだ、そのNPO 矢作川森林塾で川の中の草を取ってくれんか、やりましようかねえ、という話があつて、今月（2010年8月）の27日に、川の中で仕事をする人を集めるんだ。田んぼの田の草取るみたいに手で取るんだよ。国土交通省が大型の機械持ってきてやってくれたんだけどどうまいかんのかわ。きれいに取れんのかわな。

手で取る。手探りで行ってゴボツと抜くわけ。案外根がしっかりしとってね。抜いてそれを川の外へ持ち出すのがまた大変なんだ。エンジン付きの舟があるからそれで持ち出す。ほんで、水含んどるでしょう。今度は陸上へ上げるのが重たいんだ、また。それはもう機械化する算段が付いたから、それで、輸送と陸揚げの部分を機械化しようという話がだいぶ煮詰まってきた。

市役所、国交省、研究者、漁協で対策委員会を作って、そこへ集まった人の中には仕事やる人（体を動かして実働する人）いないからさ、だから仕事やりましようやという相談を 27 日にやる。それが第 1 回でね。

矢作川森林塾も、今までやっとなの陸軍だとすると、今度川の中でやるのは海軍だ、陸軍と海軍と両方でやるかなあということ、10 月の総会で正式に決める。27 日のは、その前段階として海軍だけ集まって、若い人たちを中心にして、川の中で草を取る仕事に何人ぐらい参加できるか算段をするんだよな。多分よそでもどこもやってないから、見学に行くところがないんだ。だから、自分たちでやってみるかという予定。いよいよみんな集まって相談をするわけよな。多分、うまくいくんじゃないかなあ。

若い人たちはもう何回か自分たちでやっとなの。機械化一切なしで、運ぶのも全部手で運んでやっとなの。けども、長続きしないから、機械化できるところは機械化する。

国交省の側が一番心配しとるのは、きりのない仕事じゃないかと。取ってもまた生えてくるでしょう。エンドレスだと。そういうことには原則として国交省は手を汚さんというんだわな。畑の草取っとなのと一緒だからさ、そりゃあエンドレスだわ。それは国、河川管理事務所としてはようやらんという。いや、そんなこと言わずに一回試しにやってみてくださいということで、今年の春、大型の機械ゴソゴソと出して持ってきたんだわな。根がきれいに取れてないから、また生えてくる。根を完全に取っても、上流から流れてくるから、また生えてくる。そういう川になっちゃったんだ、もう。だから、手作業で、庭の草を取るつもりで取る。しょうがないと思っとなの。

今ところ市街地部分だけなんだな。古川の近くと、豊田大橋の近く。その 2 カ所。1 カ所の延長が 1,000 メートルぐらいある。その両岸。まだ上流のほうまで広がってないから、何とかならんかなあと思っとなの。そっから下流はもう完全な砂河川になっちゃうから、川底しょっちゅう動いとる。だからそういう被害は出ないと思う。市街地部分の 2 km 区間ぐらいが、このやっとなの草の地域だな。

【河畔林の整備・竹の伐採】

川の外、川の両側の河畔林の部分もひどいことになってきたということ、前から知っとなの。で、その整備を自分たちでやっとなの、もう人に頼んどるのはめんどくさいと。これは軌道に乗った。

陸上のほうはほんとに良くなったんだ。

大体どこへ行っても竹が密生してきてねえ。堤防から川が見えないんだよな。それが豊田の市街地でてきたから、やってみるかということで矢作川森林塾が動き出したんだ。

矢作川森林塾っていうのはもともと上流の水源地域へ行って森の手入れをやるということで作ったんだよな。で、みんなに話をしたら、そんな遠くのほうまで行くのいやだ、地元の川を先に何とかしてから、生きとったら上に行ってもいいぞと。

そいで場所選定をやったら、みんなが一番困るところは市街地部分だから、そこでやりましようや、ということで、4 年前から、竹やぶの竹の撤去から始めたんだ。のこぎりで切ってそれをチップにして使うんだけど、チップにするのがかなり高いんだわ。運ぶのが。初め国交省がやってくれた。それから豊田市もやってくれた。運賃を出してくれた。チップにする機械を動かしてくれたわけけども、ちょっと景気が悪くなって、そんな余分な金がないっていうんだわな。で、だいぶ実は川岸で燃やした。今年の秋から新しく第 2 工区でやりだす予定けども、それは国交省にや

ってもらつつもりでおる。

竹やぶ切ると、向こうが見えるようになるだよ。ほいで、今まであつた緑がなくなるんだよね。寂しいんだよな。だけど川は見えるようになる。僕らも、最終目標は樹木の林にしたいと思ってたんだ。樹木は管理できるんだよ。竹やぶは管理できないけどね。で、最初は樹木を植えなきゃいかんかやあとというふうに思つたんだけど、竹を切ってみたらねえ、小さい木がズクズクと生えてくるわけ。エノキとヤナギが主要なもんだけど、矢作川流域にあるいろんなものが生えてきてねえ、その成長がものすごい早いんだなあ。もう今4年目だけど、この天井よりはるかに高い。どうだな、最初の1年で50cmぐらい伸びたのかな。それからスピード上げてくるからね。草も一緒に生えてくる。草刈らないかんわけだ。

竹は今4年目でちょっと勢力衰えたかなと思つとるけどさ、5、6年かかるかな。

で、こんどの場所長いからねえ、市街地部分でみんなの見とる前でやる。僕らが第1工区と言つとるところ延長区間が600m、第2工区が約1km。

豊田市が今から都市林を作るつもりなんだ。で、僕らはその一番元にするつもりでおる。市役所はそうは思っていないみたいだけど、そのうちに気が大きくなってくと、あれも使えるなあと思うと思うけども、今のところは知らん顔しとるわ。

ビルがいっぱい建って、道路全部舗装してあつて、できるわけない。だから、市街地部分にも河川を導入しなきゃだめなんだよな。で、河川が占める空間に緑を作つてく方法をやらなきゃいかんわけけども、金かかるわけだ。土地買わないかんから。河川敷広げないとそんなことできないからね。豊田市はそういう基礎的なところに金使うの一番嫌いなんだな。だけどまあ、4年に1回は市長さん変わるし、どっかでチャンスが来ると思つとるんだ。で、まず矢作川っていうのは全部公共用地だから、そこで緑の基地みたいなもんを作っちゃおうと。そつから市街地部分に向かって枝が生えていくというふうにすると、なんかいろいろ思ってくれる人がおるだろうから、あんまり心配せずに、まずは川の中、国有地だからね、全部きれいにしちゃおうじゃないかと。

ということで、今からその技術を集積せないかんわけだ。初めは僕は木を植えるつもりでおつたけど植えることはまったく必要ないと分かつた。で、大体の形がもうできたから、今から管理に入るわけね。草を刈る。木も多分多すぎるんだよ、生えてくるやつは。それも切らないかん。それから洪水がしょっちゅう起きるから、その木が洪水に耐えられにゃあいかんわけ。下のほうの枝を全部払って、洪水がその横を通過していけるようにする。ごみがかからない。そういう林にしなきゃいかん。それから、水の流れておる近くのほうはあんまり大きくせずに、堤防に近いほうを大きくするということになるんじゃないかなあ。で、水際からどれだけ離れたところにはどんなような種類の樹木が合つとるのかというようなことも考えにゃあいかんだよね。洪水が来なくなったっていつても、何年かに1回はドーンと大きなのが来るからねえ。

【みんなが参加し始めた】

そいで、その後、(竹を撤去したところが)河川公園みたいになるんだから、若い人がそれうまく使えるかなあと思つとるんだけど、当面の間そんな希望を持たんほうがいいと思つとる。若いお母さんたちが遊びに来ることは来るんだ。そいで、仕事を一緒にやってくれるんだ。子どもと一緒にやつとるんだな。そういう家族、今3家族おるかなあ。そこが出发点であるような気もするんだけども。

これ、河川管理者に仕事を引き継いでもらおうという望みはまったくないんだよな。だから、周りの人間で自分たちでやつてくということになると思うんだ。僕らの一緒に始めた中の一人が、「ちょっと俺しばらく来れんでなあ」と言つて帰つてつた。「初めに予言したとおりじゃないか。これはエンドレスだ。途中で自分みたいにやめていく人が出てもしようがない」と言うんだよな。そりゃあそうだと。なんか仕事が見つかったみたいで、その仕事やりに行つとるんだ。それで、仕事が

なしになったらまたおいでって、別れたんだけどさあ。

最近、トヨタ自動車の労働組合の人がチョロチョロ顔を出してくれるんだ。で、これからもずーっと来るよっていうからさ、お願いしますって言っとるんだ。労働組合の人たちは 60 年で定年になる。そうすると新しいことやらないかんわけね。で、今年から田んぼつくっとるんだ。そういう仕事を始めたんだな。

それとおんなじ感覚で、竹やぶ、河畔林の整備もやるよって来てくれるんだよな。仲間で来とる。漁協がいろんな行事やるときに大体労働組合と一緒にやとったから、その関係で来てくれたんだろうな。すぐ近くのつぼの口公園っていう、豊田市が作った近自然型の公園の管理にも彼ら参加しとる。だけど狭いから面白くないちうんだよな。ほいで、広いところおいでおいでって呼んどるんだ。

竹やぶを切って木の林に変えていったら、ほんとの水際まで近づけるようになった。「川ん中えらいことになっとるな」ということをみんなが見たのは、陸上部分を整備してからなんだ。それまでは、舟に乗った釣り人が知っとただけだったな。

【自分たちが楽しむことが大事】

もう 4 年も続いとるの、僕ら。はっきりした差異がある。ある年の春、つくづく芽が出て、それが成長を始めた。いやあ、これは変わってくるぞとみんな思った。今もう連絡も全然しないもんな。ほいでも、朝 6 時半になると集まってくるもん。

今、漁協系の人が半分ぐらいになったな。あと一般の人が増えた。登録は 30 人ぐらい。出てくるのが 14、5 人。労働組合の人が来ない日も 10 人。10 人やるとな、仕事どんどん進んでくんだ。なんで朝早くやるちうとき、帰ってきてからもう一仕事やりたいんだな。畑のある人もあるし、土曜日だから子どもを連れて遊びに行く人もおるし。冬でも早いんだ。暗いうちに出てっちゃう。理由は 2 つだな。夏は暑いから。ほれから、余分な仕事をやっても、一人前にまた家族と付き合えるということが大事なことじゃないかな。

こないだもみんなであらあどうしてこんなことやとるだやあという話を休憩の時間にしたわけよ。「だけどなあ、これやとらんと体の調子が悪いだあ」と。毎週土曜日朝 2 時間なんだよ。このぐらいが体調がよくなるどころ。だからいいじゃないの。ほれから、自分たちでやったちう証拠を川に残すのは楽しいなあということなんだよ。

それが若い人に話をする共通語だよな。若い者に説教したってだめなんだ。日本人に朝鮮語で説教せりゃ分からんとおんなじことでき、共通語で説教しなけりゃな。それには、見とってもらえない。ほいでだめだったら運が悪いと思ってあきらめる。僕はみんなはそこで失敗しとると思うな。みんな一生懸命説教するでな。後継者作らないかんちって。後継者なんてできやへんでやめよって言うの、僕は。自然にできるときはできる。ほうじゃなきゃできやへんと。

僕らはあんまり苦しとらん。ほんなのまた時代が変わってくるでいい。それまで僕らは生きとるぞと。僕は今 73 歳だわな。もうちよつとの間生きとって、河畔林の整備だとか、ああいうことを僕らはやってきやあいいじゃないかと。そんなの若い者がやってくれにやあいかんなんてことは、その通りだけでも、そんなうまくいきやあへんと。

僕ら、楽しそうに仕事やろうやと。それ見て「なあ、あのおやじたち、面白そうにやとるな」ということになって、実際に川にきれいな林ができてきたら楽しくなると思うよ。僕らがやるところを見とって、「いやあお父つあんたちと一緒にやるかや」という気持ちになるかならんかだ。だから、僕ら生きて、「いやあ面白い林になったなあ、竹やぶがこんないい林になったか」ということを見せにやあしょうがない。

【古峯】

ここ、山が多くて、田んぼがない地域です。ちょうど海から帆掛舟が上がってきた終点です。平戸橋の波岩（はいわ）というのが越せなかったってことです。で、そこから上流が勘八峡っていわゆる峡。（上流から）ここまではとにかく谷底を川が流れてきてる。ここで初めてパッと開けて扇状地化する。対岸の越戸の側は氾濫原だった。で、ふうきな堤防つけて、人が住むようになった。ここから3キロぐらい下流で、籠川っていう川と合流しますけど、そこまでの間がズーッと氾濫原だった。

古峯では皆さんトヨタ自動車で暮らしてきました。ちょうどいいときにトヨタ自動車ができ、戦後すぐ一遍、ちょっと危機がありましたけど、そのあとはずっと右肩上がりで順調でしたでしょう。

古峯にも矢作川漁協の組合員はたくさんいますよ。20人ぐらいはいる。出荷なんかは誰もしてない。料理旅館に持ってったりって人は中にはいると思うけど、商売ではない。

組合に入る理由は、舟に乗って釣れるちうのが大きいと思うんですよ。舟に乗ると楽チンですから。それと、網の権利が買えるとか。あとは、年会費、釣りの費用として毎年払うお金が半額になる。舟を持ってるのは実際漁協の組合員です。私も持ってる。だけど誰でも持てるんですよ。乗って釣っちゃいかんだけで、乗ること自体は別に構いません。

組合費はないです。最初組合員になるときに権利を買う。僕が買ったときは20万円でした。だけど、そのお金は組合員の権利を持つとった人に渡すだけですから、組合の収入にはならない。組合員になる最初に負担をただけです。

【白く輝いていた川】

小学校の頃から川へ入ってた。古峯水辺公園のところで泳ぎ始めたわけです。もともと平戸橋がちょうど古峯水辺公園のところにあった。今、数百メートル上流になりましたけども。平戸橋のこちら側、古峯の側が平井村、向こう側が越戸。平井村の平と越戸の戸を取って平戸橋になった。まだ橋脚の杭、要するにのこぎりで切った杭がボコボコに残ってます。その杭の上からドボンと飛び込んで対岸に渡るというのが子どもの頃の夏の毎日でした。昭和20年代の終わりぐらいでしょうね。その頃は、川はとてもきれいだったんです。その頃から鮎釣り見てました。

戦前は、毎日夕方になると釣った鮎を自転車に乗って買いに来る人たちがいて、その人たちに鮎を納めた、その人は夜（よ）かけて名古屋まで氷詰めにした鮎を持ってって、翌朝の市場に出したというような話をよく聞いてます。でもその頃は、趣味でやってたんでしょうけど、それがとってもいい金になってよかったですよ。みんなお酒飲んじゃったらしいですけど。

昔の川は今と全然違います。

小学校何年生ぐらいだったかよく分かんですけど、一度川へ流された。川底が白く輝いていてキラキラキラキラしていて、綺麗でしたね。砂が多かった。輝くような白い砂でした。イシャンコ（カワヨシノボリ）がいっぱい川底に貼り付いてる。それらを、箱めがね持ってって、小さい竿で餌付けて、見ながら釣っては箱めがねの中に入れて、ってことをよくやってました。

鮎はね、中学生の頃、川に潜って見ると、絶対縄張りから逃げないんですね、いくら近寄っても。だからにらめっこです。舟で行ったら、舟の真下にいっぱいおるんです。舟の上っていうのは、まっすぐ下がよく見える。川入ると見えないんですけど、高い位置から見るとよく見える。

そうすると鮎が逃げないんです。

【次々に飛びついてくる鮎】

昔はねえ、ポイントに入りさえすれば、攻撃的姿勢をとらせれば、瞬間的に釣れるんですよ。もう瞬時ですよ。

で、矢作川には独特の釣り方がありまして。普通おとり鮎を泳がせてポイントに釣れていくじゃないですか。めんどくさいんです。だからぶらさげましてね、長い竿で、自分が釣りたいと思うところまで空中をブーンって飛ばすんです。そこへ着水と同時に釣れる。だから、ポイント、あそことあそこあそこあそこって分かりますので、次々に、瞬間的に吊り上げてっちゃうんです。で、ほかの人いますので、自分がそうやって釣りをやれるなわばりは限られてるでしょ。そこをいち早く釣っちゃうんです。ほいで、下手くそな人がおるでしょう、ああ、あいつちつともよう釣らんなと思って見てる。その人が我慢ができずに動くでしょう、ほんでそこへ行く。そうやって釣りをしたんです。そこへ入りさえすれば瞬間的に釣れるっちゃうのが昔の鮎でした。

すごいのはね、(おとり) 鮎が空中で飛んでくるでしょ。下で(川の中の鮎が) 見とる。「この野郎、来やがったな」と思って待ってるんですよ。鼻でピューンとやって向こうでピューンと尻尾を上へ上げて、頭からポンと入れるんですよ。もう、待ってましたと、(おとりの) 体が半分ぐらい水に入ったときに釣れちゃんです。飛びつくように。そんなことが非常に多かったんです。

鮎釣りってのはほんとに面白い。あんな釣りってないですよ。ものすごい勢いですよ、鮎。あんな小さなやつが。

駆け引きですよ。あそこで釣れる、あそこで絶対釣ってやるっていう。でそのように持ってって、こちらの予想した通りに来る。かかった鮎がまた、力が強い。なんでこんな力があるんだっちゃうぐらいの力。

鮎釣り竿って、今はずいぶん細くなりましたけど、昔は太いんです。で、長い。なんでこんな太くて長くて重たい竿で、髪の毛のより細いような糸をつけて、なんでこんな仕掛けで、こんな姿で釣るんだ。もっと細い竿だとかね。あんだけ細い糸を使うんだったら、やわらかい竿でなけりゃ切れちゃうと思うんだけど、やわらかくちゃだめなんだ。

竿は人によって 10 メートルの人もあるし 8 メートルの人もあるけど、だいたい平均すると 9 メートル。9 メートルですよ、長いですよ。今はカーボン。昔グラス。その前は竹です。高いですよ。よう買わん。安いやつで、腕でカバーする。

【鮎 90 匹、釣って帰ってその後】

仕事っていうのはできるだけ短い時間で思った成果さえ出せばいいと思うんです。休みに入ると仕事のこと一切頭から消えます。釣りは優先でしたね。

一日の記録、確か、釣りで 90 匹ぐらい。100 以上釣る人ちょいちょいいますよ。僕の場合は一日行けばある程度必ず釣ってくる。当時ね。負けたくなかったから。

だから研究も熱心でした。自分がようけ釣りたいもんだから、記録してた。特記事項とか。長年(記録を) 付けてるともう頭ん中にデータが入ってくる。だから何カ所も行ってんだけど、比較的決まった場所に行ってるんです。この天気だと今日はあそこがいい、と。

鮎 90 匹、食べるんですよ。当時、できるだけようけ釣りたいからね。冷凍したくなかったんで、煮たり焼いたり、保存のために甘露煮にしとくとか、そういうことです。命を無駄にもしたと思います。冷凍は難しい。海の魚みたいにきれいにできない。急速冷凍機とかないですし、普通の家庭の冷蔵庫でやると腹がくしゃくしゃになっちゃう。

魚の味ねえ、あんまり変わったという印象はないんですけど、大いに違うのは、調理する腕前。初めの頃は、たくさん釣れるし、疲れちゃつとるし、いい加減な調理してたと思うんですけど、そのうちにだんだん自分の中で、鮎を焼く技術、甘露煮を作る技術が進んできて。

少なくともまず千匹ぐらい焼かないとうまくなりませんね。火加減ですよ。炭を盛り上げるように積みまして、その周りにずーっと口下にして立てるんですね、で、回りを、ドラム缶でやる人もいるけど、僕は、トタンですね、アイン引きとか、平らなやつ、あれで輪っかを作って、輻射熱で裏からも焼けるようにして。で、その炭もできるだけいい炭。備長炭はだめです、火力が大きくて火がおきるまでにえらい時間かかるので。普通の黒炭でいいんだけど、いい黒炭を使う。火力を強くして。そうやって焼くとおいしい。原理はそうなんだけど、火加減とか、やっぱりあるんですね。

甘露煮でも時間かかると思うでしょ。僕の場合は火にかけるのは20分です。骨までやわらかくしようとは思ってませんので。あと一晩置くんですね。味をしみこませる。そうすると、時間かからん。とにかく、釣るほうで疲れちゃつてる。全力で釣ってますから。20分ぐらいで勘弁してくれっていう話。ただし焼くのは50分かかる。だけど、もう経験で、このぐらいであとは30分後に見に来(く)やいいなっていうもんです。

【日本中の川が魅力を失った】

僕は今は釣ってないです。日本中の川が魅力を失ったんです。僕がここから通って釣りに行ける範囲はもうだめですね。鮎の性質がとにかく違う。釣り方が全然違う。

今はとにかく、飛ばしちゃうかんし、ゆるゆる一っ行ってそこにポイントに行ったかなと思ったら、ずーっと待とらんといかん。そこへ入って一息、5分とか待たなければ釣れてこないっていう釣りなんですね。そんな釣りようせんもん。

今の鮎全然違うんです。近寄ったら逃げていきます。舟で近寄ってつても逃げていきます。

攻撃性が落ちた。昔は鮎がツルツルに石をなめてピカピカにするから、川がダイヤモンドみたいにキラキラキラキラ輝いているんですよ。今は鮎がいてもちよつともなめてくれない。何食べてるんだろう、分からん。

当時潜水調査とかいろいろやったんですよ、釣れなくなってきた。そうするとね、とんでもない深みの、巨大な石の、しかも根っこの部分、そこなめてる。隠れて。どこにおったんだお前らつて。何でだろう。

そりゃあねえ、原因はこれじゃねえかっていう単純な話ではないと思います。

昔から放流してたし、やつとることってあんまり変わってないですよ。川の水量とか川の透明度なんて変わってないですよ。何が違うんだって、分かんないですよ。天下の長良川でも釣れなくなったし。四万十もだめだし。高知なんかよく行ったんですけど、川が短いんですね、四国山脈があって海まで距離がないもんですから。で、人がいないから、川なんか昔の姿のままきれいなんですね。で、釣れたんです。何年か前からやっぱり四国もだめになって、そっからもうガタガタになるんです。ある時期を境にしてっていうのは、一緒なんですよ。豊川にしても矢作川にしても、長良にしても、その始まりの時期が違うだけで、その現象が始まるとガタガタになっちゃう。

矢作川では1990年ぐらいを境にして。劇的でしたね。

昔は、解禁前にずーっと上流から下流まで川を見に行くんですよ。そうやるともうピカピカになって、「早く解禁にせんかや」と思った。すみずみまでピカピカです。ピッカピカです。チャラチャラな浅いとこまでピカピカです。もう川じゅうピカピカです。それがねえ、あるときを境にして、突然、「あれえ？全然なめてないじゃないか」って。ほいで、流れの芯のいい石の下だけがなめてあるっていう状態だった。それが下流と上流とは1年、2年多少違いがあったと思う。何かの臨界

状態に達して、突然現象として激変したように見える、けども静かに静かに変化は進んでいたということではないかと思うんです。

釣りをやってないと分からないです。けど、魅力がなくなったら釣りをやらないもんで。毎年行こう行こうと思うんですよ。心にむち打って、おい、行けよって。けども行く気にならない。

で、鮎より少し遅れてアマゴを釣り始めて、アマゴの記録も同じようにずっと付けてたんだけど、今アマゴもだめだね。アマゴは上流だから、川がいいとこで釣るでしょ。だから鮎よりは長くもったんだけど、アマゴもだめになった。いなくなった。育たなくなった。だからいきおい成魚を放流するようになった。あれ釣ったらもう二度とこの川では釣りたくない。養殖して大きくしたやつですよ。釣り人が増えたのかねえ。魚も育たない。

【カチカチになった川】

百々（どうど）の貯木場の水門がありますでしょう、これを見ると今の矢作川は昔より3メートルぐらい低いんです。基本的にはそんなに水量減ったんじゃなくて、河床が下がったんです。河川に埋没しとった昔の木の根っこの跡が、木の姿のまま河床が下がって出てきちゃった。埋没林っていうやつ。ここから20キロぐらい下流に天神橋というところがありますけど、そこへ行くと5メートルぐらい下がってる。東名高速道路の橋脚がもう危険になって、大きい石持ってきて周りに沈めて鉄板で囲ってっていう工事もやってます。それから隣の巴川のほうから矢作川の下をくぐってサイフォン式で農業用水を取ってたところがあるんですけど、その最後、埋めた川が出ちゃったんですよね。で、河床掘り直してもっぺん埋め直したでんすね。つまりダムで土砂の供給がないから、川底が流される一方なんです。

鮎釣りを始めた頃から、潜ってみても白い砂はないし、黒い石になって、イシャンコもほとんど見かけない。子どもの頃はほんとに川が自然な状態でやわらかい状態でまだ保ってた。鮎釣りを始めた頃はまだかろうじてそれを保ってた。かろうじて。けどその後急速に砂がなくなって、いまやカチカチになった。

東海豪雨で、堤防から水があふれるなんていう予想だにしない大水が出た。その後で水辺公園を直すために、中洲で川を全部仕切っちゃって、こちら側を川流して、向こう側を空にした。そのときに見たら、川底全く動いてない。石がガチーン。普通だったら河床が破壊されて転がるでしょ。それが舗装したお城の石垣みたいになってる。その上に流れてきた砂利が少し乗っかってただけなんです。みんな流されてしまっって、流れが収まってきた頃に、流れてきた砂利が少し堆積して残っただけです。流木は浮いて流れてくだけだから砂利を動かさない。ものの供給がないんですよ。そいで、大きい礫が砂の中に浮かんだ状態。大きい石ばっかになったもんだから、そいつがキュッてかみ合っって、石垣みたいになっちゃった。ツルーツと平らなんですよ。石垣の三面張りですよ。実に見事です。

それで、もう魚もいないだろうと思って。そのときに、川底を動かしたんですよね。陸地のほうへ、すくった砂利を重機でひとすくいジャブってやった。

びっくりしましたねえ。カワヨシノボリです。イシャンコが無数に。どえらいこといたんです。かつて川底の見えるところにいっぱいいたイシャンコが、川の中から出てきた。「お前たちどこにおったんだよ！」深みの石と石のすきまのわずかなとこにいたのか。それにしても数は多すぎる。水を抜いたから寄ってたってこともあるのかもしれないけど、それにしてもね、予想外にたくさんいまして。

この川っちうのは、魚にとっては死んだような川かやと思ってたら、意外にしぶといです。

それと、地方名でキンパクっていう釣り餌。カワゲラとかで、トラのような模様の虫。魚にとっ

てはおいしい、アマゴ釣りの餌で、長良川へ行くと高い値段で売ってる。それがほしいほしいって思ってたんだけど、それも、無数。無数ですよ、まさに。ギューってやればいっぱいになっちゃうぐらい。ユンボでジャブって川底を掘ったら、いっぱいいたんです。昔からいるっていうのは聞いてて、どこにいるんだよと思ってたんだけど、川の深みの、普通のスコップではちょっと動かせないような石の下に地中の世界がある。

それまで破壊されたらほんとの最後だなと思うんだけど、まんだ隠された生息空間があるんだなって。面白いもんだからずーっと暇があればこの工事見に行ってたんだけど、そういういろんな発見が結構あるんですよ。見た目だけじゃ判断しちゃいかんと思う。川で起きとるいろんな変化もね。まあいろんなこと言われましたよ、家庭排水がいかんだとか、ゴルフ場がいかんだとか。だけどね、そんな単純なものじゃない。自然界で起きとる変化の原因っちうのは。

【河床の下まで川】

川は表面だけじゃなくて、川の中、地面、河床の下少なくとも1メートルぐらいは川なんですね。水が流れとるところだけが川じゃなくて、どっちかという、川底の中の構造のほうが重要。

川は、結構けなげだなと。上流、つまり矢作ダムの直下流、小渡（おど）、時瀬、有間（あんま）とか、笹戸より上で、ある年に、この部屋よりでかいぐらいの岩が洪水で流れてきて、水が引いて川原にデンって座ってたんです。これが、翌年行ったらないんです。埋まっちゃったんですね、周りが掘れるでしょう。それぐらいのやつがスポンと川ん中に沈んじゃう。そのぐらい川がやわらかかったんです。

ダムが運用開始したのが昭和46年です。この水面工を始めたのが昭和52、3年だと思うんですけど、まだそんな岩が沈んじゃうぐらいやわらかかったんですよ。で、川原にヨシとかあんまり進出してなかったんです。

矢作ダムができる前、洪水がしょっちゅう起きるから、川に植物がなかったんですね。広々しとったんです。それが、毎年行くたびに、だんだんだんだんヨシが迫ってきて、石は沈まなくなってきました。ダムが運用開始してから、川が誰の目にもダメになったぞというまでに40年かかかっているんですね。けなげですね。だめになったのに40年ぐらいはなんとか魚釣りができる。

アマゴ釣り行くと、川の濁り始めの時間がね。上流の稲武町なんかはずっと最後まで山の手入れしとったんですよ。で、冬の仕事ですから、3月の解禁に山入ると、あちこちで木が切り倒されて、山仕事の片づけがまだ続いとったんですね。その頃は、大きい雨が降って止んだらすぐ行けど。1時間で川に着くんですよ。さき濁りになつとるんですよ。濁りがかなり澄んできつつある状態ですね。その状態がいい。人間の姿見えんからね、水量多いし。もう、釣れてしょうがないんです。アマゴが。食い気が立つとるんです。アメノウオっていうぐらいですから、雨が降ると活発に餌を取る。大雨に餌がようけ流れてくるから。1時間でその状態になったんですよ。

それが、その後、雨が止んだぞ、それ行けちって行くでしょ。「あれ、まだ濁つとるじゃないか。ちょっと喫茶店で休もうか」って、2時間ぐらい待ったら、あ、きれいになったと。で、釣ろうと。

で、翌年になると、「あれ、濁つとるじゃないか」と。4時間経たないとその状態にならない。やがて半日、やがて1日経っても濁りが取れんっていう状態になったんですね。その頃から稲武の山も手入れがだんだんされんようになってきとった。それも30年とか40年とか山の手入れがされなくなって明らかな変化が進行するようになって。

1時間できれいになつとったもんが1日以上かかるようになってしまったんですね。ほんの数年でですよ。それと同時にアマゴがだめになったんですね。

その面白さがなくなったもんだから、今もう、やる気がしない。東海豪雨が境目でしたかね。あ

れ以後2年ぐらいは川がだめでした。それが回復して、やってきたらだめだったんです。全くだめでした。

【自然に教えられること】

今山へ入ってます。

ちょうど50歳のときに山を買った。田んぼについた山ですね。要するに柴刈り山。雑木林です。こういう条件満たす山があるかってことで探したらあって、買って。つるなんかに覆われて荒れ果てていたんですけど、森を元気を回復させるようと10年かけて手入れをして、今、週末はそこで過ごす。

解放されるんです。言い換えると、自分のことを忘れる状態にしてくれるというのが川であり山である。そこと溶け込む。自分というのがあんまり意識されない。それが実は自分を解放しとる時間だと。そうすると、芯から、心を含めて疲れが取れる。そういうのを体が知ってると思う。

川がその役目を果たしていたのが、今だめだから、山へ行く。

古い時代、2千年とか3千年とか1万年とか、そういう前の人間ってそういう状態じゃなかったのかなと思う。とにかく役人ですから、ストレスが多い。そういうのから体を守って、という時間だと思うんです。

だけど、そこで教えてくれるんですよ。バランスを取るってどういうことなのかって。役所も、要するにバランスを取る役目ですから。バランス感覚ってというのが身に付くんですよ。逃げたりなんかしないで、あるべき自然な姿って何、何が結論なのっていうののを見つけ方が早い。その道を選んどけば、時間かかるけど、自然に問題が解消に向かってくという。間違った道へ行くと問題解決しない。さらにこじれてますますややこしくなるだけですから。その道を誤ると、国民にとって、あるいは市民にとって不幸ですよ。

役所って最終的に世の中のしくみとして制度として作ってのが仕事ですから、間違ったしくみの作り方をすると、必ず軋轢、無理が生じて壊れますよ。無理のない社会構造にしとれば、人々はその上で自ら次の新しい、豊かな生活を知らず知らず作って。自然がなんで豊かなんだ、なんで美しいんだ、なぜこっちの自然が美しくないんだっていう違いを、自然に学ぶ。それをそのまま仕事に当てはめていくってということなのかなと思う。

これ別に仕事に限らないです。だから家庭における子どもたちの見方ということも一緒なんです。無理のない、親本位じゃない、子ども本位。そういうのが分かる。

次の地球的な規模で動く世の中では、新しい関係に向かう世界の構造を作る参考になると思うんですよ。もともと自然の一員ですから、自然というものは先生だと。まさに神ですよ。自然の仕組みの中でこそ制度の根幹、原理があるって思えてしょうがないんです。

僕ももともと、そういう社会的な実験がやりたくて市役所選んだんですよ。

昭和46年に役所に入りました。昭和40年代から世の中急激に変化を始めてた。これは世の中壊れると。その頃、社会が壊れるって思った人結構いたと思いますよ。田んぼどんどんつぶして住宅地を作って、乱開発が始まって。人が生きるベースを壊しちゃってどうするんだよって。そのスピードがあまりにもすさまじくて。どうしたらいいんだ。やってみないと。それで、結局、地域自治制度を扱うってことです。そこで、希望通りの仕事ができる。それをやるために考えたのは、自然から学ぼうということなんですね。

【川をきれいにする行動が愛護会に】

愛護会を始めたのは、アユ釣りを始めた頃です。だから昭和34年ぐらになるかな。20代の終

わりぐらいでしたね。そのとき行ってみたら川がものすごく昔の姿と違って、竹が密生して川へ入れないような状態で、びっくりしまして。そこからのこぎりやら草刈機やら持って川へ通い始めたんです。それで切り開き始めたんです。洪水のたびに出たごみが、竹やぶの中、櫛で濾し取るようにして下にうーんとあった。それを全部引きずり出しては燃やした。ほいで、メダケのあとでマダケが生えてきて、中で全部枯れてた。とにかくすごい状態になってた。それらを全部切り開いて、15年ぐらい掃除を続けてた。そこで、私の鮎釣りの師匠の木戸さんが、お前のところで（近自然の）工事をやると。近自然というのは、やった後、人がずっとかかわり続けて川と人との合作で仕上がってく。ここでやるからお前あと面倒見ろという形で、ここで始めたんです。

で、やり始めたら年寄りたちが目覚めてしまって、現場へ毎日来て、工事のやり方まで口を出して、そのまんま愛護会まで発展してっちゃったんです。30名ぐらいの愛護会ができて、僕がぼちぼちとやってたやつが一気に進んだ。ちょっとやりすぎちゃうなと思ったんですけど。30人が思い思いにやると、ちょっと変化のスピードが速すぎる。だから今の古峯水辺公園の姿は、少し過度に人間が手を入れすぎる状態だと思っています。あのぐらいの面積だと、せいぜい2人程度の人間がかかわっておればちょうどいいぐらいではないかと。そいつが20人とか30人。まあ年に数回のことですからいいんですけど。

しかし、先週もきれいにしましたし、そのまた3週間ぐらい前もやりました。先週は楽でしたけど、30人が草刈機やらチェーンソーやら持ってきてやると、この延長700メートルぐらい、半日できれいにしちゃう。すごい。すぐ草で元に戻りますけどね。竹はやっつけましたんで、まあ竹は生えてこない。中心メンバーは70歳超えてるぐらいかなあ。その人たちが一番働くんだよ。すごいよ。草刈りやらしてもね、僕の3倍ぐらいやるんじゃないか。

相当の数が釣りをするけども、減ってきました。ここ、釣らないです。釣れないです。水辺公園に夜中に来て騒ぐやつが、そのままごみを残す。そうすると、僕はよく朝行っっては片付けてたんですけど。でもほとんどの人は片付けていきます。常にきれいにそうじしますの。土曜日、日曜日、月曜日の朝、必ず見て回って、少し残ってるやつも全部掃除して歩いて、大体きれいにする。

【矢作川研究所】

矢作川研究所は、矢作新報の新見さんが言い出して。あの方は矢作川を守るために生まれてきたような人です。研究所を作ろうというのも新見さんだったんですね。市の職員で河川技術者の木戸のりじという人が、本読んで福留さんの近自然工法を発見して、自費で四国へ何度も通って福留さんを連れてきたんです。で、豊田市の現場においていろいろ始めた。

それで新見さんが、感覚の鋭い人だもんだから、矢作川研究所と矢作川水源基金を作ろうと。仕掛け人は全部新見さんなんです。役所にとっては新見さんちう人は大変扱いにくい人で。馬力があるもんだから、みんな押し切れちゃって、無理やりやらされてやってきたちうのが実態なんですけど、やってみたら世間の評価がとていいもんだから、みんな反対できなくなっちゃった。いまだに役所としては、市のレベルで矢作川研究所を持つとかいうことは何とかやめさせたいっていうのが底流にある。けども、実績が積み重なっちゃったし、まだ新見さんが生きておいでるもんで、その間はやれないですよ、誰も。

それに、古峯の人たちは川の民なんですね。農地がないから、舟の運送業、筏師の村なんですね。そういう、川のことをよく知った古峯の人たちがいたのと、この近くに住んでおられる新見さんのような人材、それと、しっかりした技術基盤のある木戸のりじという河川技術者がおって、福留さんというまた強い人と出会って、役者がそろって、ここを舞台にして事が始まっていった。そういう気ちがいみたいな人が大事なんですね。

【環境省に求めること】

だで、環境省あたりが一番やらないかんことは、科学者にお任せじゃなくて、フィールドでの実験的な取り組みをたくさんやることだと思うんですね。

それとやっぱり、一度決めたらすぐに結果は出ませんので。20年30年という期間、批判に耐えて同じことを続けるというのが役人の特権です。批判されても別に身分に影響はない。そういうことをやれるのは環境省ぐらいしかないので。ほかの省では、利益代表ですから。やってほしいと思うんですよ。環境省の文化として、そういうことだぞと。これを根付かせるだけでも10年かかるかもしれんけど。

日本で非常に多様だもんだから、国民そのものは自然の多様性っていうのを理解する民族だと思うので、それを肯定する人たちは潜在的にたくさんいる。だから、環境省ががんばれという人たちはたくさんいると思うんですよ。ほんのついこないだまでみんな山で暮らしとったんですから。

今の子どもたちはもうだめなんです。だから、それが分かる世代がおる間に、次の、日本の伝統的な強み、自然、多様性を理解するっていうこの文化を、どうやって伝えていくのか。そういう環境で育たないと、身につかないと思うんですよね。DNAの中に刻み込まれてますのですぐには薄くはならないと思うんですけど。だけど早く手を打たないといけない。

この日本の自然の多様性は、東南アジアとか北極のほうとかと違うと思う。東南アジアも多様じゃない。寒いほうはもっと多様じゃない。日本が一番多様だなあと思う。それで調和してるでしょう。で、安定してる。で、美しい。人間にとって心地よいこの文化を、西洋やらアフリカやら。野蛮な国々の文化はね、やわらかい文化にね。イスラムとか、過激でしょう、やるのが。気候とか影響してるんじゃないかと思うんです。平和と安定、本当の自然の美しさ、あるべき世界の姿を、民族単位で世界にリードできるのは、日本が一番だと思うんです。多様な自然が調和してうまくやってきた。それを民族として、大きな塊として、能力を持つてっていうのはほかにはちょっとないんですよね。

日本の里山的なもの。それをどう論理的に展開をするのかということの助けになるのが、少し科学的なものの見方ができてデータの蓄積ができる人たちと科学者が協力して、そのたくさんのデータで科学者が国際的に通ずる言葉を開発して、理論的な組み立てをする。

そういうことの仲介に環境省として取り組まれたらいいと思う。

科学者バカでもだめ、自然バカだめ。矢作川研究所を作ったのはそういうねらいなんですよ。

新見さんが言い出したときに、庁内の調整を私がやったんです。客観的な、科学的な、しかも誰でも分かるものをここで集約して、これを舞台に議論をして、で結論を出して事を進めていこうっていう話に。

ちょうど長良川河口堰のあたりがぐちゃぐちゃになってましたので、これを作ることが理解された。されてないのかもしれない。けども、まあ突破はできた。

【これから求められる人】

ぼくらいいい時代を知っちゃってるから、だめな状態で釣りしたくないんだよね。だけど、次の世代で釣りやる人は、それ知らなきゃ今始めやいい。次の世代が始めてくれてそういう変化を見るといようなことをやると、今自然界で何が起きているのかというように分かるんですね。

科学者は、要素を絞り込んで、これがこうなるとこうなるんだという因果関係を解明しようとするでしょう。あんなの何の役にも立たんと思いますよ。自然界で起きとるのはもっと複合的な総合的なことです。感覚で分かるという数パーセントの住民の科学的な目を見たものを寄せ集めて、こういう状況のときにはこういう結果が常に起きるといようなつかまえ方をしないと。この自然を

守るためには山の間伐を進めにかあかんぞとか、何をしたら効果があるんだという結論を早く得ないと行政的に手が打てんですよね。科学者に任しとくと、「いや、30年は待ってください、少なくとも30年は研究しないと結果が出ませんので」って。待てねえよ。「行政マンはすぐ結論がほしいんだ。俺らどうせやええだ。何をしたら後で後悔せずに済むんだ。その結論を早く出せ」と。「いや、それはちょっと学会から批判されますので」って。学会なんかどうだっていいだろうって。

そういうチャレンジ、自然界という舞台上でやっていい。現場の自然を相手にして手を加えていいと。お前の意見でやらしてやると言っとるのに、決断ができない。

だから、自然を科学的に観察できる人、自然を総合的に見ることが出来る素養を持った人を育てる。釣りだけじゃなくもいい、野鳥観察でも何でもいい、そういう人たちを増やして、その観察記録を寄せ集めて、それを分析して自然の変化に早く気がつくことです。気がつかないんですわ。自然って我慢強いんですね。たくさんの要素が絡み合って、緩衝材の役目を果たしてるんだと思うんですよ。特に日本の自然って豊かだなあと思う。20年、30年、40年で、タイムラグがある。気がつくのにそういう年数が必要なんですわ。だから、その手を打ったら、今度はその効果が出るのにも20年、30年、40年ってかかる。それ失敗すると、無駄な期間が長すぎる。科学的にものが見れて楽しんどる人たちを増やして、そういう人の意見、データを寄せ集めるという話が大事じゃないかなと思うんですよ。

だけどほんとにね、僕らも団塊の世代のわけですけど、次の世代でこういうことやるっていう人たちがいない。僕らの時代って、ほんとに時代が変化する中で育ってきたから、変化の意味を肌で感じておるんです。団塊の世代は、会社でも技術開発の過程を自ら体験してきた、あれ大事なことだと思うんですよ。自然の変化の状態を見ておる、世の中の社会のしくみの変化を見てる。団塊の世代が一番見てきたんです。そういうものを伝承することを社会の仕組みの中に作りこまないといけない。

それを国のお役所をお願いしたいと思うんですよ。一番大事な国の仕事だと思うんです。地方自治体ではできないんです。それだけの人がいない。いろんなチャレンジを地方でもやってる人は部分的にはいると思うんですけど、やっぱり全体でやらないとだめだと思う。これからの日本のあり方っていうのはそういうもんだぞと。目指すところは世界の平和をリードする社会実験をいろいろやって発信してくことだと思う。日本にしかできないんです、多分。



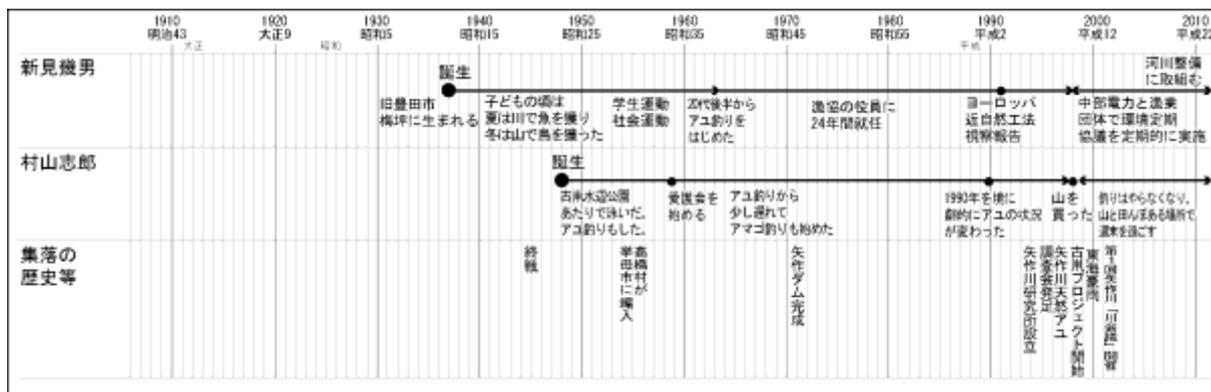
図 4-32 : 「聞き書き」により明らかになった要素と古巣地区の空間との関係

イ) まとめ

①調査対象者の生活・生業史

古嵐地区では、川遊びやアユ釣りなど川と密接に関連した暮らしが行われてきたが、高度成長期を経て、矢作ダムの整備に伴って、アユの生息数が減少するなど徐々に川を取り巻く環境が変化してきたことを認識し、川の環境保全に向けた新たな取り組みが進められている。

表 4-26 : 調査対象者の生活・生業史 (年表)

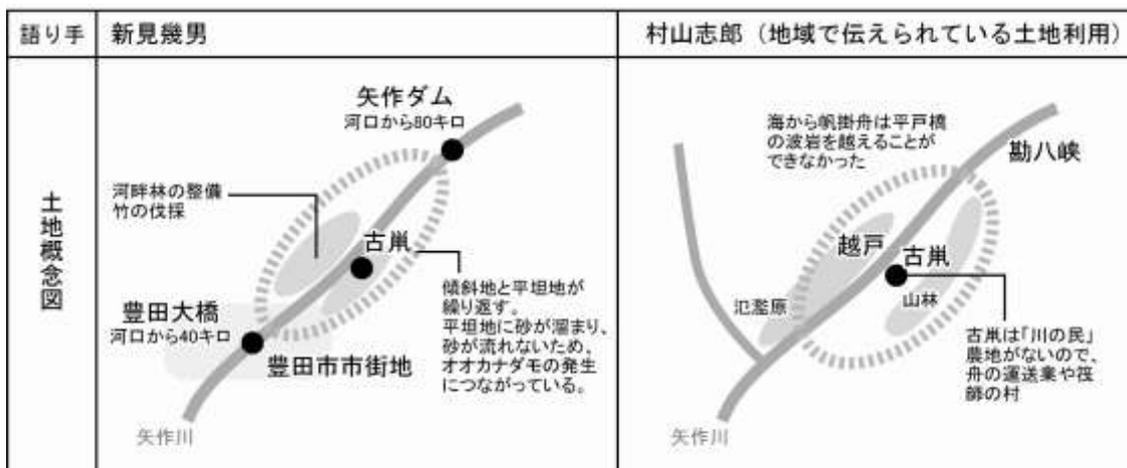


②環境の変化に対する認識

矢作川のアユは古嵐地区の重要な地域資源であり、川の環境を示すものさしであった。また古嵐地区は矢作川の水運業にとって重要な場所であり、かつては筏師の村だった。現在では、河畔林の混みすぎた竹林の管理の重要性、河川環境の変化に対応して、オオカナダモなどの除去の必要性などについて認識が高まっている。

表 4-27 : 環境の変化に対する認識

名称/呼称	時期	概要(特徴、場所、料理や工芸品への活用)	現状の状況	資源利用のルール・慣習	関係する生業	話し手
1 アユ		長い竿で釣りたいところまで空中で飛ばし、着水と同時に釣れた。今と比べ、竿が太くて長かった。煮たり焼いたり、甘露煮にして食べた。	かつては一日90匹釣れることもあった。原因は分からないが今は釣れなくなった。		川漁	村山志郎
2 竹		竹やぶの竹を撤去し、チップにする	豊田市、国の補助を受けながら実施			新見幾男



聞き取り調査より作成

図 4-33 : 土地利用概念図

③地区の自然環境に関わる保全・再生活動

古兎地区では、河川環境の変化に対する認識から、近年、地域住民や漁業関係者、企業、NPO 法人等の協働・連携により、河畔林の整備や外来種の除去、アユの保全活動など多様な取組が行われている。

これらの取組は、地区の居住者も含めた活動として、矢作川流域全体も視野に入れた新たな展開を見せており、集落や河川の環境保全に寄与している。

表 4-28：地区の自然環境に関わる保全・再生活動

集落の維持管理活動・社会組織（古兎）

	名称・通称	組織の目的	概要 (成り立ち・当時の状況)	構成 (人数、メンバーの特徴)	継続の有無 (消滅要因)	話し手
ア	NPO法人 矢作川 森林塾	もともとは、上流の水源地域の手入れをすることを目的に設立した。	地元の川をきれいにすることを優先することになり、河畔林の整備やオオカナダモの撤去などに取組む。	登録は30人ぐらい。そのうち、漁業系の人が約半分。	継続	新見幾男
イ	中部電力との環境 定期会議	天然アユの復活の定着。	中部電力と漁業団体が協働して川の中の草をとるなどアユの復活に向けた取組を実施。	中部電力用地部、漁業団体	継続	新見幾男
ウ	矢作川 漁業 協同組合	川漁の管理、河川環境の整備など。	組合費はなく、加入時に権利を買う。組合に入る動機は、舟に乗ることができるため。	古兎の組合員は20人。出荷をしている組合員はいない。	継続	村山志郎
エ	古兎水辺公園 愛護会	古兎水辺公園の維持管理。豊田市河川課が支援。	河畔林・竹林の整備。	約30人。中心メンバーは70代。	継続	村山志郎

※矢作川漁業協同組合資料



矢作川森林塾 活動風景

出典：矢作川漁業協同組合資料

3) 豊橋市前芝地区

ア) 聞き書き

【聞き書き①】 半農半漁

青木正子（あおきまさこ）（77）昭和8年生まれ

【浜と百姓】

わしゃあ浜と百姓のことしか分かん。

アサリを採り行くのやめて3年目。もうどうにもえらくなって。心臓で入院したもんだいね。今年の暑さは、畑行っても1時間もやっとならんと汗だくだくでね。耕運機の小さいの、私買ったもんだい、畑（はた）ちいとばか作つとるのよ、5畝か6畝（500～600㎡）ぐらい。ほいでうちの食べる程度の野菜作つとるだ。夏んなればキュウリ、ナス、トマト、スイカ、あとニンジン、ほいでサツマイモ、トウガンとかカボチャね。うちの食料（くいりょう）をちょっとこつと植えて、一人でごそそやっとならけどね。

その草が今年はずごくでね。雨が降るときゃあダーダー降る、天気になったらカンカンいってムシムシせる。こんな天気ちょっとないもんだいね、もうばてちゃってよかない。

家族はないじゃん。今一人。

わしゃあもとは百姓だもんだい。小学校3年生から親に田植えに使われてのん。前芝へ数えの21歳でお嫁に来て、それから浜をのん。

昭和28年4月の22日にお嫁に来た。仏様前で「高砂や」やって、三々九度やって。そういう結婚式だった。ほいで夜中（よじゅう）わあわあ騒いでね、お客さんはみんな朝方帰るだ。61歳で後家さんになった。私の旦那、ちょうど丸3つ違うじゃん。今生きとや80歳かね。ほだけど64歳でコテンと死んどる。浜行っとなら心筋梗塞で。

そのときゃあもう海苔はやめとったね。ほいから角建（かくだ）て（角建網）も建て干し（建干網）もやめて、アサリだけ一人で採り行った。豊川（とよがわ）の上（かみ）のほうへ、シジミ採りもアサリ採りも、おじいさん（夫）生きとるうちは2人で行ったけど、死んでからは、74歳まで私が一人で舟に乗って行った。ほんとにここもアサリもよう湧いてね、採れたんだよ、昔はね。

【田畑の多い神野新田 少ない前芝】

私がうち（実家）におるときはね、海苔は冬にすごく真剣にやったけど、夏は田んぼを真剣にやった。私んたち兄弟7人もあった。私は一番長女だったもんだい、一番よう使われて、学校卒業してからは、朝、親と一緒に田んぼへ出たり。昼休みは1時間して、晩まで働いた。おじいさんおばあさん早く死んじゃったもんだいね、私の父親と母親で、手間がないもんだい、子どもを手伝わしてね。

こっち、前芝は百姓少ないじゃん。海苔の採れんときや、アサリも死んじゃってないときは土方で稼ぎ行くじゃん。あの時分、結構仕事あったもんだい。ほいでねえ、私はちょっと年配の人と行ってね、「あんたは偉いねえ、小言一個も言わん、えらいとも何とも言わんで一生懸命で働くで」って言うもんだいね、「私はこういうもんだと思つとる」って。人に使われるものはこういうもんだって。百姓やっとならもんだい、こんきい（体の疲れる）ことはみなやったもんだい。若いうちなんか、俵の1俵60キロ、それを提げたものね。60キロはいい体の人でなけにゃあ、なかなかえらかったけどね。ほのぐらい使われた、親にね。

うち（神野新田の実家）のほうは牛デンプウ、牛を1匹飼つとならもんだい、それがこんきい仕事やってくれたの。田んぼ打ったりなんかするのね。こっちい来たら牛がおらないじゃん。ほいで

全部手作業。鍬と備中で。神野新田は昔は浜だったとこ埋めたもんだいね、砂だし。ほいでこっち（前芝）のほうに泥だもんだいね。田んぼでね。そこで鍬でやる、雨が降っても何が降っても、人間がみなやるじゃん。まあ、それはえらかった。6反ぐらいしかなかったけど、人間がみなやったでね。2町の余（よう）あってもあっちのほうによっぽど楽だった。

海苔は、牟呂では昔は全部みんなやとったもんね。だけど、アサリまではあんまり。百姓が多い人んとう（人たちは）、夏は百姓で一生懸命、ほいで冬は百姓がちょっと暇なるもんだい、海苔の権利を取って六条潟ずっとやったんだけど。ほんだもんだい、私がおる実家も、今でも2町5反ぐらいある。海苔だけは真剣にやったけど、アサリとか、そういうものはもうそんな真剣にやらなかったね。

【百姓の合間に海苔作り】

浜はもう、潮とき。一日できない。潮が下げてきゃあ浜の仕事行って、浜が満ちてくれば仕事できんから帰ってくる。こっちのほうの田んぼは、雨が降ると水がついとる（浸かる）もんだい、秋のたかりやなんかは、田舟ちって小さい舟を持ってって引っ張ってそれへ稲を積んでね、ほいではぎへ架けたじゃん。それを、浜から上がってすぐまた田んぼ行ってやった。そのくらいやったけど、その日にゃあ疲れても、若かっただね、寝やあ治っただもん。

昔はね、西浜町のここからずう一と歩いて沖の方まで、海苔を採りい行っただよ。舟で行かんでも、潮が干（ひ）るとカンカラで歩いて行ける。

海苔も、今みたいに何でも機械じゃないじゃないのね。子どもも負（お）んで、裸電球の下で、お星様、お月様で、両手にバケツで水を汲んで、ドラム缶で海苔を溶かいて、ほいで架けるだよ、一人で。冬だもんだい、お父さんは、夜の白魚を捕り行とったもんだい。こっちお嫁に来る（とき）から、親に海苔を架けるように言われたもんだいね。こう、梳くっちゃうかな。機械じゃない、手でみな。枡でパカッとやっちゃあね。

2番目の子どもが下へ寝ん子だったじゃん。寝かいとや（寝かしつけていれば）自分寝ちゃうもんだい、その子をおんぶして、裸電球の下で水を汲んではね、海苔をドラム缶へ入れた。寝んで2晩やったことがあった。真冬に。そいでお父さんが夜帰ってくるじゃん。朝、白魚市場へ売りに行かにはあならん。海苔も朝また干さにゃいかんら。ほいだもんだい、朝ちやとと市場（しじょう）が始まるまでに行って、ほいでまた海苔をやって。

ほんとにね、ようあいだけのことができたなと思う。今考えるとね、今考えるとそう思うけどね、若くて、何でもやらにゃあいかんと思っで。

【ハマグリの場所】

ハマグリはね、あんまり沖じゃなくて、朝潮のたかの方に湧く。朝潮の方がハマグリがよけ採れる。なんか知らんけどねえ。旧暦で言うと10日の朝潮ちうのがあるじゃん。浜は旧暦で言うもんだい。たいがい10日ぐらいから行くと、ハマグリはよっぽどおる。

あんまり潮の鹹（から）いとこにゃあおらんじゃん。水が差すところじゃなげにゃ。ほいだもんだい、豊川の河口、下、そういうところによけ（たくさん）おる。吉崎のず一とと沖の方もずう一とと出たんだよ。ほいで、六条潟も、ず一ととよく干るときは、ええ加減おった。

昔は浅かったもんだいねえ。今はもう大船で田原の方行くあれから向こうほとんど掘っちゃって、砂採っちゃったもんだい、あすこら深くてね、ハマグリも何にもおらん。ただアサリだけは湧く。ハマグリは終わっちゃった。

結局潮が鹹（から）くなったわけだよ。それこそ、あんまり雨が降らんと、豊川のお城の辺ま

でも塩分があるちうもんね。ほいでで、今は本当に、大船があれを掘っちゃってからは、ハマグリがバタバタとなくなった。

【息で採るハマグリ】

ハマグリはあんまりみんなお金儲けにワーワー言わん。洲の上で、上手な人は、いい日には1斗でも採るだに。1升が10で1斗(=18リットル)。

カクワって道具、引っ張って振って引っ掻く、あの道具でみな採るんだけど、そういうでもまあ年寄りになって採れなくなると、ハマグリは息拾う。ハマグリは息って言ってね、ハマグリがおおるところは、ちょっと凹(へこ)んでやーらかいじゃんね。そこをスツとやって、手でぎゅっとやれば必ず大きいのが出てくる。私ら下手だったもんだい、みんなの何分の一しかよう拾えなんだけど。上手な人はすごい上手。拾っとるその次の息が分かるちうもんね。ここ1個採ったらハイ(もう)そこにあるちうこと分かる。

上手だもんだい、朝潮の、朝早い暗いうちに行ってねえ。年寄りのおばあさんなんか、起きてすつと行けん、腰が痛くて伸びんでって、夜中に起きてね、ちいと体慣らいて、ほれから採り行って。ほいで「ハイ採ってきた? そんなによけ」ってね。

ハマグリばっか採ってくるだよ、息で拾うもんだいね。

豊川工場があったときにねえ、空襲があって、私がこっちお嫁に来たときに、おばあさんとう(たち)が言うにねえ、「あのときにはなあ、ハマグリがベトベトに息になって」って。「そいでも、おばあさんおそがかつたらあ(恐ろしかったでしょう)、爆弾のバチバチ落ちて」って言ったらねえ、「何にも、あんな面白いこたあなかつた」って。そんなもん、空襲警報どころじゃない、おばあさん一生懸命で。みんな舟へ隠れたり、もやの陰へ隠れたりしたけど、そのきついおばあさんはねえ、一人で拾ったって。

【ハマグリ アサリ シジミの採り方 道具の使い方工夫】

ほいでね、ハマグリって面白いだよ。きれいな水のととき、浅く、舟が通れるぐらいの潮の下げにねえ、澱垂らいてシュシュシューッと走ってく。早いよ。サーーッと動いてく。アサリはそんなふうにならん。ハマグリはすごい早い。そいだもんで、「あ、見い、今日はハマグリがおおで、上へ上がってズズズッと沖い下がってくに」って言ってねえ。

深いうちは分からんけどね。それでザラーッとね、潮の流れに沿って沖い行って、また自分の棲みやすいとこへ潜るだらあじゃないかな。潜るとこは見たことないけど、ススーッと行っちゃうもんね。

アサリなんかカリカリ掻いとや出てくるもんだい、アサリの目を拾うちう人は少ない。カクワで採る方が早いもん。

どっちかっちやあ、ハマグリの方が潜っとる位置が深かつたね。アサリの方が浅いところにおったね。春先の寒(さぶ)い、水温が低いときの方が深く潜っとる。ほいで、暑くなる夏に、水温が上がってくる、そのときにはね、アサリも浅くなってくる。ほいで、そんなに深くすげんでも採れるけど、春はあんまり浅いとね、アサリの上っ面かきむしっとるぶん(だけ)。深くカクワをすげて、ギュッキュラギュッキュラ引っ張る。ちいと、こんきい(体が疲れる)けどね。

カクワに鎖があるじゃんね。深くくすべるときはその鎖をちょっと伸ばす。浅く引っ張るときにはその鎖を短くせる。そういうちよつとの勘考で(うまくとれる)。シジミでも何でもね。

シジミは浅いところにおるもんだいね、サッサッサッサ下がらんとダーダーダー下がらにゃ、入(はい)やん。ほんなアサリみたいな採り方しとっちゃ入やへん。たくさん動かんとシジミは採

れん。そんなに深いところにおるじゃないだでね。

【洲で採るシジミ 沖で採るカキ】

シジミも、昔、私が前芝お嫁に来んうちはね、加藤の端（はな）って、今も洲が出る（干潟が現れる）けど、そこらへんにもおっらしいよ。もうその洲もたんと出んけどね。今でもすぐそこ、舟溜（ふなだまり）のどこ出ると、ずーっと端（はし）のほうまで、よう干ると、田原の方行く橋の下の辺までズーッと（洲が）出てくるじゃんね。そこんところにもおっらしい。私が来た時分にやあ。

そこは加藤新田ちって前芝の加藤様っていう大家さまの田地だったらしい。端（はな）っていう、とんがったとこだもんだいね。堤防で囲ったるじゃんね。13号（台風）んときに丈夫な堤防を作つて。その端（はな）っぽからずうーっと洲潟が出るじゃんね、潮が引いてくと。

ターちゃん（知人）がよう行った。兵隊に行つとるときに、シジミを何か（黄疸）の薬だつていて。ほかの人に行かしても採れんで、ターちゃんが加藤の端でちょこちょこつと採つてきちやあ持つてく。「どこにあるだ教えてくれ」つて言つたら、ほんとのこと教えんもんで。誰も採れんての。上手なわけやわの、カクワでたーつと採るだもんだい。シジミは丈夫いもんだいいいわ、あんた。水（淡水）でも生きるだもんだい。

今でもカキはそこらへんでもちいたあ拾つとる人はある。ほんだけどやっぱりね、カキは沖の方がいい。沖つてもそうえらい沖じゃないけどね。やっぱり私んたちが放水路の堤防のふちで拾うよりは、もうちょっと舟で沖い行って拾うほうが、そりゃあ身のいいときはいい。やっぱり水が差すところの方がカキも味はいいだね。結局川の下（しも）つちうか、ああいうなぎのの梅藪のほうからずうつと来て、こっちは放水路あつて豊川もある、そういう潮と水と両方あるところ。やっぱりカキもシジミみたいなもんで、そういうところに湧いたほうがおいしいよ。そいで身もいい。カキつて、白く、クリクリ、ああいうふうになつたらにやあ、おいしくない。ほいでここらへんは養殖みたいに大きくない。

【観光客のための建干網】

建て干しは私が（嫁に）来ん前でも、ずっとグループでやつとつた。

昔はね、ボラやなんかはたくさんおつたつて。ボラあポンポンと産むもんだいね。

建て干しつちうのはね、満ち上がりに浅いところ、干潟んなるとこへ網を建てるのよ。昔は前芝館、大長（だいちょう）館、永楽屋さんとか、旅館さんがあつたもんだい、お客さんからいつ幾日（いっか）にいくらの建て干しを建ててくれつて注文が入ると、建て干しの仲間、権利のある人が建てるのよ。

竹を、下が留まつて網をかけるように作るだよ。それを手でキュッキュッキュッキュツやると機械なくても入るだよね。そいで、何万円の建て干しだと何反網が要るか、大体ずーつとやつとれば分かるもんだいね。そいで、満ち上がりだと、ボラとか何とかは上へ上がつてくるだよね。昔はすごいおつてね、たくさん入つたらしいじゃん。私が来てからは、まあ昔と思うと魚が少なくなったなあつて、こつちい来たおじいさんおばあさんが言つとつたけどね。

潮時（しおとき）を見て夜中でも何でも行つて、朝、潮が引いてその洲んなるとこへ拾いに行けるように建てるじゃんね。そうせると、お客さんがタモからなんか持つてきてわーわー言つて、まんだ水があるうちに魚がパタパタ逃げえとして網のほうまで来るけど、逃げれんもんだい、そこですくつたりなんかして。

お客さんが拾つてかん、余つたのは自分たちで拾つて市場へ売り行つただつて。

【毎朝揚げる角建網】

ほいで、角建てっちやね、海苔が済んで、夏だもんだい、堤防から200間か300間の沖へ大体100間ぐらい間をおいて個人個人で建てるだよね。権利もちゃんと取ってやった。角建てやっと思った人5人ぐらいかな。

ほいで、毎朝それ揚げるちゃ。6つ魚の入るとこ、入ったら出れんようなふうに作ったのよね、ウナギでも何でもそうだけど、口が狭（せば）くて、いっぺん入るとなかなか戻れんだよね。それを朝ほどいて。丸いのが3つぐらいあるかな。一番最初のは大きいじゃん、その次、2番目ぐらいは中くらい、一番下行くとまたちょっと小ぶりになって。上からふくって、一番下をほどいて、籠ん中へダーッと開ける。そいで仕分ける。それがその網に6つあるだよ。それを大体3つ、4つぐらい入れてあるかな。

そいで朝3時ごろ、ちょっと苦潮でも、たくさん魚が来て追（ぼ）われてたくさん入ったいうときは、まっと早（はよ）行かんと仕分けれんし、死ぬし。死にゃあ市場行っても二束三文だよね。ほいだもんだいその見当で行くときもあるけど、まあ、そういうときゃあ少ない。潮が悪いとくらげばっか入ってね、魚入らんときもある。

朝暗いうち、3時、4時ぐらいに起きては、河岸からついでに魚を寄り分けて、そいですぐに豊橋市場（しじょう）へ売りに行ったのね。

角建ては私が（嫁に）来てからだ。

【元手の要らないアサリ採り】

漁っちうのはね、もうほんとに、昨日は良くても今日は何にもおらん、そういう外れもある。ほいでね、漁師は金は儲からんよ。そいで元手入れにゃあいかんしね。

元手が要らんで一番率がいいてやアサリだね。湧くでしょう。ここらの浜は、でんでるで。天然で湧いて、カクワ1挺（ちょう）4万円ぐらいせるかな、それを大体1年1個作ればいい。荒っぽくせる人は2挺ぐらいほしいかもしれんけど、私はそんな無茶苦茶使わないからねえ、1挺作るときゃあ、丁寧を使うもんだい、よっぽどもつとる。昔は鉄だったもんだい、さびてもたなんだけど、今はステンだでさびんしねえ。カクワの歯の長さは減ってくもんだい、歯だけ換えてもらうとかいうことはあるんだけど。ほいだけどあれは丈夫かったねえ。柄を無茶苦茶して折る人もあるけど、その柄を換えたり。

【漁業権を手放す】

アサリはよう大きくなっても1センチくらいだけどねえ。もう今はそれまでにならんうちにみな採っちゃう。かわいいのを。目が金網の、縦目じゃなくて細かい目でねえ、あんた泥まで採ってっちやうもん。

あのポンプ（積んだ舟）はどこから来るだ？ あのポンプがいかなだよね、全部さらえてっちやうもんだい。

私んたち九ノ浜（ここのはま）は海苔もやめたもんだい。結局、補償金もらっちゃったでしょう。揉めるようになったちゃってあれだもんだい、最後にゃあみな受け取った。

全部やめちゃった人は、（権利）ゼロ。ほいで今まで海苔から何からず一とやっとして、アサリも元気なうちゃあやりたいちゅう人は、しまいまで1割だったかな、保証金残いとしたじゃん。ほいだけど、まあ年数もあれになったもんだいね、全部もらっちゃったわけじゃん。

ほいだで角建てとかああいうものは一切やらしてくれん。けど、アサリだけは自分とうの地先（じさき）だもんだい、採らしておくれた。地元だで大目に見てくれとるのかな。そいで、今でも採り

行かしてもらえとるだけど。

私は脚が弱くなって、よう何かにつまずいて、脚が上がらんで転びそうになったり転んだりするで、こころでやめとかんと、まあその場において自分死んで人に迷惑かけるのは悪いで、もうやめるっちって断ったけどね。順番、年も年んなってくる、私みたいに体弱くした人んとう、やめてくもんだい、アサリ採り行くのはまあわずかだよ、前芝でも何人もないよ。女の人が2人、男の人が4、5人ぐらいのもんでね。前にはまだちいと多かったけどね、まあパタパタッとやめてね。1人、80歳超えても行っとなる人がある。よう頑張れるなと思うけどね。

【ほかの浜の人たちに明け渡した】

私んたちは、浜採り行っても、細かいアサリだもんだい、撒くように（種子として）買ってくれにゃあ採り行けれん。売るところがなけにゃあ採れんちうこと。それも県外は売っちゃあいかんちうことだもんだいね。そいだもんだい、愛知県内のうちで買ってくれる人があれば採らしてくれるで。

西浜町じゃなくて、もう今は神野新田のあっちの吉崎とか、神野新田の大堤防のほうへ採りい行くじゃん。

大きなポンプが、沖の方採っちゃう。警戒線あるんだけど、ポンプなんか、深いとき、こっちが入れんようなどこ早くに来て、あるとこみなガーガーに採ってっちゃうじゃん。

ポンプはねえ、西のほうから来るだに。ほかの浜からとんでくるだ。一色（いっしき）（愛知県一色町）の方からみな来るだよ。200馬力から250馬力の、穿岩機（せんがんき）って、私んたちの舟と思やあ何倍もあるような大きな船でバーッととんできて、4人ぐらい若い人が乗ってきてねえ、でかい桶でバリバリ採ってダーダー積んでって、そいで自分の浜へ撒くらしいじゃん、どうも。

こっちが口明かんでも（解禁になっていなくても）、向こうは口明いとや、朝潮来て河岸い出ると、ハイ真っ黒くなって船が沖におるだよ。あるときなんか、大きな船へ3、4人ぐらい乗って、舟1艘積んでくる。ほいで、波のえらいときは舟が沈みそうぐらいに積んで行くよ。ほれこそ、小さい（稚貝）。それを撒いてしとねて（育てて）、自分たちにまた採るか、潮干狩りに行っとなして（潮干狩りの客を呼んで）金儲けを漁業組合でやっとなるわけだよ。そっちは漁業組合がちゃんともあるもんだい。

また西の人んとうが強いじゃん。自分とうまんだ権利が（あるで）。「あんたんとうは権利がなくって採っとなるだでね、本当は採れやへんだよ。採りい来るあんたらの方がおしがいい（厚かましい）」って言ってねえ。何にも言えないじゃん。結局売って補償金もらっちゃっとなるで。

ほんだもんだいね、向こうの人んとはもうけんペ（喧嘩）。こないだもテレビでやっとなったけど、「ここは採っちゃいかんどこで採っちゃいかん」て、（一色漁協の）役員が追（ぼ）いい行ったりなんかして。「知らなんだ」「知らんじゃない、ここにちゃんと札が書いたるでこれ読みやあ分かる」とかね。やっぱり権利がないと弱いね。まあしょうがないわ。

あっちの人んとう、若い人がいっぱいだ。前芝は年寄りばかり。そいでね、向こうの採りい来る人が、私んたちの顔を見て、「やい、うちの婆（ばばあ）んとう縁側にポーッとさしとくこたあないで、婆連れてきて採らせにゃあいかんなあ」って言って。

【アサリ協会 海苔を進物にする習慣】

今は前芝には漁業組合ちうものはなくなって、牟呂と全部一緒になって、アサリ協会ってのが牟呂にあるじゃん。そこでアサリの稚貝のことも一切やっとなる。そこへ注文が入る。ほいで村の役員のとこへ、どこそこからアサリの種子がどいだけ注文が入ったでって言ってきて、権利の残いたる人のとこへ「今日は何杯採ってくれ」って割り振ってね。ほいで、向こう（注文主）から自動車

で持ちい来るもんだい、何時までにどこそこへ来てくれって、吉崎は吉崎のほうの堤防へ上げる、前芝と梅藪は前芝と梅藪のほうの堤防へ上げる、そういうふうにしてやっとなる。今、海苔もよそから買ったのをアサリ協会で売ってるじゃん。昔海苔をやった人は大概そこへ買い来る。

わしもこないだ買い行ってねえ。昔からみんなに海苔をあげるもんだい。日持ちもせるし。昔は前芝の海苔っておいしかったじゃんねえ。そいけど、まあないもんだい、なるたけおいしいの買うだけ。高いけどねえ。百枚 3,300 円のと、2,700 円のもの味をみしてくれたじゃん。やっぱり味が違うね。「海苔をやった人は海苔の味はよう知っとなるで、みんないいほう買ってくよ」っていう。いい海苔だと味が良くてとろけるちうか口ん中残らん。ほいけど、悪い安い海苔、上がり海苔ちうか春の遅くの海苔だと、強（こわ）なくなってくる。ほいだもんだいいいのを買ってねえ。百枚も上げるのはえらいもんだい、50 枚ずつ包んでくれるじゃん。50 枚も上げりゃあ上等だもんね。ちょっと何か持ってきてくれて、返礼せるものね、空手で返すのもいかんでと思ってね。そうせると喜んで持ってってくれる。

【地域のつながり 祭りと組】

前芝神社、前芝の氏神様ありますよ。お祭りは 10 月の第 2 日曜だったか。お正月も行けるですよ。12 月 31 日の夜はね、12 時に何かあるみたいでね、すごいね、賑やかいみたいだよ。もうハイ役員の人、区長さんとか町内会長とか出て、甘酒沸かいたりなんかして、お参り来てくれる人にあれしたり、お餅もくれたり、籤（くじ）引きもあってね、いいものが当たったちて喜んじゃ帰ってくる人もあるって言っとなったけどね。2 年ぐらい前だったかな、神社がちょっと古くなって雨漏りがせるてってね、その修復せるにみんなからたくさん寄付をしてもらったもんだいね、そいであまそういう余分なことはやめたかもしれんけどね、それ前はすごい盛大にやっとなっただよ。

組もね、昔は弔いなんかみんな出てお手伝いしたけど、もう今は何々会館（葬儀場）ができたでしょう。そういうとこみんな行っちゃう。ほいで、近所の人が受付ぐらいやって、香典の取らん人が記帳だけする。香典をもらう人は香典出いて名前書いてくる。そんなぐらいで、簡単。まあ昔みたいに、御飯ごしらえとか、そういうことは一切なくなった。昔は青木は特にそういうことを真剣にやっとなったの。夫婦 2 人で出てやっとなったけど、もうそれがなくなって、そういうとこで御飯何かか取ってみんなに食べてもらったり。そうせると、会館のほうで全部支度してちゃんとしてくれるもんだいね、世話ない。お金は要るけど。

【今も自分の仕事を作って】

私ね、夏にね、小松旅館なんかから釣りん坊頼まれて、日曜とか土曜日にお客さんが舟でハゼ釣り行きたいとき、4、5 人舟に乗しちゃ行ったけどね。全部自分でエンジンかけて行った。そんな男のやることもやってきた。ほんとにいろいろやらしてもらった。一生のうちにね。まあこいでいつ死んでもね。今年、黒ウリと黄（き）なウリと縞ウリと白ウリ、4 種類作っとなるの。ほいで黄なウリと縞ウリは種を採ったのよね。ほいで娘婿にね、「来年おばあちゃんが命があったらまた作るけど、それ分らん。ほいでも種を採っとかんと来年蒔いて作れんで、種だけ採っとく」って言ってね。採っては毎年蒔いちやあ作っとなる。スイカは苗を買ってくるだけ。ほいで東京のひい孫のとこへ送ってやったりね。それが楽しみでね。まあいつそれもできんくなる分らん。分らんでね。ほいでも親に健康な体ももらって、今日まで何とか生きてこれたなあと思って、今は感謝ができるね。今はまあできんくなっても、今日一日一日をおかげさまで暮らさしてもらえて、ありがたいなって気持ちで手を合わして、夜、仏様の戸閉めて、朝はまた御飯さま上げて、お参りして。感謝してますよ。

海ばっかしにおっただよ。

子どもの頃から、学校下がる（卒業する）から、ずーっと。

神野新田の沖まで行っただ。昔は、ボラからカレイからセイゴから、エビでも何でもおったもんで。今もうおらんけど。

【アサリの湧く浜】

昔、アサリっちやのん（アサリといえね）、ここの前芝、神野新田、六条の浜で採れてのん。豊川中心によく湧くじゃんのん。汚いほどおった。

愛知県の浜をずーっと、種子（たねこ）を春先に売っただ。小さいのをのん。あんたの小指の爪ぐれえだ。やさしい爪ぐれえだ。県の世話で、この神野の浜で採ったのを愛知県中へ売ったじゃん。今でも採っちゃおるだらあけど、わしゃあ行きゃあせんけどのん。

一年のアサリの採り初めちや、海苔の養殖が終わった時分、3月から。

アサリの種っちや、ここの浜じゃ湧きやせんじゃ。ここで生まれるじゃないだ。どっかで生まれて、流れてくるの。全然形しとやへん。真っ白い澱（よど）で、水に乗って流れてくる。目で分かる。今あやあ（あれは）アサリが子を産んどるなあ、澱だなあ、種だなあちうこと。ほれがそこの豊川の川尻へ来て、落ちて、沈んで、ほんでアサリの形になる。

昔の人は八十八夜に子を産むって。海でも陸（おか）でも、あの時分にどんなもんでも芽生えるじゃないのかのん。秋にも産む。1年に2回か3回か、水温が合ったときに。魚でもなんでも、一番子、二番子、三番子って何回でも産むんでや。一年中だんだらにあるもんで。何回産む知らんだ。3回産むか5回産むか知らんどん。

春採れる種はきつと前の年の秋に生まれた子、秋の小さいのは春に生まれたちうことだのん。八十八夜に生まれたのはまんだ今頃（8月初め）ちっさくて、ごま粒か米粒ぐらいのかっこうで。3月の暮れだか4月に種を採るのがアサリの採り初めで、ほれからこんだあちいととなった（少し成長した）大きいのを採ってくじゃん。大粒（おおつぶ）を採って食用にせて売るように。大体まあ、9月いっぱい10月入るぐらいまでアサリは採った。

六条瀉の組合が大きかったじゃん。牟呂（神野新田）から、八間川から前芝、西浜町、小境、梅藪、伊奈、日色野、川崎、みなやとってのん。この神野新田で採るのう。江戸時代、まっと沖の神野新田も何にもなかったちうだもん。

1人で何十キロ、何百キロと採った。舟いっぱい。2人で行く人もありやあ1人で行く人も、いろいろあるだ。籠に10杯、20杯やそこらは採ったのん。潮時は1日に1回しかない。昼間と夜間（ようま）と。舟が沈むけに採ってきただ。

まああんた、50年も60年も昔だのん。学校下がった時分だもんで。あの時分にやあようけあつた。

【アサリを売る むき身・殻付き・種子】

大きさはだんだらでいろいろあるよ。大きいのも小さいのもおんなじとこにあるけど、大きいほうが少（すけ）ないもんだいのん、ふるいにかけて、通しの上は（上に残った大きいものは）食用に売って下は（下に落ちた小さいものは）種に売る。

種でなくて、普通には大きいんで採る。浜で採る道具の目が大きけりゃ小（ちい）せえのはつ

いてくやへん。大体、食料になるのを採ってくるもので、上と下は分けて、下はアサリ屋さんが食用に売るか、種に売るか、生かすか、自分たちの判断でやとった。採る人はその人に渡しちやあ、あと用はないもん、煮て食おうが焼いて食おうがその人の勝手になっちゃう。

昔は殻で買うアサリ屋さんがなかったもんだい、茹（う）で身にして（殻を取ったむき身にして）売っただもんだいのん。佃煮や、しぐれ用に。組合へ出荷した。大きいほど値がいいわのん。

自分でするだ、みな。大きいはそり（羽釜・2尺ぐらい）があつてのん。わしもやとった。

80キロか90キロぐらいいっぺんに茹（う）でたなあ。殻を茹でて、茹だると口を開（あ）くもんだい、今度は（こんだ）通しで通いて。四角い通しの底へ金網が張ったるだ。この上へ乗して、ゆすって、殻が上で身が下へ落ちる。

家の表で、焚き物焚いて。薪を買ってきてくべる人から、うちで麦殻（むぎから）や藁をくべる人からいろいろあつたじゃん。百姓でうちにある人は藁や麦藁燃やしただん。藁やあんなもな灰ばかりできて困るもので、藁がなげにやあ、薪を買ってくるほうが早くていい。製材の挽いた屑を買ってきたりいろいろしたよ。そこらへんの材木屋歩いて買ってくるだ。リヤカーで。百姓の人は運送引つ張った。牛でかって歩いとった。

10貫、20貫売った。1貫目が3.75キロぐらい。20貫ちや75キロちうことだわのん。舟いっぱい採ってきたときにや、夜12時から1時ごろまで寝て、1時2時に起きて、茹でて朝までに身にしちやつてのん、朝組合へ出荷して、ほいでまた浜へ採り行くじゃん。

ほれからしばらく経たらねえ、アサリ屋さんができて、その人たちが河岸でついでに買ってくれた。そうになったら身にするのはやめちやつたよ。

昭和30年時分だと思ふよ。アサリを殻で買う人ができたのは。

アサリは昔ほどたくさん採れただもんだい、輸送に困ったもんで、佃煮とかああいうのにして売るように、身にして売ったじゃない？ 車で動くようになってからどこへでも持ってけるもんで、販売ルートが広がったじゃない？

あの時分にやあ、殻で買う人とゆでて身で組合売る人と、いろいろあつたじゃないかなあ。

【ハマグリ湧くところ・湧かなくなったわけ】

ハマグリは採れたのん、たくさん。昔、この前芝の沖は、アサリよりもハマグリの方が多いうらゝいときがあつたよ。ハマグリの方が、アサリの3倍かそらの値がしとやなんだ？

ハマグリちちやのん、この豊川のここ（図4-34参照）が一番たくさんおつたところだ。神野新田来てても、御津（みと）町の方に行ってもたんとあつたのん。

あれねえ、ハマグリちちやあ、ある程度水気がなげにやいかんじゃないかな。水が差さにや。川を掘ったりダムができていろいろして、水気がなくなる、比重が高くなる、潮のそくなつちやつてから、ハマグリが湧かんくなつちやつたじゃん。

ハマグリちちやあ、大きい川があるとこでなげにやあ、どこの漁場へ行ってもないものん。ここらへんでも、豊川にようけあつて、あと、三重県の本曾川だか長良川だか、本曾崎のほう、桑名かん、あつち行かないもんでねえ。

（豊川放水路ができて）ほりや変わったのん。これができたの一番悪いじゃない？ ほれと砂を採取さしちやつたのが一番悪（わり）いと思ふよ。深いとこ溜まって、へドロになつちやつたで。ほいで上（かみ）じゃあダムができるら。昔みたいにチョロチョロチョロチョロ出やせんもんで。こういうとこの埋め立ての砂は沖をサンドポンプでふかいて取ったじゃない。

自然を壊いちゃう（壊してしまうと）と昔のものはなくなつちやうだよのん。川を改修したり、砂を掘ったりいろいろせると、そういうものがなくなるだん。発破（で）掘ったり、大きく掘った

り、上で水を止めたりせるもんで、水が鹹（から）くなる。ほれと、農薬や家庭用洗剤やああいうもんも流れるのが悪い。家庭用洗剤なんかどのぐれえ出る分からんもんのん。全員だもんだいあんた、どえらい人数だぞ、向こうの（上流の）人が使うだもんだい。そういうもんで水が自然に悪くなってくるもんでハマグリなんかなくなる。

アサリなんか今なんにもないものん。種子が、秋から冬かけて死んじゃうじゃない。いくら湧いても。（澱は）いっくらでも流れてくらあ。ほいでいっぺん落ちて沈んでできても、アサリの形ができてもある程度大きくなった時分に、水が悪（わり）いか日和が悪（わり）いかどうい拍子だ知らんけど、大概冬に死んじゃうっちゃうかななくなっちゃうわのん。

水が良くなりゃええだもんだい、お国が海をきれいにしてくれるように勘考してさえせりゃええじゃないかのん。

【ハマグリとアサリの目】

ハマグリとアサリは時期は一緒。ジョレンでもカクワでもいいけど、同じ道具でね、一緒に入るよ。それを手で分けるだのん。

ハマグリちうのは息をしとるだよ。あるとこ分かるだ。潮が引いて、洲が出ちゃうと、こう、ふっくらふくらんで、凹（へこ）んどるだよのん。まんじゅうの真ん中凹（へこ）めたようなもんだ。柔（や）らかくてのん。そうなったとこを指で掘るとハマグリがおるだ。それが、ハマグリが息をしとるってここら辺の人が言う。

アサリはのん、平地（ひらち）に二本穴が開いとる。目んなつとる。水ん中の平地。それがアサリの目。1個のアサリで目が2つあるだよのん。殻をむきゃあ分かるけど、アサリにも目がちゃんと2あつあるだ、ほい、のん。それが2つ、地い出とるだ。ほでこの目が、あるとこは一面にあるだ。そこを探してカクワで採ると、ようけ入ったじゃん。カクワいっぱいずつも入るときがあっただ。

ハマグリはのん、小潮がよけえ採れるっちゃうこと。アサリはまあいつでもあれだけどのん。旧暦の8日から12日ぐらいまでの、小潮の、潮の流れの遅いときがよく採れた。大潮んなるとまあ採れえへんわのん。

アサリでもハマグリでも、満ち潮になると浮く。干潮のときは下へ沈んどる。潜つとる。潮が上げてくるとアサリでもハマグリでも上に出てくるじゃん。地（じ）の上へ出ちゃうじゃないよ、地の中で、潜り方が、10センチ潜つとるときにゃ5センチとか4センチとか上がるだよ。利口だのん、こういうものは。学校で習わにゃできんのは人間ぐらいで、あとのものはほりゃあ利口だ。

ほいでねえ、西の風が吹くと沈んじゃう。東の風が吹くとチョッチョッチョッチョと上がってくる。貝は蒸し暑いようなああゆう日和が好きっちゃうかなあ、浮き上がるだもんだいのん。西の風は嫌うだよ、沈むだもんで。

うちを出るとき、日和（ひより）で、その日のお天気で見当はつくわね。今日はいいとか悪いとか。魚は別だよ。魚は西の風が吹くほどよく捕れるで、あれ不思議だよのん。西の風が吹くと、魚は固まる。そこを探しゃあおる。

あんまり雨降っても良かあないのん。人間様もやる気がなくなっちゃうで。捕れるか捕れんか、そいつは知らんぞん。

【ヨラメを田畑の肥料に】

ここら辺はヨラメって貝が昔はたくさんあってねえ。

ナガラメを知っとるかん？ 今太平洋では採れるがのん。あれによく似た貝で、ヨラメっちゃうだ。

でんでん虫みたいな格好した貝だよ。とがとらんよ、丸いよ。タニシとよう似た格好で、タニシより小さいよ。薄い白い、ナガラメと同じ色。

これも、今日は採り行っていいじょうっていう日がある。組合が許可する日がある。ほいで採り行く。戦争中から終戦時分のお百姓屋が肥が買えん時分には、これを採ってきて、くるくる回るローラーでひしゃくじゃん。細かくひしゃいで道路から表へ干いて乾かいて、田んぼや畑に、肥料にやっただよ。

ローラー、つぶ板は丸い2尺50(75cm)かそこらの長さで、直径10センチぐらいの輪っば。100ミリの塩ビ管ぐれえのもんだ。歯車が耳へついとって、歯車がかみ合わせて内側へ回って。ホッパーが付いとって、中へ入れて、両方ギアで巻いて回す。お百姓の大きい人は発動機があったもんで、昔稲をこいたベルトかけるプーレーが付いたので、発動機で巻いてひしゃいたじゃん。お百姓のない人たちは、外へ大きい輪っば付けて、ジューンと人力で巻いてひしゃいたじゃん。

そのヨラメっちうを採ってきて干す時分はのん、今みたいに車もないもんで、道路を走やへん。ほれで道路をけっこく(きれいに)掃いてのん、道路へずーうと干いただ。3日も4日も干いただ。道路しか干すところないじゃん。おまわりさんも何も小言言やへんで。

雨が3日も降ったら臭くて、鼻持ちない。乾いたらそれを集めて、かますへ入れてうちへしまつといて、売る人もあやあ、家(うち)いしまう人はうちの畑や田んぼへやったじゃん。自家用で使う人も売る人もほりゃあ自由だ。買いに来たり売りに行ったり、親戚くれたり自分に使ったり。親戚があげ(山手)のほうにある人は持ってってくれた。

売りゃあその日一日じゃあいいお金じゃない?

ヨラメはのん、ここらへんは潮風でだか、チョコチョコやるでか知らんけど、浜に関係ないあげ(山手)のほうの田んぼや畑へ持ってくと、ものすごい効いただよ。こっから4キロか5キロ浜から離れたところへ持ってきやあ、よう効いたじゃん。

ほいで、田んぼはよかったじゃん、これをやっても殻が沈むもんだい。身はとろけて肥になっちゃって、殻は沈んじやうでよかったわのん。畑へやると、いつまででも殻が出るだよ、白くなつてのん。

ほれが戦争中から終戦5、6年後ぐらいまでの肥料になつてのん。20年が終戦だもんだい、25年ぐらいまでは肥もろくに買えんで。

ヨラメはアサリより少し沖におった。アサリが神野のこっこのほうにあったじゃん。ヨラメっちや、その沖のほうにあった。今、トヨタ(トヨタ自動車の工場)の埋め立てがある、あすこに近いほうじゃなかったかなあ。あすこまでは行かんけどね。ほいだけど、こういうものは水がきれいになけないかんじゃない。自然と消滅してなしなつちやつたもんのん。

【海苔粗朶は奥三河・遠州から】

海苔粗朶は、カシの木。柴ちうかのん。昔は笹、竹だったけど、終戦時分からカシの木に代わつたのん。すらつとした、根生えで1丈ぐらいの高さ、1センチぐらいの太さ、そんなぐらいの木を山家(やまが)で買ってきた。山師って、世話する人がおっただ、山にや。その人が集めちやあ売りに来る。豊川の裏のほうの山から新城のへんの山ねえ、それから遠州のほうから買うじゃん。豊川の上流から、遠州のもりまちからも買いい行くじゃん。遠州のほうのものは値がいい。木のものがよかつただ。枝がスラーッスラーッとしとって長いもんだい、海苔の付く場所が多いの。

ほいで葉っぱ取る。うちでむしくる。

秋、3本か4本をわらで1個に縛って、浜へ挿いただ。

100束から200束ぐらい買うじゃん。本(もと)ちうだけどのん、1束で3本(みもと)か4

本（よもと）できる。枝が大変（たくさん）出とって、その枝へ海苔がついただ。それを浜へ挿す。鉄の棒があつてねえ。パイプで、とんがとって、ほれを地へ挿いて穴開けといて、その棒をそつと抜いて、1人の人がそこへシャッと挿すだ。「おい、挿せよ」ちつたらスツと。1メートル20、30センチ、下へ差し込むんだ。人間の力だもんでしれとるもんで、ちいとでも深く入れるじゃん。力がない人が挿いたら、風が吹くと波で抜けちゃうだ。力のある人んたち、若い人んたちは深く挿すもんだい抜けん。間（あいさ）へ砂が入るもんだい、ほんで埋まるもんで、抜けて来ん。海水が引いたときやるだけどねえ。水がないところは挿すにえらいじゃん、穴を開けるに。

地の上は、2メートルぐらい。

3月に終わるときには全部きれいに片付けて、白浜にしちゃうの。

引き上げた粗朶は、あんた、昔ガスもなんにもないもんで、家庭用の焚き物だ。捨てるものは何にもない。濡れるもんでそう燃えんけどのん。

若い木を燃しゃあよう燃えるけど、いっぺん使ったような木を燃やしゃあ油気がなくて燃えん。若い人がようけ仕事ができるのと年寄りができんのと一緒であんた、火もおんなじじゃないかん。新しい、油の乗ったもなあよう燃えるけど、浜で水ん中で一冬さらいたものは油気抜けるもんで、燃えが悪い。

粗朶がなくなったの、早かったよ。海苔網に代わったもんだいねえ。昭和30年ぐらいだと思ふ。

海苔の場所は、組合で決めてくれるもんでそこへ行くじゃん。

西浜で甲、乙、八間川があつて丙、丁、三号。どこにも1人1場所。1場所のうちでもいいところがあつて、仲間でくじを引く。あとは運ころべや。

毎年場所変わるよ。去年ここなら今年は今度ここ。順番に1から10まで決まるとるもんで、ぐるぐるぐるぐる回る。十年ぐらい経つとまた元のひとつとこへ戻るちうこと。

入会（いりあい）で。どこへ行つても、そうふな（そういう）やりかただよ。

毎年場所変わるよ。去年ここなら今年は今度ここ。順繰りへ。北から南へ飛んでこう張つたるとこと、南から北へ飛んでこつちからこう張つてくる。各村がいくつか部落があるもんだい。順番に、1から10まで決まるとるもんで、1の人がこつちきて、ほいからこつちから順繰りこつち行つて、2の人、来年は3ですぐこつち、ぐるぐるぐるぐる回る。このぐらい動いちゃう。10年ぐらいたつとまたもとのひとつとこへ戻るちうこと。

【漁業権と入会のきまり】

六条は九ノ村（ここのむら）あつたじゃん。村が9つ。前芝の方、西浜が五ヶ村、5つ。ほいから、五号ちうとこも。ほれが入つて、豊川より南が全部仲間、共同漁場、入会漁場だつたじゃん。これだけの人が、今日は採つてもいいちう日にはよかつたちうこと。採る日にちがあるだ。組合が「今日からいくんち採り行つてもいいよ」つていう日にちがある。昔はアサリも海苔もそういうふうだつた。

前芝の浜は西浜つて五ヶ村（そん）だつたじゃん。前芝と日色野と梅藪と平井と伊奈。五ヶ組合で仲間だつた（西浜＝五ヶ村）。

口明けちうだけどん、大潮、ちうことはあれは旧暦の11日か、12日から20日ぐらいの潮時が良かった。それが大体まあ昼間行つてこれる日。そのときが、今日よろしいよちうこと。大潮のときの約1週間、8日ぐらいだつたよ。そのときによつて1日や2日のずれがあるでね。ずっと昔からほうだらじゃん。何百年も。ほりゃあんた、大潮でない小潮のときにや、朝暗いうちに行つたり日が暮れて夜行つたりせにやあできんもんで、暗闇じゃ仕事できんに。

ほれは組合で決める。役員さんが決める。ほいだでみんな言うことを聞いてハイつて行きゃあい

いだ。知らせがあるときもあるけどのん、1年の一覧表があつたりのん、昔はお風呂屋へ貼り紙があつただ。

土地で生まれて、嫁さんもらって、しんしょ（所帯）を持って新家へ出て、3年経つと権利（漁業権）ができた。ほいで、仲間入りになるもんだい、ちいたあ組合の株を買つてのん。前芝は、海苔をせるには新家（しんや）へ出てかどを張る、一戸を張る、「わしも前芝でみんなとおんなじように付き合わせてもらおうで」って、親と別でっていうことで、ほいで3年経つと海苔漁業くれるだ。

昔は会費なんか取らんでも組合は銭ができたよのん。出荷の口銭が何分、何文って入るもんだい。ほいから、海苔漁場を海苔をせん人もおんなじように割るもんだいのん。その人の分を、海苔を大きくやる人が入札で買うもんだい、そのお金から、いろいろお金があつたじゃん。

アサリもハマグリも、漁ができるのは組合の人だけ。アサリは、どこでも、自分がこっち行きたけや採りながらそっち下がって、こっち行く人はこう行く。ちょっと後ろへ、1メートルも下がやあほいでいいもんだい。昔、採る人が少（すけ）ない時分にゃあ採りがけ。採る人賑（にや）かくなつた時分から制限して1人何杯っていうようになった。

禁漁期は、昔はあつたけど今はないわのん。ま、どっちみち、冬に海苔が終わるとアサリを採つただもんでのん。10月に海苔の支度をせるようになるとアサリは採らなんだ。ほいで、海苔が3月に終わると今度は（こんだ）、アサリに代わつた。4月から10月頃まで。食べるぐらいはいつでも採れたどん。商売にはならんでものん。

【かつて素足で歩けた砂浜】

昭和30年ぐらいまではのん、豊川から浄化センターの辺までは、夏中、履物、足袋、靴を履いたことなかったの。素足で入ってって、足も何にも切れやせん。砂浜で、危（あむ）ないもんが何にもなかって。冬はまあ靴を履くものん、夏に自分の足を養生をして入ってことはなかったのん。今なんかあんた、いっぺんジャバンと舟から降りて入（はい）やあ足なんか傷だらけになっちゃうわ。口に出しても分からんぐらいろいろあるよ。

ものすごいきれいだったよ。砂ばっかしでねえ、銀世界っちゃうぐらいけっこかっただもんのん。昔海苔粗朶を挿いた時分にその地づらで折れたのを踏むと足が傷なったけど、ほいでなげにゃあ傷なったことなかったもん。

どこを歩いて、素足でよかっただもん。

汚れてくると、面白いもんで、変なものが増えるだよね、湧くちうか。見たこともないもんが。カキ殻なんちうものは全然なかったけど、カキ殻ができたり、ほかで売れん食べてもまずいような貝殻が出てきたり。何か捨てたでも何でもなくても、誰が運んできたでも何でもなくても、自然に、なんしろ素足で入れんくなっちゃっただもんで。昔はこの六条潟と西山の沖は、このぐれえきれいな浜なかったぐれえきれいだつたよ。素足で入れる時分にゃあ、海苔でもアサリでも、何でもようけあつただ。すばらしくあつただよ。

【聞き書き③】 舟溜、組合、みんなで共にいとなむ海の生業

山本弘（やまもとひろし）（85）大正15年生まれ

【漁業権を得る】

海をゴソゴソもぎことに（遊びで）やっとするだけ。ほいでも、今でも舟で種アサリなんか採り行くよ。

漁を始めたのは、23か24歳だなあ。兵隊2年ばかり行ったもんだいのん。子どもんときは就職しとった。終戦になって兵隊から帰ってきてから漁師や海苔始めたんだ。

ほやまあ、今になってばかみたと思うけどのん、ほい、当時はまあ海のほうが儲かったもんのん。年金はないですよ、自由業は。正直言って、働き行くはばからしいぐらいだったのん。ほや、下手に働いとっちゃ給料いくらかもらえなんだもん、あの時分じゃあ。その代わり仕事はえらかったけどのん。きついよ、仕事は。

この前芝っちうところはねえ、その土地い住んで、町費（区費）を納めるかっこうがあるだ。町費は一律じゃないだ。収入によって違う。その平均の人並みを3年納めると漁業権が自然に発生したわけ。前芝で生まれた人なら。よそから来た人はだめだよ。平均額ならみんな払えたじゃない？

（家族が）2人でも3人でも同じようにできるけど、漁業権っちうのは1軒に1人っちうのはどこでも大概決まっと思うだけだね。もとは区長さんって言っただけだな、今なら町長が、「この人は3年住みました、納めました」っちうことを漁業組合に言うわけよ。言うと、今度漁業組合のほうから、漁業権発生しましたよって言うてくる。

前芝ん人は、当時は、ほかの職業の人んたも町費はみな納めとったもんな。職業違う人も漁業権てのは発生した。海に出んでも漁業権は持っただよ、大工さんの人でも、ほかの人でも。

【前芝の暮らし】

前芝の家は古いとこのが多い。新しい家（うち）は少ない。百姓は少ないよ。わしも畑（はた）がない。米はみな作っとするよ。加藤新田にも家は30、40軒あるよ。ここへ作っとする人もあるし。橋の辺は前芝の人作っとするけどのん。ハイもう今じゃ家も建っちゃっとするでのん。

旅館も昔はあったわのん。

昔はどんな地図でも前芝の灯台が載っと思ったわけ。今は消えちゃったけど。蒲郡の灯台より大きく載っと思った。百石船とか、吉田藩に行く船のためにのん。漁師のためもあるけど、荷船のためのほうが大きかったらしい。

わしんとう（私たち）子どもの時分でも、百石ぐらいの大きな木造船が、前芝の前に毎日着いとったよ。ここの舟溜（ふなだまり）のもっとこっちに、大きな荷船で石炭なんかも運んどった。今でもやっとする「うめじお商店」って肥料店があるんだわね。そこの前も大きな船いつも着いとった。今でも階段のとびまで倉庫ができとる。ほいで、裏のほうに製糸工場が2軒あったもんだい、決まってそこも石炭なんか積んだ大きな船着いとったよ。

今じゃ前芝に賑やかなところたっってないと思う。こんな時代になっちゃったもんだい、買い出しもみなよそのスーパーにみな行っちゃうし。

13号台風のとキやあ、うちでも床上1メートルぐらいは水がついたのん。昭和28年か9年だったなあ。伊勢湾台風の前だのん。

13号台風で海岸の修理してから、そういうあれは今んところないけどのん。こないだの台風のとキ

も水位が海岸の堤防まで上がったけど、みな扉しめちゃったもんだいのん。普通なら水位上がって波をうちかぶるっただけど、波をうちこしたずに済んじゃったでのん。今は大丈夫になった。壊れん限りはの。それとひもを締め忘れにゃのん。

【仲間で持つ舟溜と舟の繋留】

組は13組までである。1組から12組まで東からずーっと来て、豊川橋の前に行くと12組。加藤新田が13組。

ここの舟溜は今は市の所有になっとなるけど、昔は「仲間」の所有だった。この（市民館の）近くの人が大概権利を持っとった。お宮さんの場所のこっちの人が多かったのん。仲間って、結局共同組合みたいなもんだ。漁協とは違って、グループ。ほいだでわしんとも、当時はお金を出して（仲間に）入れてもらっとなるだでの。

そういう仲間の土地も今は豊橋市の管理になっとなる。ほいだでみんな（誰でも）入れていくようになっとなる。

昔は海岸に杭が立っとなったわけだ。今は1つもないけど。みな、自分の（家から）出たところへ舟をつないだわけ。この中（こちらの舟溜）へいくらも入らんかっただよ。狭（せば）いもん。普通の人はいれえへんじゃん。ほいだもんで、台風ときは、これ（加藤新田のふち）へみな持っつた。ここんとこ（加藤新田に）のん、豊川（とよがわ）へ抜ける川があった。川幅もそう狭くなかったよ。ヨシ浜でのん、（舟溜の）仲間でない人はそれへ持っつたわけ。

前芝の橋を渡った辺に、老人ホームか建設会社みたいなものができとる。あそこが川だったわけ。ここんとこ（川を）埋める前に、まあ1個橋を渡ってここへ出たわけだよ。この道がなかったもんだいのん。ほいで堤防づたいずっと行って。ほいで舟はまあ安気（あんき）にそこへ置いて。だけ、こうみたいなことはないでのん。いくらでも、あきやがあったもんだい、水位は上がってくるし。

【漁の時期 口明け】

前芝の漁業組合ちうのは、平成7年3月31日でなくなってね、牟呂と前芝と梅藪と3つ一緒になって、平成7年4月3日に豊橋漁業組合ってできたわけです。ほいで平成11年の4月1日に解散になっとなるわけ。海苔もアサリもやって、ほれから小型定置網やっとなる人も前芝で10人ぐらいいあったかねえ。平成11年の4月の組合解散するまで。それからアサリだけになっつちやっつたの。結局漁業組合が解散してからだねえ。許可が来るだけで、ほかのは全然だめ。

海苔を採る場所は組合によって決まっとなる。今は港んなっとなるとこまでずっと、7か組合で振り分けとった。条件が違うので、7つに分けて、振り分ける。毎年変わってくわけ。くじびきじゃなくて、順繰りで向きを変わってく。1つを送ってく。

同じ組合の中でも、場割りってあつてのん。幅を決めて、これは誰の場、誰の場って、目印つけて。5人ぐらいで行くと1つ場（じょう）をやる。5、6人はやる。

これを昭和28年ぐらいいまでやってなかったかなあ。これがやめんなって網に変わっただ。

7か組合のこの淵は良かっただよ。昔はここんとこ（図4-35参照）が一番深かったわけだ。長年中心でのん。ここ掘ったもんで。この埋め立ての具合でのん（だめになった）。ほいで、7か組合との境目までを5か組合で割っとなったわけ。それもやっぱり4つぐらいいに分けとった。昔は養分があるでようけ良かっただ。ほいだもんで、そのいいとこだけは個人の入札だっただよ。粗朶の20筋ぐらいいは入札だっただよ。やっぱり流れが強いとこだったのん。5か組合、7か組合、こっちも全部。一番いい海苔の採れるとこ、たったの20筋ぐらいい。ほやあ、各組合で割りようがないも

んのん。

潮の悪い日はやめる。日運（ひうん）の悪い日、天候の悪いときは休むもんだい、土日休みっちゃうことは考えられなんだの。日和（ひより）が続けば毎日。

海苔も、大体日にち決まっとるわけだ。最近、機械で採るようになってから、それはないけど、手で採る時分には大体いくんちからいくんちまでって決まっとった。出荷の日も決まっとる。出荷の日はどうせんでも休まんならん。海苔やなんか共同出荷だもんだい。今でもどこでもそうだ。

昔は、前芝、梅藪、みな漁協単位でやっとなつた。豊橋漁協になってから、豊橋に出荷しとったわけだけど、その時分にゃあ半分以上の人が海苔をやめちゃつとった。

【アサリ】

朝早いときは5時ごろ出て行く。5時ごろ起きて行くとまあ、11時ごろには帰ってくるわね。大潮の一番潮が干（ひ）るときは7時ごろ出て行く。大潮過ぎると9時時分出て行くときもある。潮ときっちゃうのが海にある。干潮満潮が平均して1日40分遅れてくだね。くるくる回っとるだよ、潮時っちゃうものは。

今でも種アサリね、愛知県から許可が来とって、採り行くだ。わしんとこもハイ漁業権ないもんで、ほいでこういうの（特別採捕許可証）が来るわけ。1年に2期か3期に分けてこれくれるわけ。アサリだけ。今年もハイ出とるだよ。平成22年7月23日から9月30日まで。あとは9月から10月とか、10月31日までとかね。名前載とる人が出てもいいっちゃうことだ。大きいのは採っちゃいかん。採ると違反になっちゃう。許可証には「稚貝」としたるでね。

大体4時間ぐらいだね。そのときによって分かんけど。いいときだったら、まあ、300から400キロだのん。

腰マンガって、後ろに下がって引っ張るやつで採る。水ん中入って、腰まで入って採るやつ。大体、大潮なら深さが腰ぐらいになっちゃう。一番この沖でも。

揚げるとこは西浜町、梅藪ってとこ。ここも合同でやっとなつてますよ。ほれで、レッカーで揚げとる。レッカーがそこへ着く。レッカーで上揚げて、車で愛知県漁連へ渡しとる。愛知県漁連ちうのが窓口で、よそへは一切売っちゃいかんわけ。

今年も全然なかったけど、今になって湧いてきて。この境界線に、西三河の大きなポンプ船が来る。あれでこの沖を採る。そのへん（西三河の漁協）はまだだいぶ細かいとこへ売とるだけどねえ。ポンプで、船で引っ張る。中へも（境界からこちら側へも）ちいたあ入るけど、規定はそういうふうになつとる。境界がなけにゃあどンドン中へ入ってくるけど、一応はそういうふうになつとるわけ。

アサリを採るのは、まあ平均に川下の淵が多いのん、川の真ん中だのん。やっぱり洲があるだのん。そこは多いし、またアサリもうまいだのん。

アサリはある所によってみな色が違う。泥けの多いとこは黒っぽいし、砂がさらさらしとるとこは普通の売とるアサリみたいな色しとるし。こっちの堤防行ったほうが、ちょっとあれ（白い）だけど、黒っぽくてもアサリっちゃうものは一日置くと白っぽくなっちゃう。

アサリをポンプで吸ったりするとアマモを根から採っちゃうもんで、アマモはやっぱりようなくなつたのん。だいぶ減っちゃったよ。アマモの保護区域になつとる。昔は小さいアマモ（コアマモ）が広がつとったけど、今じゃ、ないの。こっちへ来（く）や大きいのもあつたけど、今じゃなくなつたのん。まあ今、この堤防の下にちょっとあるぐれえで。

昔は二十間川から南のほうは大きい幅の広いアマモがあつて、ひどいときなんか、スクリーに

巻いちゃって、舟走るのもえらいぐらいのときあった。北のほうも堤防の下にずっとあっただ。

【海苔】

海苔の収穫は、11月末から3月中までだったのん。冬にはアサリは全然ないもんでのん。漁も出ん。角建（かくだて）網も、4月、5月から10月時分までだったもんだいのん。小型定置網とか、備前網も。備前網忙しいときはアサリは採りに行きゃあへんしのん。

手で採るとる時分には、冬は出てく時間は夜明けに決まっとったね。朝採ってくる。それからすぐ製造せんならんもんでね。

潮が引いて、粗朶の海苔を手でむしっただ。

干潮に採るようになってる。このときはまだ日にち決まっとったわけ。首出さにゃあ仕事にならんもんのん。胸までの靴はいてのん。アサリと一緒に、時間は順番に遅くなっていったけど。まあ今じゃあ機械だもんで、朝採って機械で製造せるもんでのん。

出荷っちうのは全部、百枚縛った、製品（板海苔）。今でも一緒。

大昔は、わしもやった覚えがあるけど、四角い大きな枠を作って、それで干したわけ。家の庭で。一枚一枚手ですいて、一枚一枚手でみんな干して、日を追（ぼ）って向きを変えて、乾いてからはずして、はがして。自分たでみなやっただ。わしらの娘も子どもんときは、学校行く前に朝早くから手伝わされた。昭和29年生まれだもんだい。昭和40年ぐらいならまだ手すきだったのん。

そいでまあ順に機械化になって。機械は個人単位。今でも、個人単位じゃないかなあ。機械から舟から何千万って買うもんで、ほれでみんなやめちゃうの。業者が減ってっちゃうわけ。

ほいけど、前芝は地形が良かったもんだい、川の海苔は特においしかったもんだい、わりに人気良かったでのん。まあ誰に聞いても分かるけど。川から遠くなると、やっぱりまずくなるだのん。海苔でもアサリでもみな一緒。

ほいだで、わしんとう今でも海苔を買うだけ、西三河のやっぱり川のふちのやつを買う。川から遠く離れたところは、どうしても海苔が、うまくない。色も、川から離れとるとちょっと黄なっぼい感じせるだのん。黒が薄い。ほんとに違う。うそみたいに。

【白魚】

白魚もまあだいぶ減っちゃったもんでのん。

大昔は定置網でやった。定置網っていうのは、待ち網で、こう、口を広げてじょうごみたいにして、さかしまにして。そういう網でとったわけだのん。舟溜（ふなだまり）のすぐ西側の一番奥に白魚会社っちうのがあったわけ。仲間でやっただけど。そのときは待ち網だったけど、今じゃ待ち網の人みな刺し網なっとる。

冬になると捕れるだ。多少早い年も遅い年もあるけど、普通、1月の20日時分から捕れ出す。自分で捕りに行って、ああこりゃ増えてきたなあって、みんな自分とうで見てやっただ。ほりゃあその年の寒さにもよる。ほんつうの白魚が多いと魚少ないっちうことは昔から言っとるでそのとおりで、やっぱり白魚の頭をもっためんつうが多けなだめだのん。

加工屋へみな渡いとった。市場へそのまま、1人40キロも50キロも持ってきゃあ、立て替えちゃ。ほんで、加工屋へ渡いとった。

昔なんか、刺し網なっても、やっぱり豊橋港の方までみんな行っとっただもんでのん。そこが一番捕れたわけ。この埋め立てができるまでは、ここが（図4-35参照）一番捕れただて。

昔は舟もあんまり良かないし、エンジンも良かなくて、白魚捕るの冬だもんだい、ここまで行く

あれがなかったで。エンジンが良くなって、それこそこの 20 年ぐらいぐらいから行き出した。漁業権のあるときにやあみな行っただよ。埋め立て前のとき。ほりやまあ、1日に1人で40キロも50キロも。今なんかあんた、1キロの白魚捕るに一生懸命だもん。いいときで。

今でも捕れるよ、(規定の範囲より外に) 出やあ。今でも(刺し網で) やつとる人おるよ。ほいだけど、今、こっから外へ出ちやいかんもんで。出ると違反なっちゃうもんで。何でもそうだ。こん中だもんで、ほらあ、いくらもないよ。どうしようもないじゃん。漁業権ないもんでのん。

【角建網(備前網)】

角建網(かくだてあみ)をこの沖いずーっとやつとった。岡山の備前で生まれたもんだい備前網っていつとる。建干(たてぼし)とはまた違って。小型定置網っていう。

エビ、カニ、セイゴ……、あの時分おったもんだいのん。前芝でも、イワシでもサバでも何でもおっただもんのん。

豊橋の市場へ持って行っとな。自分たちでてんでてんでに車で運んだわけ。

備前網はやっぱりここへずーっと張った。備前網なんていうのは、5間5間で、6つ袋があっただ。ほれで、網が伝わってくる、50間ぐらいのみち網付いて、これでここに座ってこれが入ってきた。小型の定置網だのん。ほいで、みちあみってこのへんからずーっと伸びるわけ。それでこの袋が6つ合うわけ。じょうこ網、じょうこの袋。

網見たってあんたんたちはわからんたら、張ったるの見にや。

そうそう、袋がこういうふにみな出とったもんだいのん。袋っていうのは結局細長いでのん。ほいでこん中に、こういうふう(魚)出れんようにこうなるとるのが2つぐらいあるわけ。ほで輪っばがついとして。浮いとるじゃない。

横に引っ張って入るとる。中で引っ張って横に巻からんようになつとる。わし今、堤防の下へ張ったる。そいつは1つだけどのん。みなまあやめて張っちゃあいかんもんだい。この辺から沖だ。沖へ出ちやあいかんだ。ほいでわしも今やつとるで、遊びで。これを切つてのん、ひとつの袋にしてやつとるわけ。

こっから前見てってもいいよ、そうせりやあよう分かるで。それを、一個の袋だもんだい、それをこういうふうにしてやつとったわけ。

今、毎朝捕れる。たくさんは捕れん。食べるだけないわ。いつもハゼなんかきたないほどおっただのん。

よそに漁場に出て行くわけにやいかんもんだい。

ほいでこれが、今の豊橋港まで続いとったもんでね、こっちに。この倍ぐらいこっちにあるわけだもんだい。これは前芝だけだった。この権利を持つとるのは、10人ぐらい持つとったわ。ほかの人はやりたくてもできなんだ。

やっぱり、中側にやかった(豊かだった)もんで、ある程度くじ引いとった。組替えじゃなくて、くじを一遍一遍引いとった感じだね。最初のうちは自分のやり好きな場所でやっただけどのん、それじゃあいかんちうてくじ引くようになった。

ちょうど豊橋港まで。

【海の地形を知る漁師】

昼間は、大体堤防が目視できる範囲内んところにおるもんだい、こっちも見える、こっちも見える、港のほうも見える、田原のトヨタ(トヨタ自動車の工場)も見える。どうせんでも分かる。

漁やっとなる時分にゃあ、勘で、晩でも昼間ぐらいの正確さで位置を決めれた。舟で走りゃあ大体分かった。そこらへんの勘は昔はあったけどのん。まあ今じゃあ出たことないで全然だめ。

アサリ採っとる人は、ずっと海ん中入っとるら。ほいだでみんなたいていの地形はハイ知っとるわけ。腰マンガで入っとるで確かだのん。多少は凸凹（でこぼこ）あるよ。そんな広いことはないけど、ほいでもやっぱり、その中でも20センチや30センチ深さ違うところあるもんでね。

潮が引いてから、波がわらっとるところは浅い。波がはじけるみたいに、白くなる。しぶきが立つような感じでのん。どこでもそうだよ。海岸近くなると波が白くなってわらってくる。

沖の方の深いところは、波がゆずり合っとくる。波がこうおおいでる。

そういうことは気をつけにゃあ良かない。それ覚えときゃあ、素人でも深いところ行きゃあへんよ。

西に真っ黒い雲がいたら気をつけろっていうことは聞いたな。

【川と海の変化】

まあ、水は悪くなって当たり前だわ。ほやああんた、自分たちでも洗濯水をバーバー流すし、百姓たちも農薬バンバン使うし、悪くならんほうが不思議だがね。

矢作古川なんか特に。

雨降って水が出てごみが出るもんだい。東海豪雨、そんなん、全滅だよ。ほやあ、ごみがすごい浮くかったもん。

ほいでも、秋になると川でも自然に汚くなるだもんで。海は大体、夏水温が高いのが重なってきて、汚れるもんでのん。豊川（とよがわ）でも、この辺でも白くなるときあるよ。ほうとアサリが死んじまうじゃん。赤潮っちうんでのん。赤潮のうちはいいいけど、今度白っぽい青潮になると、アサリが全滅になる。ここんとこいつもそうだよ。去年も冬になって全滅なっちゃったのん。ほいで今年また湧いて今採っとる。ほいで大きいアサリが全然ないだよ。

まああんた、考えたってどうしようもないもん。漁業権なくなっちゃっただもんだい。それが本音。漁で何してなんてことは考えん。こっから出や罰金のがえらいだもんだい。出る必要ないだもんだい。しょうがないもん、考えても。

※磯角建網漁は、回遊する魚の通り道に網を仕掛ける定置網漁のひとつで、網の先端が袋状で、中に入って出られなくなった魚を捕まる。（碧南市資料より）

【浜で稼ぐ仕事もこれで終わり】

まあ漁師は終わりですわ、これで。

もうないでしょうね。そう思いますよ。息子も孫も、それぞれ違った仕事に進んでますしね。もう、「昔は、おじいさんもまたそのおじいさんも浜で仕事をしとった」っっちゃうぐらいの話になっちゃっただろうね。ほいでもまあ、あんな波のえらい中で仕事するようなことを息子にさせなくても済むっっちゃうことも、一つの時代として、いいんじゃないかなと思うね。

苦しいこと多いです。そや何遍わしはもうだめだなと思ったことがあるか分からんもんね。一度なんかはね。白魚っちゃう、やさしい魚ですわね、昔天皇陛下にここで捕れる白魚を献上したことがあるですよ。そのぐらいやさしい、おいしい魚ですけど、私その魚を捕り行っとして。それが冬に捕れるでしょう、寒いときにね。ほいで、舟の上に夜中おって、デッキの中に入って寝るわけですよ。潮は6時間半おきに満ちたり引いたりするもんですから、網を交換して向きを変えてやらにやらんですわ。そのまま置きゃあぐるぐる巻きになっちゃうもんで。そのために舟に寝とったんだねえ。ほいで、たまたま炭を入れて寝とったんだけど、火が消えちゃって。で、豆炭の結構に熾してこたつの中に入れてあるやつを、無意識にコンロの中に入れてちゃって寝ちゃって。

そのまま、朝んなっても私が起きんもんですから、隣（の舟）の人が起こしに来たときにはもうしょうがなかった。家（うち）い来たの知らなんだ。ほいで、医者が手を握っとしてねえ、何しとるんだらうと思つたら、「お、しおがついたぞ、こりゃ」って。もう30分も知らんどりゃあ、そのときが最期だったでしょうね。一人でおつたらだめだったわね。まだ長男が2年生か3年生だったよ。

いろいろなことがありました。ほいだから、わしはいつも、海は恐ろしいと思う。

海苔をやめたのは、平成4年か5年ぐらいだろうな。もうこれ（浄化センター）ができてとったよ。漁業補償があったでしょう。もうここは海苔がやれないと。で、県のほうでは転業せよ転業せよっていう。だから、もう息子に海苔をあれせるなんて気はないでしょう。自分はいまさら改めて転業なんてできやへんから、まあ浜で暮らすけど、お前はほかの仕事をやれっっちゃうことで。

アサリもその時分までだね。もう漁場が汚染されておって。

【前芝の秋 氏神様の祭り】

前芝の人は昔は漁をするためにここに移住してきた。ほんだから、生粋の弥生時代からおつたっっちゃう人は一人もないわけ。全部よそから、隣の小境町、今の豊川市や新城方面、八名郡のほうから、漁をするためにここへ来た。

秋、9月の20日時分に海苔の種付けをして、11月末に海苔を取り出すもんですから、ちょうどその中間の10月の15日に祭礼をやった。神明社は一応前芝村の氏神様ですから、そのお宮様に対して、海苔の安全とか海上安全とかお願いする。

河岸は幟（のぼり）だらけになるの。立派ですよ。昔の海苔の船着場に。一番、二番、三番、段戸河岸、宮河岸、浜宮河岸、十二番河岸……。幟には「奉獻前芝神明社」、ほいから、「一番河岸」「二番河岸」「段留め河岸」とか「青木河岸」とか「宮河岸」と書いたる。

今は400以上あるが、昔は280戸ぐらいの海苔業者（生産者）がおつたです。それが舟を着けるところに、お祭りのときに、海上安全を願って（豊川放水路の）河岸へ幟を立てた。今は海苔をや

っとる関係ないけど、そのしきたりがいまだに残って、そこの住民がその河岸河岸でみんな幟を立てる。たとえば前芝に1番組から2番組、3番組ってあるでしょ、そうすると1番組の人は自分の河岸の前の幟を立てる。4番、5番組は豊川放水路の河岸に着いとらん(河岸から離れた奥にある)。そこは3番と共同で。もともとは舟を着けたところが基準になる。舟を着けるところから遠い人も、自分の着けたところが5番組だったら、5番組の段戸目(だんどめ)河岸へ幟を立てる。

御神輿はこのお宮様のところから出る。前芝で1つ。お宮様るところから、神様をお神輿に乗して、堤防の畔(くろ)の公園のところへ一遍行って、前芝中を見てもらう。神様を東向きにして、橋のほうを向けて、村人がみんな寄って、子どもに神輿を躍らせる。ほいで、いろいろな旗から行列を作っていくの。これが前芝の祭りです。幟を片付けると、組日待ちってお日待ちをやったわけです。

【組の運営と祭りの費用】

ここで一番偉いのは総代さん。総代さんは前芝に1人。副総代が1人。組長さんは、その組の人が選挙で出して、組で1人で13人。

神明社は前芝町が管理しとった。神明社のお祭りは、総代さんが計画を立てる。ほんで、祭典係が6人おるんですよ。前芝の総代さんと組長が、今年は誰と誰と誰を祭典係にしようかっちゃうこと。8月になれば、祭典係がもうぼちぼち仕事始めますよ。今年のお祭りはどうしてやろうかって。市民館の2階でね。お前は旗持てとか、お前は姉さまのお供しよとか、前芝中の人全部に役割を与える。

お祭りのお金は組費と、駐車場の料金と、舟の繋留費から出す。

お宮様(神明社)に駐車場があるでしょ。市民館(神明社の隣にある)もお宮様の土地だ。豊橋市は市民館を建てるためには、なにやかのお金をお宮様に払っとるんですよ。駐車場は月にいくらって、一応お宮様に払っとる。

ほで、船着場(市民館近くの舟溜)は、地元の人今海苔やめっちゃったから前芝の舟は少ないでしょ。そこだけで十分ぐらいだもんで、ここは豊橋のほうのレジャーボートとかが多いんですわ。だから月にだか年にだか徴収方法は知らんけど市からお金をもらって、そういう金が町と前芝のお宮様へ入ってくる。その金がお宮様の祭典で使われる。

それで、なおかつ不足分が、一般の村民から。今どこでもそうだろうけど、神仏を信仰するっちゃうことは、自由でしょう。お宮様を強制的に信仰せにゃならんっちゃうわけじゃないもんで、「おら嫌だ、そんな祭典費なんか払わんよ」ってや、強制的に取るわけにゃいかん。ほいだもんでやっぱりこういうものが必要になってくる。そいでないと、お祭りができないの。払わん人があるてっても、大字前芝で支障をきたすような不払いじゃない。

【ヨシの間に舟を繋いだ】

舟溜は、舟を入れるとこ。

加藤新田は地続きじゃなかったの。島になっとったの。このときには(加藤新田側の)舟溜はなかった。前芝大橋は昔はもう200メートルぐらい下へあったです。この橋を作るについて、その条件として、じゃあここ(加藤新田側)へ舟溜を作ってくださいって国土交通省に頼んで作ってもらったの。

昔はねえ、ここ(加藤新田の先端)にヨシがいっぱい生えとったの。ほんだもんで、舟が置けたの。ヨシがあると舟が流れてかない。今みたいに、そんな、大きな水が出たら、ヨシなんかあってもなくても関係ないわね。あの当時は、この川はさほど水がなかったの。ほんで、みんなヨシの間

(あい) さの中へ舟を入れて避難さしたもんだったよ。ほいで、ちょっと下にでっぱりがあったもんですから、水は上のほうから来るし、勢いは止まって、そこへ舟は置けたわけです。今みたいに放水路じゃないでしょ。たとえ上のほうで大雨が降っても、全部豊川（とよがわ）へ流れとったと思うんです。小さな川だから舟が置けたんです。

ほんだけど、豊川の放水路を作ったために、一直線になっちゃった（※堤防を作って加藤新田を干拓した）でしょう。もうヨシ浜なしになっちゃったでしょ。ほんで水が鳳来町のほうから直接ダ一とくるでしょう。昔の小さな川じゃないもんですから。舟なん置けやへんです。

ほんで、この放水路を作る条件として、漁民の舟を安全に避難させる場所を作ってくださいということで、建設省がここんとこへ作ってくれた。

【浜宮は漁の神様】

浜宮っていうのは、海苔の神様。

お祭りは旧暦の2月の10日。2月っちゃうと、新暦でいうと3月の終わりごろになるでしょ。そうすると、海苔が終わるわ、1年しっかり儲けたから、浜宮さんのお礼のお祭りをやろうじゃないかってことで、2月に決めたった。今は4月の第1日曜にやる。

浜宮さまは、今は前芝町が管理しとるけど、当時は前芝の漁業組合が費用からお祭りから全部やとった。

浜宮さんのお祭りは、幟を立てて餅投げをしてね。

海苔が盛んに採れた当時は、ここ（神明社）に昔は舞台があったですわ。市民館の向こうの自動車の置いたるところからこっちの裏、大きな舞台だったですよ。壁もあったし瓦葺で壁のある大きな舞台だったけど、こっちの観客のほうは、昔は屋根がなかったけどね、途中から屋根を作って。終戦後、鉄骨でね、作った。そこで、浪花節をやったりね。お供えものは、姉（ねえ）さまが来てやる。こちらの前芝のお祭りと同じように、海のものや山のもの、いろいろなものをお供えして。

それからぼつぼつ、まあお祭りが済んで海苔を片付けると4月だねえ。そうすると、アサリも採らなならん、そいで海苔場の整理が済んでやれやれと思う時分になると、もう5月、6月になる。6月になるとヨシを刈りに行かにならん。

【青年団の共有財産 加藤新田のヨシ】

ヨシは、使っとりました。海苔を製品にするときに海苔を干す、よしずを作るために。

加藤新田のヨシは、土地の青年団が管理しとった。講を持つとるのは青年。漁民誰が行って刈ってもいいんじゃ管理ができないでしょう。一応青年に管理させとけば、みんな、あれは青年のもんだからっちゃうんで刈りに行かんでしょ。

ほんで、ある時期になると、そのヨシを青年が入札せるわけです。このヨシを今年は100円で売りましようとか60円で売りましようとか。昔60円あったら、青年としてもいろいろな費用もできる。

村の有力者、代表者が、青年団の団長なり幹部と交渉する。話をするとということになると誰でもいいっちゃうことはない。そういう話の上手な人もあるし、青年と心安い人もあるだろうし、俺の言うことなら何でも聞いてくれるという人もあるでしょう。そういうことで、じゃあ俺が行って話をせるわってなことで。

青年が、「どうだまあ、60円ぐらいじゃあ」って。「60円じゃ高いなあ、50円にしてくれ」。青年も銭がないで、費用がいるし、ほんとは60円ぐらいはほしいけど、「まあ、じゃあ中を取って55

円ぐらいでどうだ」っちうようなことだ。一応、青年も村の人でしょう。村の有力者が 50 円にしとけて言やあ、まあ 5 円ほいじゃあなんとかしてくれよってようなことで、入札っていったところで、話し合いでしたわ。

ほいで話がついたでなあっちうと、今度はほかの漁民の人んとか、俺も仲間んしてくれ、俺も仲間んしてくれっちうことで、名前を書いとく。

ほうしたら今度は（新暦）7月の3日とか4日とか日を決めて、ほんじゃあヨシを刈ろうということ、その仲間んかった人んとうが行ってヨシを刈る。ちょうどその時分は入梅時期ではあるけども、ヨシもある程度伸びて順に硬くなってくる。若いし。簾編むに、6月7月時分のヨシが一番良かったです。

浜は朝から晩までいつでもいいっちうんじゃない。加藤新田でも、浜に近いから潮時がある。豊川（とよがわ）の上（かみ）ならいざしらず、河口でしょ。ほいだから満ち上がりでは仕事ができないです。潮の引いとるときに刈る。1日潮の次は12日潮だね。「今日は12日潮だでほいじゃあ9時頃から始めるか」ってというようなことで。

ほいで、その出た人がみんな刈って、みんなに分ける。全戸じゃないよ。そこへ集まって名前を書いた人だけ。平等に分ける。ほいでうちへ持ってって、葉を落として、束ねて、長さに切って干いとくわけ。

【ヨシズの生産販売】

前芝の人はヨシズ作りをやった。漁師どこですか。

吉川とか渡津の人んとは百姓が大きいでしょう。ところが前芝は平均すると2、3反しか田んぼ、畑がない。だから、ヨシを、ここだけでなく、名古屋や刈谷の周りまで行って刈ってきて、簾を編んでそれを売ったんだ。

前芝の人みんなじゃない。そういう人が多かったっちうことだね。うちは、使うだけは作ってあったけど、作ったものを売るなんちうあれはなかった。買ったこともないけど、売ったこともなかった。

加藤新田のヨシは入札で落とすんだけど、名古屋の稲永（いなえい）埠頭や、大阪のほうまでも泊り込みでヨシを刈り行った人がある。わしは行かなんだけど。その人んとうは個人個人で行って宿屋へ泊まるとか親戚へ泊まるとかいろいろなことをして、そちらでヨシを刈って作って持ってきた。ただヨシを刈る分で行った人は、刈ったやつを束ねて、トラックへ積んでうちへ持ってきた。

うちで女から子どもから総出で製品にして、それを天日で干して、乾燥させてね。

名古屋とか大阪とか遠くへ行く人は、40センチぐらいにみな切っちゃうんだ。切って、製品にしてから持ってくる。ヨシズ1つ分ぐらいずつ束ねて、チッキ（鉄道小荷物）で送るとか、トラック便で持ってくるとか。かさが少ないもんで。刈った分のやつはそやあ大きいけど、作っても数はないですわ。ほいだけど、そうして製品にしたやつはたくさん持ってくるでしょ、いっぺんに千枚とか二千枚とかね。

そうせると、もう7月の半ば頃にやあまあそれも終わる。

長さに切ってから干す。軒先へ竿をやって、架ける。

ほいで、夏休みの終わり頃になると、子どもから一家総動員で簾を編む。漁師のおばあさんとうの内職だねえ。若い者がそんなものやっちゃあおれえへんもんで。1年生でも編んだ子もあるよ。1枚編むと50銭とか10銭とか。1枚ったって、そうだねえ、板海苔の両方へ3センチぐらいのすきまがあるぐらいの大きさ。

ヨシをつなぐひもは、綿糸でやっつけたけどねえ（蒲郡などの三州綿を使った）。

【青海苔】

青海苔も、板にする。ここは全部。三重県のほうは、バラで佃煮用とか今しとるけど。ここらへんでは水質が悪くなって、海苔は採れたけど青海苔は採れんっちゃう、最後はそうになりましたよ。平成、昭和の終わりから平成の時分には、もう青海苔は全然採れなんだ。

青海苔と海苔は同じところへ着くだけど、ある程度水温が昇ってこんと青海苔は着かん。時期が違うんです。海苔の最適水温は10度前後だけどね、青海苔はもう少し高いです。

それが、古い簾だとね、製品にしても、破れちゃうんです。すの表面のつるつるのあれが取れる。ずいぶん海苔で使った後使うでしょ、それじゃあよかないっちゃうわけ。

【熊本産の簾に代わる】

簾を作るのも大変ですよ。子どもなんかそりゃあまあ、いい小遣い稼ぎになったかもしれんけど、大体親がくれる銭だもんでしれとるがね。たくさんくれるわけないでしょ。

よしず（が使えるの）はいいとこ2年だね。特に、青海苔の場合は、古くなったらめくれんですわ。いらなくなった簾は、燃やすんだ。

ところが、こんだ、九州の周りから、クマザサっちゃうだか、笹で作った簾が出てきて、結局ヨシズよりも値段的にいってもいいし、製品を作ってもそのほうがよくできるし、それに代わっちゃって。熊本の簾が入ったのは、乾燥せる機械が入ってからだな。ほいだもんで、網が入ってからだ。

ところが、それに代わったところが、それよりもまだ化繊のほうがいいぞっちゃうことで。ほんだもんで、わしらがやめる最後時分には、大きな名だたるメーカーが簾を作って売とった。

【粗朶から網へ】

海苔網を使い出したのは、昭和30年代の初めごろじゃないかな。三谷（みや）の試験場が試験をやったんでしょ。そうしたら粗朶より網のほうがたくさん採れたんだと。だから漁民のみんなもやりなさいっちゃうようなことで。

粗朶の場合だと、新城からあっちのほうからカシの木とか竹を買ってきて、葉を一枚一枚みしくる（むしり取る）んですよ。女から子どもからねえ。男はそれをなたで9尺なら9尺、1丈なら1丈の長さに切って、それを4本から5本束ねて。

それを小潮にやる。大潮のときにゃあ（アサリ漁などで）浜に行く。だから忙しいの。休みがない。前芝に日曜はないですよ。昔兵隊さんが月月火水木金金って言ったけど、あのとおり。日曜日なんて月給取りのやることで、わしらそんなことしたら食っちゃあいけんわ。

網になってだんだんほりゃあ楽になったねえ。

網の大きさは4尺の10間。九州は6尺の10間だけどね。九州とこことは違うです。

九州は、海苔を作るのは最適などこなんです。干満が大きい。こことはものすごい違う。干満が大きいっちゃうことは潮の流れがあるっちゃうこと。ほいだもんだい、地元がほんなこと言っちゃあいかなけど、ここの海苔は佐賀（有明）の海苔にはかなわん。味から製品から言ってねえ。ここらへんで百枚3千円なら最高ですよ。ところがね、品評会で佐賀の海苔が最高が1万円。わしらが見やあ、そんな3倍の値がする価値があるかなと思うけどが、やっぱりね、需要と供給でき、1万円のほうがいいっちゃう人があるんだもん。

始まったのはここが先。東京の羽田が一番先だけどねえ。

最初はナイロンじゃなくてヤシ網、ヤシの繊維だったですよ。ヤシの繊維を、外国から来るに、圧縮して梱包してくる。80キロぐらいあったのかなあ、とにかく提がらなんだ（持ち上げられなかった）もんね。組合に荷が入ると、組合で20キロなら20キロ、30キロなら30キロ、注文取る。それを分けてもらってきて、もとはうちで網を編んだですよ。ヤシの繊維、ひもを買って。男も女も関係ないですよ。みんなでやる。海苔の仕事なんてね、まあ男の仕事っちうのもあるこたあるけど、大体やることは男も女も一緒です。

製品になったやつもあったよ。豊橋の網屋さんがあってね、そこで一枚いくらってヤシ網も売ってとった。町の女の人手とが作ったんでしょね。前芝じゃ買う人はなかったね。ほとんどうちで作った。

ヤシの網は、(使えるのは) 1年だねえまあ。ほやあ2年使う人もあるけどね、もう2年目になったら、弱いものは弱いでしょ、化繊のようなこたない。せっかく海へ張るにだねえ、あんなもの2年も使うっていう人はあんまりなかったと思う。終わったらどうしたんだろうなあ。まあ、燃やしちゃったんだろうねえ。

ほれでそのうちに化繊の網ができる。9月の20日には種付けせやならん。その前に網も繕わやならん、簾も編まやならん。やる仕事ばっかでしょ。ところが、一枚いくらだった知らんけど、化繊にもう親網(網の両方にある太い網)をちゃんと付けて種を付けれる分にした網は、1枚千円近くで買えた。ほやもうそのほうがいいわっちうことで。

ナイロン(化繊)の網は、使う人は何年でも使ったねえ。毎年っちうわけにはいかんけど、3年ぐらいは使った。楽になったけど、やっぱり新品のほうが操作も楽だし、ナイロンでも、丈夫なっっていても、やっと(長い間)使うと破れるのもある。機械で採るでしょう。昔は手で採ったんだけど。機械でやると、破れとればそこが入っちゃう。で、海苔そのものが食品でしょう。ねえ。そんなものが入ったものは売れやへん。ほうと、もう、作ったものがゼロなっちゃうでしょう。少しばかり網を始末して(儉約して)、売れんものを作ったって仕方がないもん。

古い(使用済みの)化繊の網、売れるよ。今でも売っとるよ。キュウリや、野菜をやるに、手(つるを絡ませたりもたれかけさせたりするもの)にせるにいいでしょ。ほいだから、お百姓さんとうが買いい来る。1枚百円ぐらいにゃあ売れますよ。捨(ふ)てちゃあもったいない。捨てる必要ない。中には売りに行った人もあるよ。ここらへんならわした1枚百円で売ったけど、なかなか商売上手な人は、山へ持ってきやあ、山で買う人はいくらで買ったか知らん。とにかく費用になるように持ってったんでしょ。

【海苔とハマグリで生きていく】

冬は海苔で銭が入る。

ほいだから、前芝で不作で海苔が採れなんだなんてったら、えらいことだねえ、そりゃ。海苔の採れない年にゃあねえ、みな日傭(ひよう)取りでさあ、どこたに行ったりやあ、ほんで、女の人は女の人で、今みたいにパートで働き出るとか。そりゃあ火の消えたようなもんですよ。

採れない年もあったよ。それは、昭和の40年以後だね。非常に、海苔が採れんで、わしらもその当時、トヨタ(田原のトヨタ自動車の工場)のほうまでも仕事に行きましたよ。その前はなかった。そんな海苔が採れんでみんなが働き出たなんてこたあなかったな。昔は、ある程度海苔の多少、豊作不作はあったけど、凶作で採れなんだなんちうこたあなかった。

田んぼのない人もあったよ。そういう人は、夏じゅうね、ハマグリを採るの。

ほいだからね、前芝の女の人ハハマグリ採るの上手なっったよ。たとえ一銭もなくとも、明日浜

へ行きゃあ銭があるっちう。そりゃああんた、浜行ってハマグリを採ってくりゃあ、一家が養えるだけのもの十分に採れた。すごい金になったですよ。多い人は1斗5升ぐいらいずつ採ってきたで。

うちは今でこそ田地は全然ないけど、その当時1町以上あったもんですから、働かされた方だね。今では大体10俵普通とるわねえ。あの当時は5俵6俵が普通。2反あれば家族は養える。自分で食うだけのものはうちで作るだけだった。

そりゃああんた、百姓やったりゃあね、昔は朝は暗いうちに出て、昼間握り飯を食べて、また晩にゃあ暗くなならぬ帰れなんだでしょう。ねえ。

浜でハマグリとつとる人んとうは、もう日が暮れる時分なら、銭湯行って、わしらが帰って来る時分にゃあ、手ぬぐい肩にかけてねえ、団扇で帰ってくる。そりゃあその方がよっぽどいい暮らしだなあと思ったもの。

ほいだから、けななかったよ、みんなが。暗くなる時分に帰ってくると、みんな、手を肩に置いてさ、ぶらんぶらん帰ってくるでしょう、なんていい生活だろうと思って、けななかったな。

田んぼがありゃあ、それを人に預けて、俺もほいじゃあハマグリ採ろうかなんていうことにはならんもん。

ほいだから、田んぼやらなくなつて、浜へ行きさえせりゃあ銭になる。前芝じゃ、田畑が全然ないっちう人はたくさんある。かえってその人の方が暮らしがよかつたわね。

【宵越しの金は持たない前芝】

そりゃあ生活は派手だったねえ、前芝は。宵越しの金は持たん。

元の前芝村に、前芝と梅藪と日色野と三字(あざ)あるですよ。三字の人の性質がぜんぜん違う。日色野っちうところは、海苔はやるわ、百姓はやるわで。百姓はもう1町いかくなの土地を持っている。ほいでもう嫁さんはただ働いて始末をして(儉約して)。だから、雪だるま式に自然に大きくなってっちゃうわねえ。畑(はた)やって、海苔を採つとる。アサリやハマグリは採らなんだね。ただ、今で言う種子(たねこ)、小さなアサリを採るときには、日色野の人んたも九ノ浜へ来たけど、ハマグリで、アサリで生活せえなんちうと、とてもじゃない。百姓一本。そいで海苔は採る。普通、百姓どこの人は冬場は割合暇なもんでしょ。ところがこの人は、そのとき海苔専門。遊ぶ暇ない。ほいだから日色野が一番裕福なの。

梅藪っちうところはまた働きの一点張り。競争。海苔を採り行くでしょう。今日は風がえらいでと思って普通みんなやめるでしょう。ほいだけど、風のえらいときでも、隣の人が行くとみな行ってさあ、海苔が採れにゃあ海苔網をはずして籠に入れてくる。で、「ああ、あその人は偉いわ、海苔を落とした」って。そのぐらい競争意識が強いとこ。

前芝は競争意識は強くない。隣の人がたくさん採ってくれば、「ああ、あの人は偉いなあ。こんなえらい日に行っただか」ちうわけ。宵からお風呂入ってさあ。前芝の人は正直なとこ、銭がない。一銭もないから、明日浜行きやなんとかなるわって、そういうとこだったです。

日色野とか梅藪の人んとうは、菜っ葉や大根食つとったんだけど、前芝っちうところはねえ、買ったものが好きだった。前芝には店が3軒もあってさ、結構いろいろなもの売つとって、そういうもの食つとったね。日色野や梅藪の人のこと思うと、前芝の人は生活程度が上だっていやあ上だとも言えるけど、贅沢だつてやあ贅沢だね。同じ村であってもね、ここはやっぱり浜どこだったね。漁師町だったね。

何かお祝いがあると、店屋なんか入れへんがね、みんな満員で。いろいろなものを買って。

そやあ、お祭りだってやあアサリをとってきて、アサリを茹（う）で身にして寿司にするとか。アサリぐらいは地元のもの使うけど、マグロだとかね、いろいろな魚でも、ここではあんまり捕れないもん出すから。みな魚屋で買う。魚屋あるですよ。八百屋もあるし。一応街ですよ。

タイなんちうものは、そやあ、どっかよばれてきやあ、食べたことあるけど。買って食おうとは思わんね。嫌いじゃないけど、あんな骨の硬いねえ。サワラもいいけど、やっぱり、マグロみたいなもん（が好き）だわねえ。

ハゼなんかはね、干いて正月のお餅の出汁（だし）にするとか、まあそのぐらいの程度じゃないかな。

【海苔が採れなくなった】

海苔が採れなくなった原因は、今考えてみると密植もありましたね。海苔の業者が多かったちうこと。

浜の生産力に対して、海苔の網 130%から 150%入れておったっていうこと。それが証拠にやあ、平成何年だったか、一部の人だけがやったんです。補償金を 20%、県のほうから支給されるのをストップさせて。今まで何千人ちう人がやとった浜を、わずか 50 人ばかの人が使った。ほうしたら、自分がやりたいとこへやりたいだけやれる。しかし、いくらなんだって、自分の体力にやあ限度がある。1人で 200 柵もやったら働きすぎて死にしまうわ。ほんだで、まあおれはこなもんでもいいわなちう、自分に好きなだけずつやれた。

そうしたら豊作になる。

それまでなんかねえ、海苔は付くには付くだよ。生育せえへん。

大根や菜っ葉でもそうでしょう。畑（はた）やって、種生えますけど、ある程度間隔置かないとにやあ立派な大根にやあならんでしょう。浜でもそうですよ。千何十人ちう人が浜あやって、それで、さあ海苔を採りましようったところが、種は付きますよ。果たして伸びて、それを採って製品にできるか。

試験場は言とったですわ。濘を広くしろとか、枚数を減らせとか。1軒で 60 から 70 柵ぐらいやとったんです。それを平均の 20 柵にしようとかねえ。濘を 100 メーター一位にしよ、5つあるとこ 3つぐらいにしよ、そうせや何とかなるだろうちう。そうしてやったけどが、まんだまんだ、結局浜の活力に相当するだけの網を減らすことはできなんだ。ところが 50 人ばかでやったら良かった。

試験場は、生活できないぐらいの程度に減らせちうことだったんだ。そうせりやあ何とかなるだろうちうことだったけど、お互いに生活しとるでしょう。

試験場のためにみんな生きとるんじゃないだもんで。「はいそうですか」なんて聞けないでしょう。ほんで、組合長も試験場へ「何とかならんか」って言う。試験場は「何とかならんかってたって、わしらの浜じゃない、わしらはあんたんとうに助言をするだけど、強制力ありませんよ」ちう。「ほいじゃあやらさせますので指導のほうはよろしく頼む」ちう。ある程度の人がやめてくればいいのは分かるとるけど、お互いにそれで生活しとるもの、そんな勝手なこと言えないでしょう。

ほいだもんで、一応浜が汚れたってことだったけど、そりやあ確かに浜は汚れとっただろうけど、最大の原因は密植だった。実際 50 人でやってみたら海苔が採れたちうことは確かだよ。結局、試験場の言うことが正しかっただね。



図 4-35 : 「聞き書き」により明らかになった要素と前芝地区の空間との関係(広域)

イ) まとめ

①調査対象者の生活・生業史

前芝地区では、アサリ・ハマグリなどの近海漁業やノリ養殖業を中心とした暮らしが営まれてきた。

表 4-29：調査対象者の生活・生業史（年表）

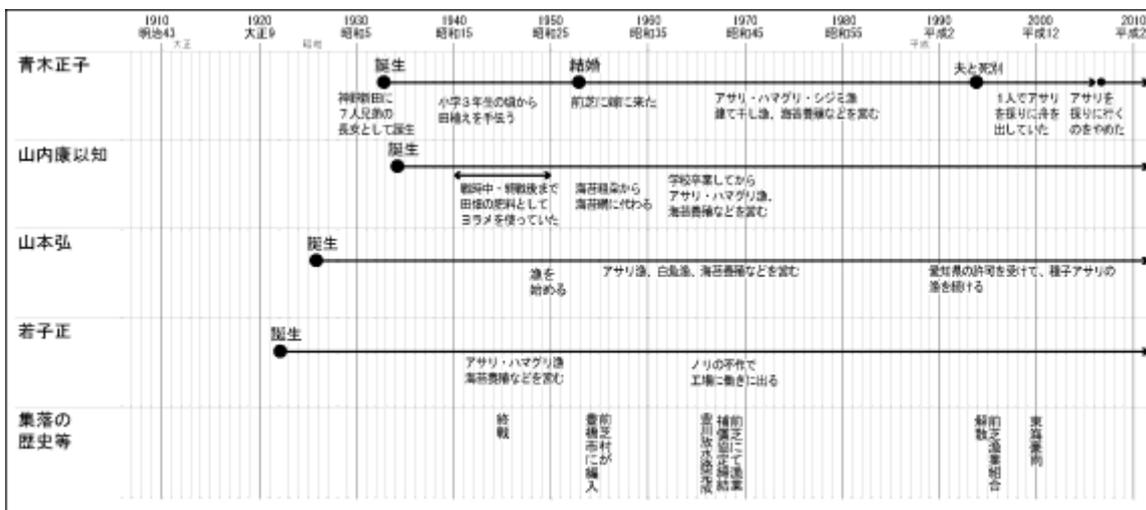
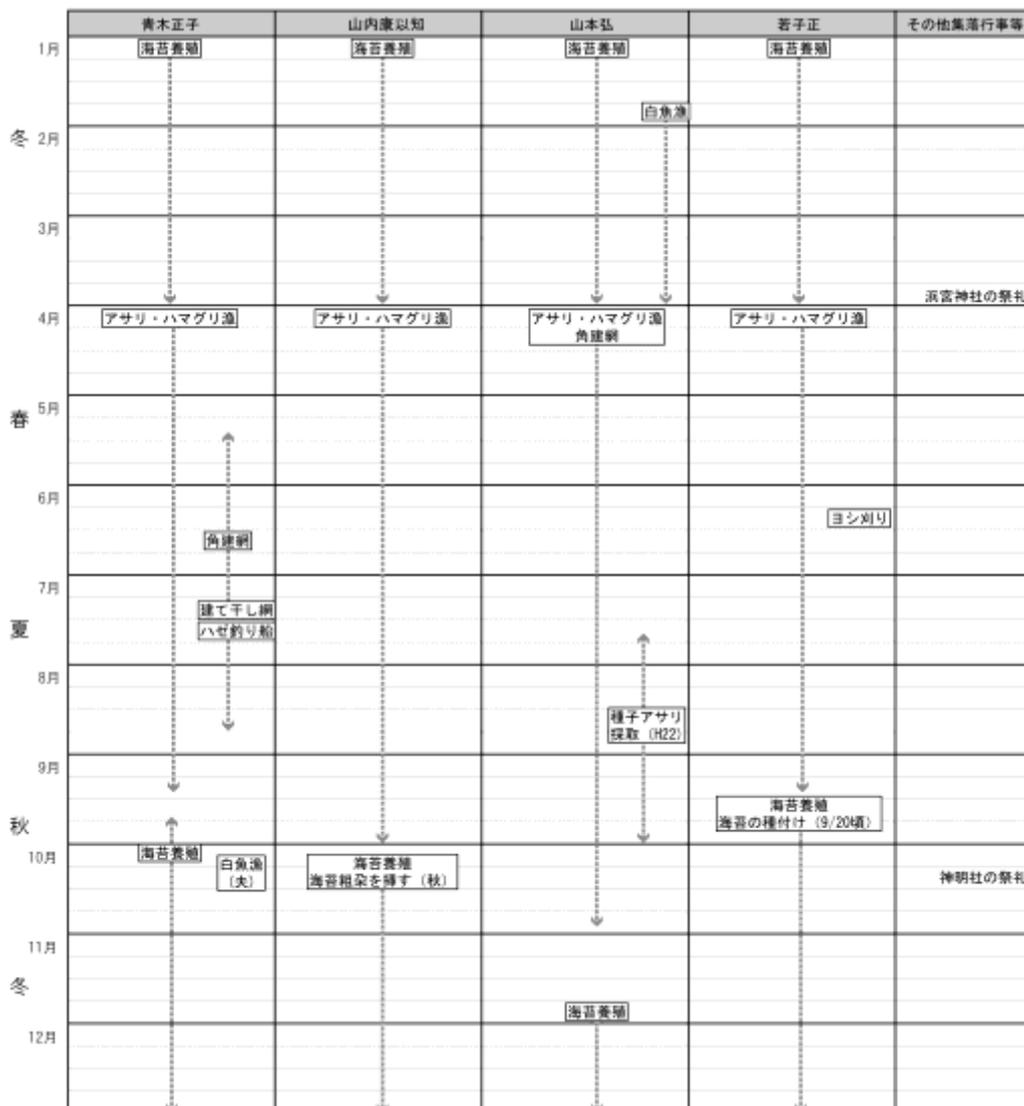


表 4-30：調査対象者の生活・生業史（年間スケジュール）



②海の資源の持続的な利用

前芝地区は、アサリやハマグリ、ヨラメなどの貝類、海苔、白魚、エビ、カニなど多様な水産資源に恵まれ、口明や採取して良い日の設定などの資源利用のルールを定めることにより資源を持続的に利用してきた。

資源を利用するにあたり、「ハマグリ」を見つけてハマグリを採取することや「水が差す」ところのカキの味が良いなど、海や川の環境を読む知恵が継承されてきた。

また、ヨラメを乾燥・粉砕して田畑の肥料に使い、ヨシを採取してヨシズを作り海苔を干すなど、海や里の資源を多目的に使うことにより生業や暮らしを維持してきた。

三河湾沿岸部の埋立てによって、アサリの稚貝の採取以外は、現状では生業として成立していないが、持続的な資源利用の知恵は継承されている。

表 4-31：自然資源の持続的な利用

	名称/呼称	時期	概要(特徴、場所、料理や工芸品への活用)	現状の状況	資源利用のルール・慣習	関係する生業	話し手
1	アサリ	4月 ～ 9月	元手がいらす最も効率的な漁。春先に種子を売った。種子はどこかで生まれたものが流れ着く。今でも県の許可をとり種子採取している。昔は、主に剥き身を、佃煮やしぐれなどに加工して出荷した。「アサリの目」をみつけてカクワで採取した。	ほとんどの人が漁業権を放棄したが、6,7人が継続している。	貝の大きさ次第で種子または食用としての出荷を判断した。入会漁場で口明が決まっていた。	漁業	青木正子 山内康以知 山本弘
2	ハマグリ	4月 ～ 9月	豊川河口に朝潮(小潮)の唇にわいた。上手な人は、一日で一斗採取した。「ハマグリ」を見つけてカクワで採取した。		組合の人のみ漁ができた。	漁業	青木正子 山内康以知
3	海苔	10月 ～ 3月	干潮に仕事した。粗朶から海苔を手でむした。出荷は総て板海苔。昭和40年頃まで手漉きだった。昭和の終わりまでは青海苔もとれた。		入会漁場で口明が決まっていた	漁業	青木正子 山内康以知 山本弘 若子正
4	シジミ		シジミは浅いところにいる。シジミを探るには労力がある			漁業	青木正子
5	カキ		カキは沖のほうがいい。「水が差す」ところが味がよい。			漁業	青木正子
6	白魚	1月 ～	夜に舟を出していた。昔は定置網だったが、刺し網になった。			漁業	青木正子 山本弘
7	ヨラメ		タニシに形状がよく似た貝。戦中・戦後には、乾燥・粉砕して田畑の肥料にした。		採取して良い日が組合で決まっていた。	漁業 稲作 畑作	青木正子 山内康以知
8	エビ、カニ、 セイゴ		角建網で捕獲した。			漁業	山本弘
9	カシの木		海苔粗朶に利用。戦前は笹、竹だった。山の方から買った。	昭和30年ごろに椰子網、その後化学繊維網に代わった		漁業	青木正子 山内康以知
10	ヨシ	6月	海苔干し用のよしずを作るために採取。取。主に加藤新田で採取した。	熊本産の簾に代わった	採取して良い日が決まっていた。	漁業	若子正

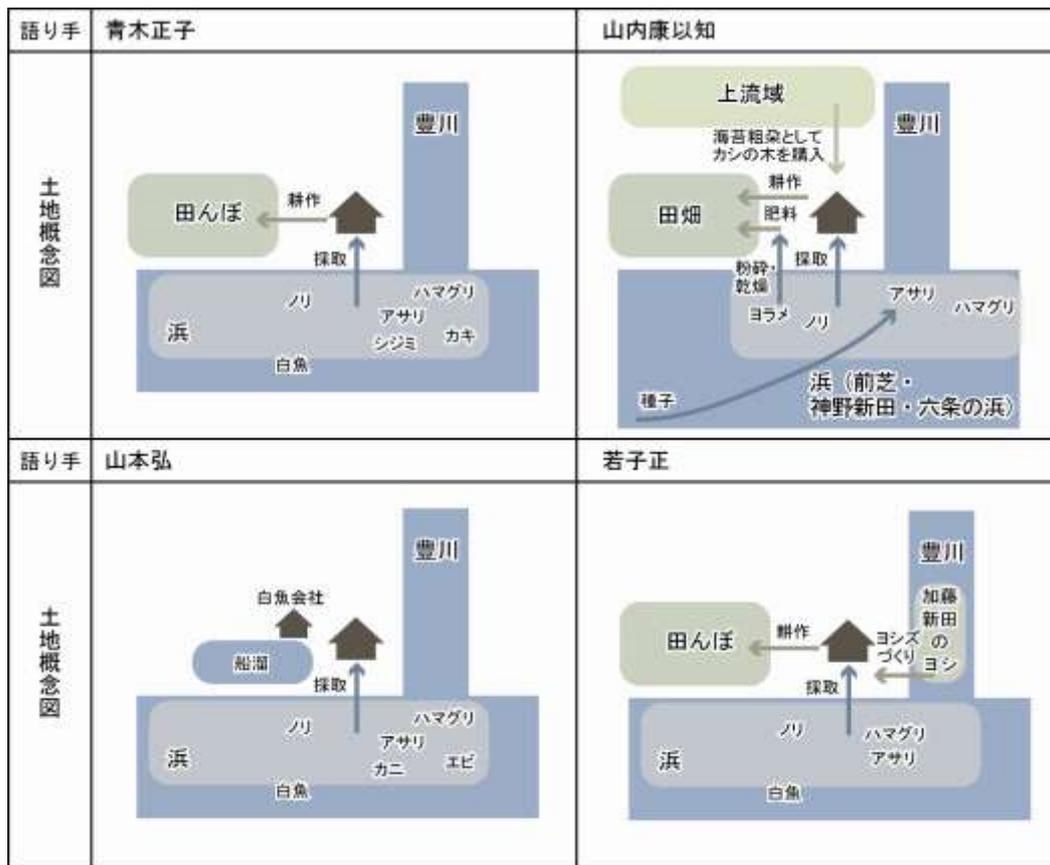


図 4-36：土地利用概念図

③地区の生業に関わる各種活動

前芝地区では、かつては、いくつかの村が共同で管理する入会漁場のほか、建て干し網のグループや船溜所有のグループなどの小さな社会組織が組織され、資源利用のルールや慣習により資源を持続的に利用してきた。

表 4-32：集落の維持・管理活動

	名称・通称	組織の目的	概要 (成り立ち・当時の状況)	構成 (人数、メンバーの特徴)	継続の有無 (消滅要因)	話し手
ア	入会漁業 (五ヶ組合・ 七ヶ組合)	西浜の入会漁業の管理。	漁期(口明など)等、入会漁場の管理を行う。	前芝、日色野、梅敷、平井、伊奈の五ヶ村。さらに牟呂、御津を加えた七ヶ村。	消滅	山内康以知
イ	建て干し網のグループ	建て干し網の実施	前芝館、大長館などの旅館と連携して、観光客向けに建て干し漁を営む。ボラが多く網にかかる。	建て干しの仲間、権利がある人	消滅	青木正子
ウ	アサリ協会	アサリの稚貝の管理	アサリの種子の注文を受けて、権利を持つ漁業者へ連絡する。	牟呂と前芝地区で構成	継続	青木正子
エ	船溜の所有グループ	船溜の所有・管理	海岸の杭に船をつないだ。お金を出して仲間に入る。	市民館の近くの人が多かった。	消滅 (現在は豊橋市の管理)	山本弘
オ	神明社の祭事運営	神明社の祭事の運営	総代が役割分担や費用などの計画を立て、祭典係が中心に計画を実行する。	氏子。消防団、青年団。漁業者が中心。	継続	若子正
カ	浜宮神社の祭事運営	浜宮神社の祭事の運営	1年間の海苔の収穫を感謝する祭礼。昔は漁業組合が主催したが、現在は行政が管理している。	漁業組合関係者。	継続 (現在は豊橋市の管理)	若子正
キ	青年団 (ヨシ管理)	加藤新田のヨシの管理	海苔乾燥用のよしずを作るためのヨシを管理し、入れを実施した。	昔は入隊前の若手が青年団に入っていた。	消滅	若子正